

第316回
地震防災対策強化地域判定会

記者会見資料



平成24年8月30日

気象庁

この資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、気象庁、独立行政法人産業技術総合研究所、国土地理院、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所、横浜市及び独立行政法人海洋研究開発機構のデータを基に作成しています。

以下の資料は暫定であり、後日の調査で変更されることがあります。

目次

定例資料

1. 地震活動概況	P. 1-7
2. 注目すべき地震活動	P. 8-11
3. 活動指数	P. 12-16
4. 静穏化・活発化領域の抽出	P. 17-18
5. 領域別地震活動	P. 19-29
6. ひずみ計による地殻変動観測	P. 30-55
7. GNSS による面的地殻変動監視	P. 56-62

平成 24 年 7 月～ 8 月 26 日の主な地震活動

○ 想定震源域およびその周辺； $M \geq 3.0$ または震度 1 以上を観測した地震

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発震機構
7/29	14:23	静岡県西部	34	2.9	1	東北東－西南西に張力軸を持つ型
7/31	3:05	駿河湾南方沖	27	3.3	1	
8/5	15:24	岐阜県美濃東部	11	1.9	1	
8/7	9:57	愛知県東部	12	2.8	1	西北西－東南東に圧力軸を持つ型
8/17	3:12	愛知県西部	44	3.2	1	東西に張力軸を持つ横ずれ断層型
8/17	4:06	愛知県西部	42	3.4	1	東北東－西南西に張力軸を持つ正断層型
8/18	15:31	岐阜県美濃東部	53	3.0	1	北西－南東に張力軸を持つ型

発震機構は初動発震機構解による。

※ 深部低周波地震活動

8 月 16 日から 25 日にかけて長野県南部～愛知県で深部低周波地震活動が観測された。

○ 南関東； $M \geq 4.0$

(平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した地震については $M \geq 5.0$ のみ記述)

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
7/3	11:31	千葉県南部	88	5.2	5.2	5.1	4	西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
8/3	22:19	茨城県南部	43	4.6	4.6	4.7	4	西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
8/20	20:42	茨城県南部	57	5.2	5.2	5.0	3	北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

発震機構は初動発震機構解による。

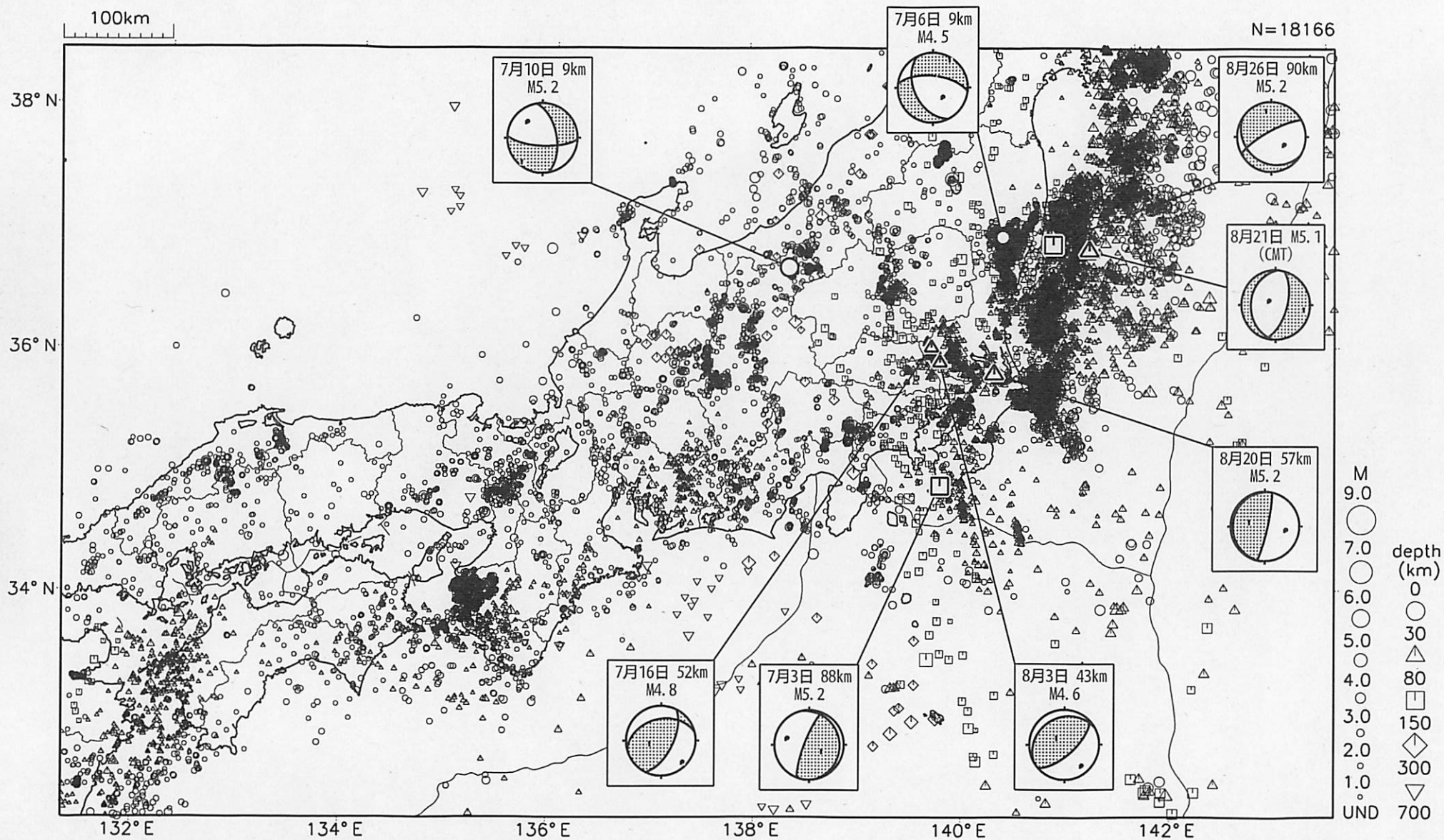
○ その他の地域； $M \geq 6.0$

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	参考		最大 震度	発震機構
					Mj	Mw		
7/8	20:33	千島列島	—	6.2	6.2	6.0	1	北西－南東に圧力軸を持つ逆断層型
8/14	11:59	オホーツク海南部	654	7.3	7.3	7.7	3	北西－南東に圧力軸を持つ逆断層型
8/25	23:16	十勝地方南部	49	6.1	6.1	5.9	5弱	北西－南東に圧力軸を持つ逆断層型

発震機構は CMT 解による。(ただし、8/25 の十勝地方南部の地震については、初動解)

Mj は従来から用いられている気象庁マグニチュード。Mw はモーメントマグニチュード。

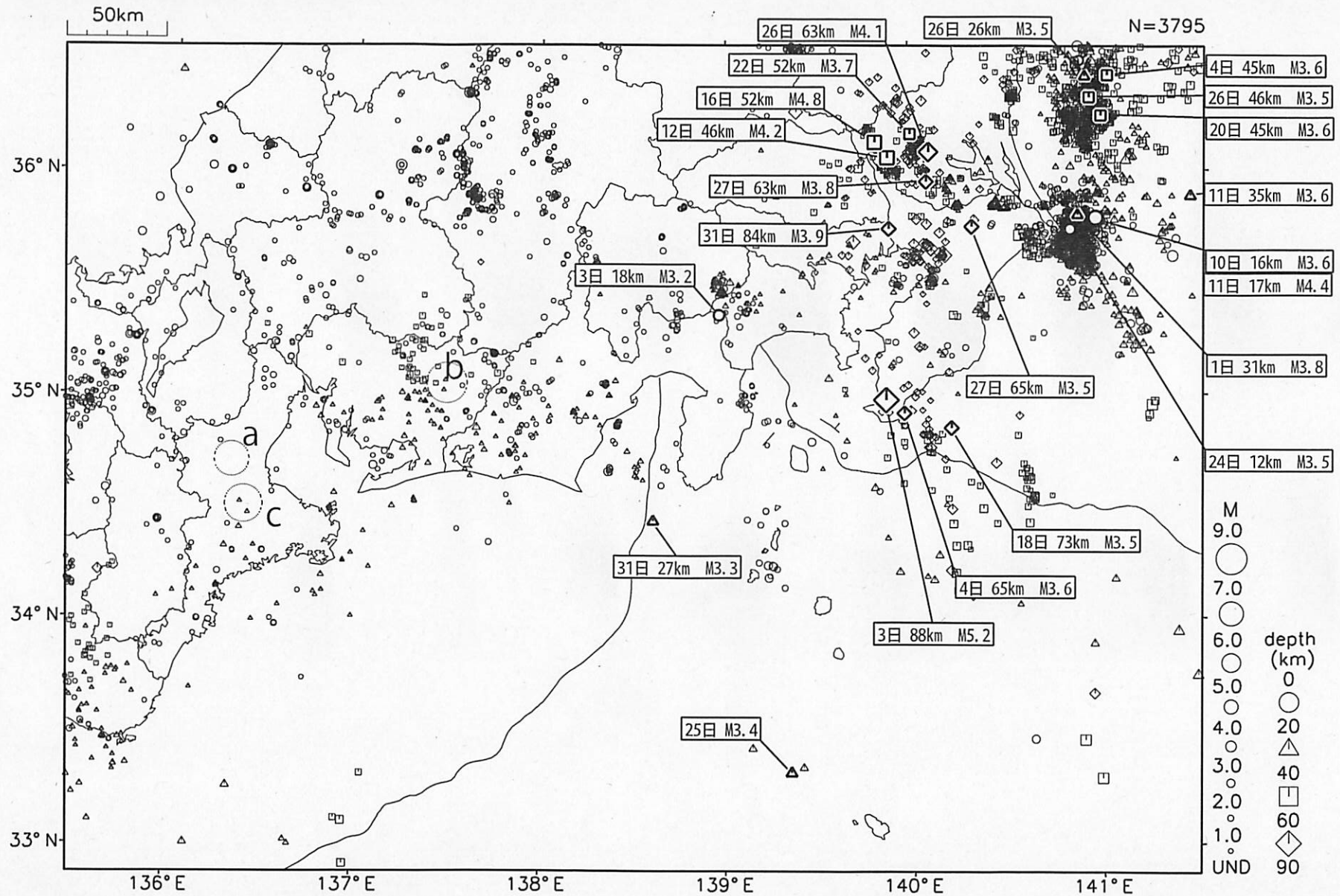
東海地方とその周辺の広域地震活動 2012年7月1日～8月26日



図中の吹き出しは、陸域M4.5以上・海域M5.0以上とその他の主な地震

気象庁作成

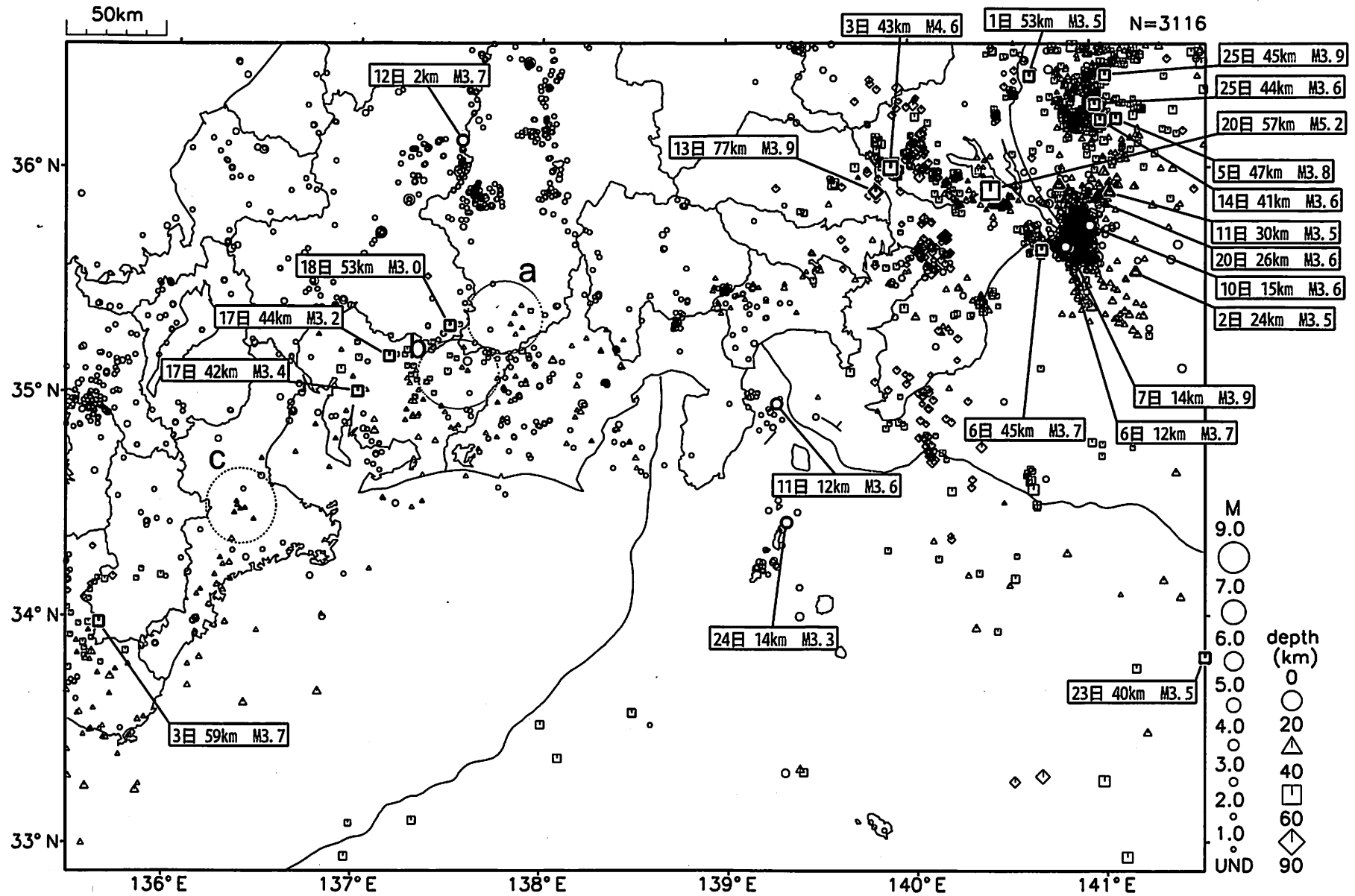
東海・南関東地域の地震活動 2012年7月 (1日~31日)



精度良く震源決定された地震のみを表示している。
 三重県中部（破線の領域a）で7月2日に深部低周波地震が観測された。
 愛知県（破線の領域b）で7月21日に深部低周波地震が観測された。
 三重県中部（破線の領域c）で7月25日に深部低周波地震が観測された。

気象庁作成

東海・南関東地域の地震活動 2012年8月 (1日~26日)

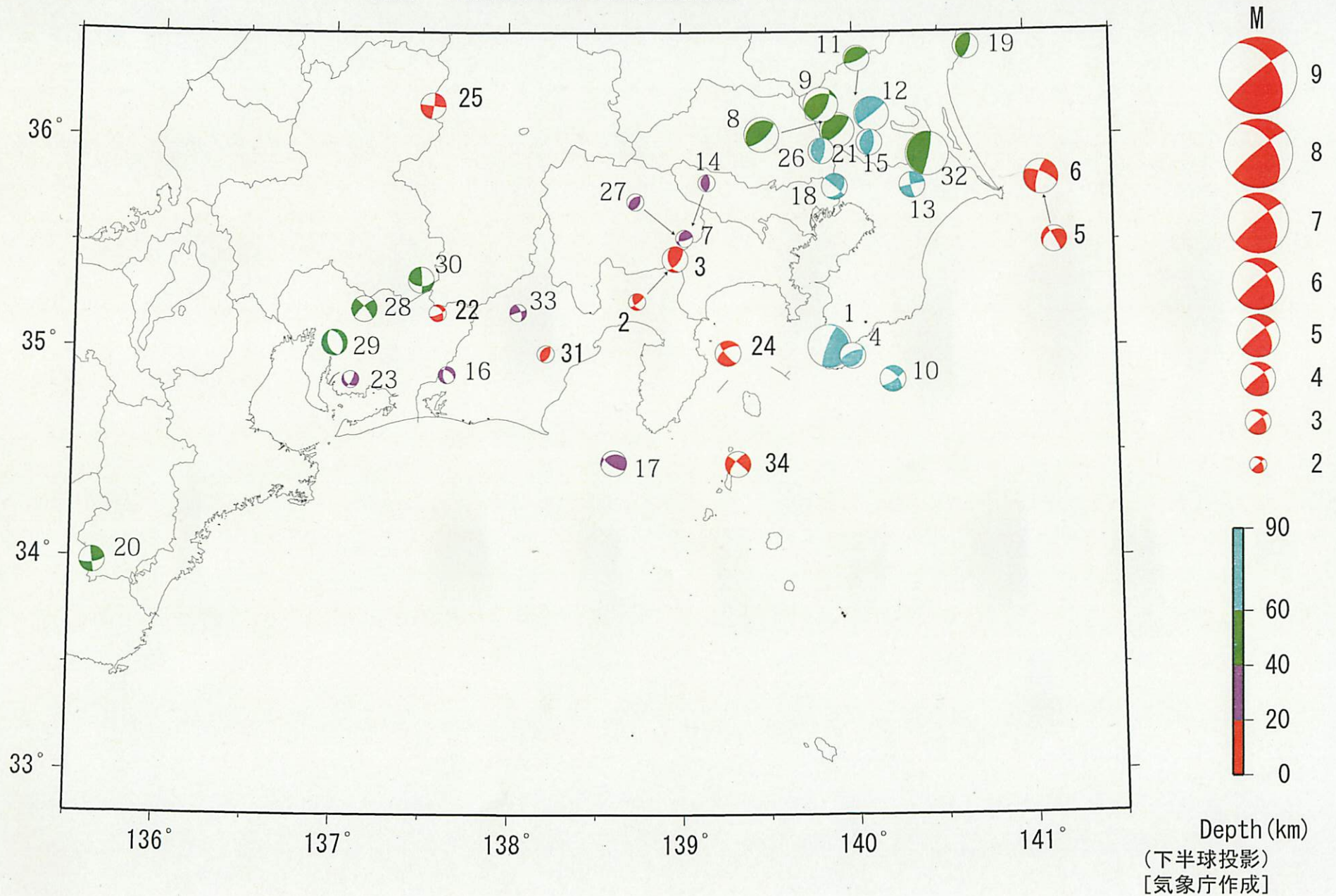


精度良く震源決定された地震のみを表示している。
 長野県南部(破線の領域a)で8月16日から23日にかけて深部低周波地震が頻発された。
 愛知県東部(破線の領域b)で8月20日から25日にかけて深部低周波地震が頻発された。
 三重県中部(破線の領域c)で8月12日から14日にかけて深部低周波地震が頻発された。

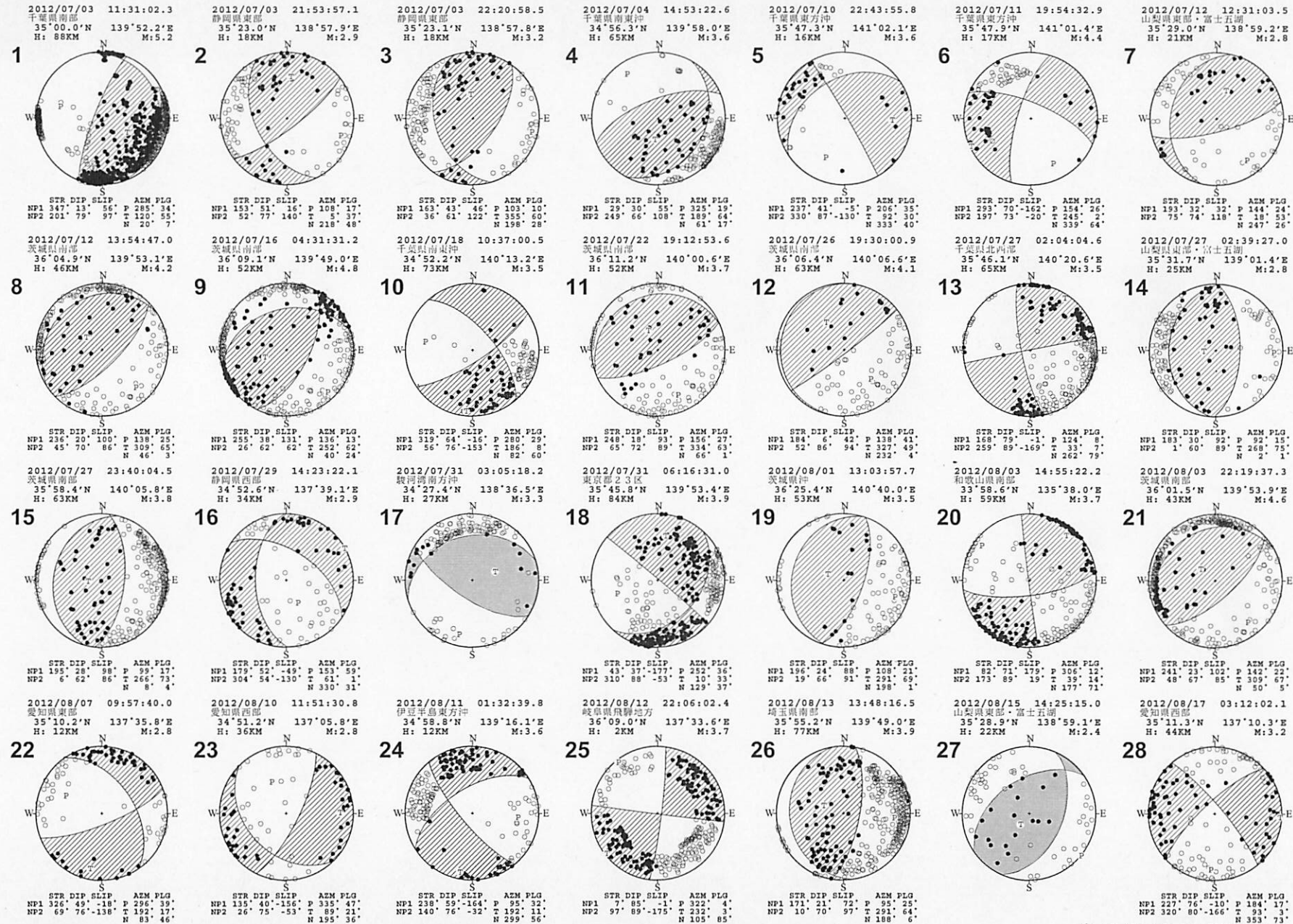
気象庁作成

東海・南関東地域の発震機構解（１）

Period:2012/07/01 00:00—2012/08/26 24:00



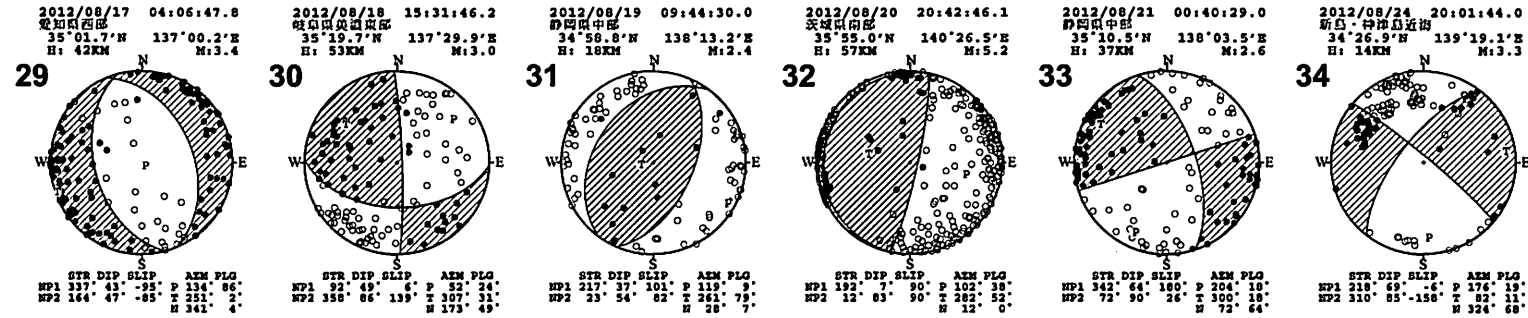
東海・南関東地域の発震機構解 (2)



※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。
断層パラメータが併記されていないものは、発震機構解の精度がやや劣るものである。

(下半球投影)
[気象庁作成]

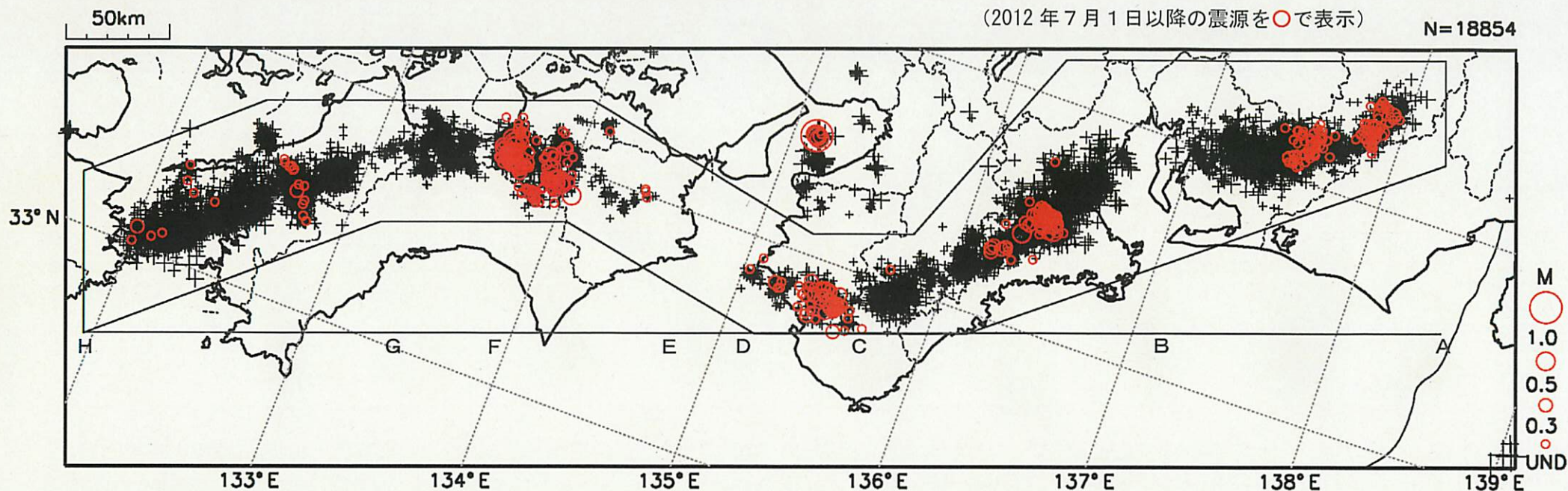
東海・南関東地域の発震機構解（3）



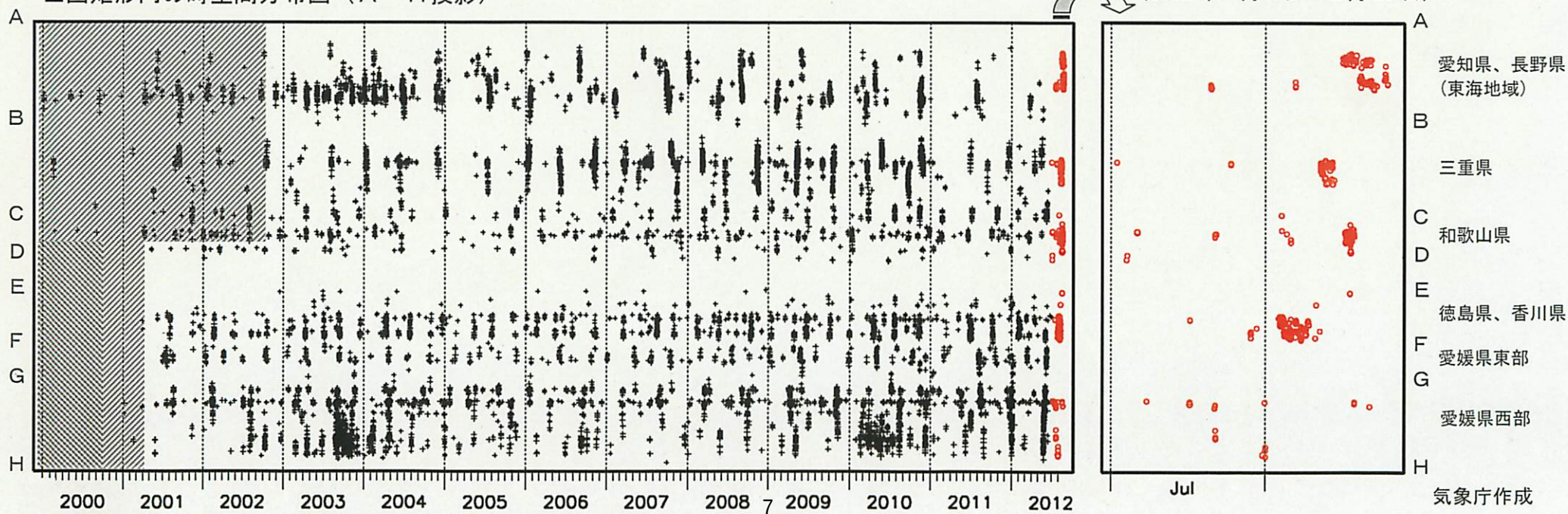
※東海地域のM2.4以上の地震及び南関東地域のM3.5以上の地震の発震機構を表示している。
各震源球の上部には震源要素、下部には発震機構の断層パラメータが併記されている。

(下半球投影)
[気象庁作成]

深部低周波地震活動 (2000 年 1 月 1 日～2012 年 8 月 26 日)



上図矩形内の時空間分布図 (A-H 投影)

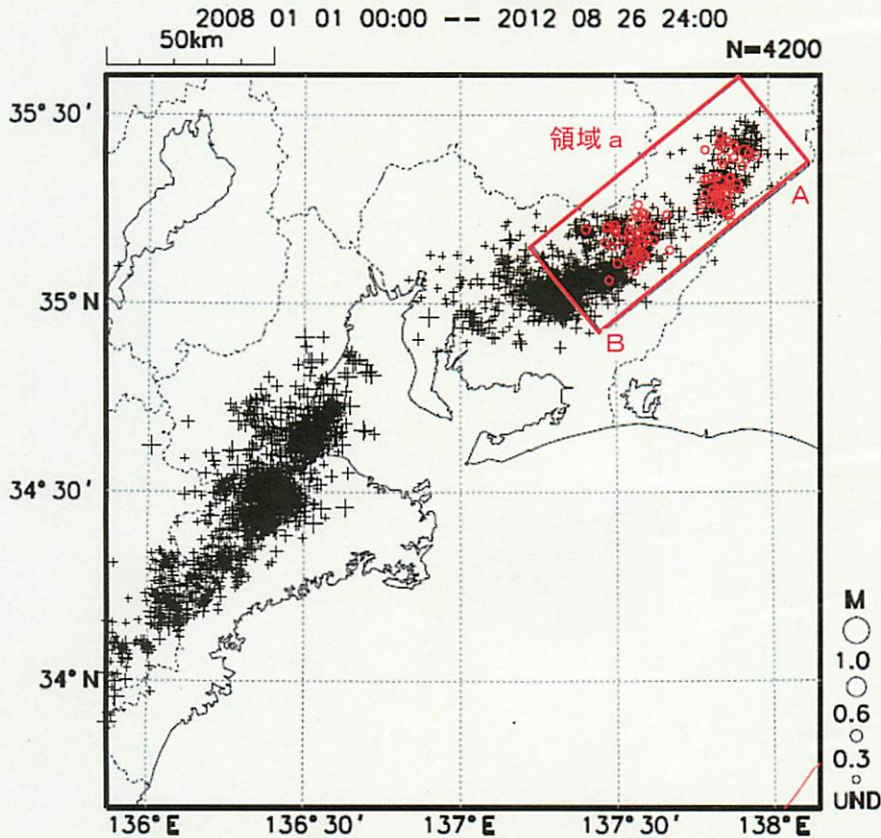


※時空間分布図中、網掛けした期間は現在と比較して十分な検知能力がなかったことを示す。

8月16日～25日 長野県南部から愛知県の深部低周波地震活動

深部低周波地震の震央分布図
(2008年1月1日～2012年8月26日、
Mすべて、深さ0～60km)

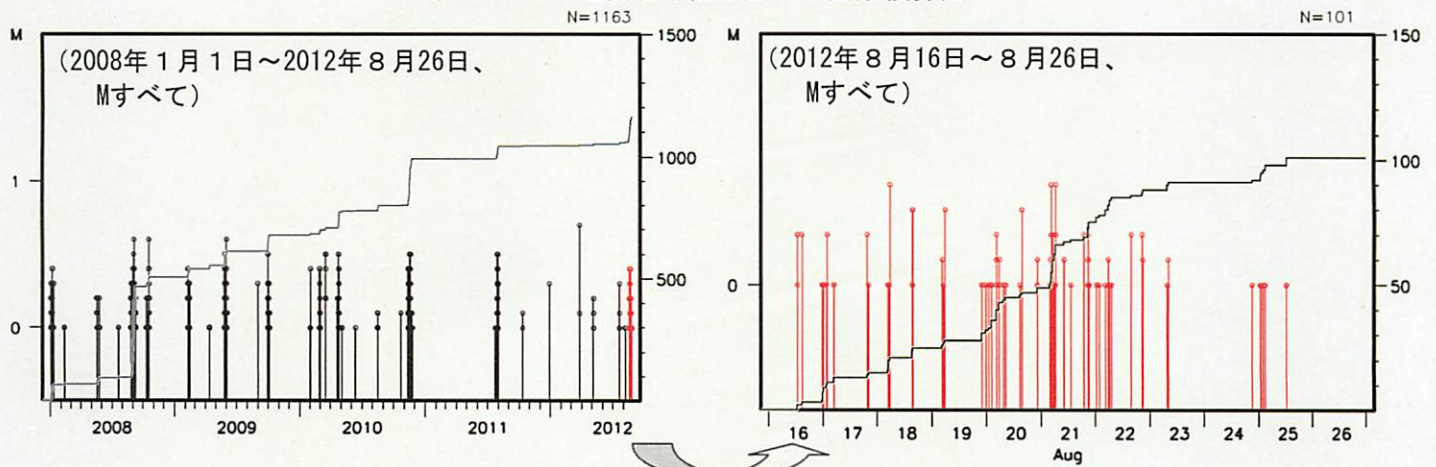
2012年8月16日以降の深部低周波地震を○で表示



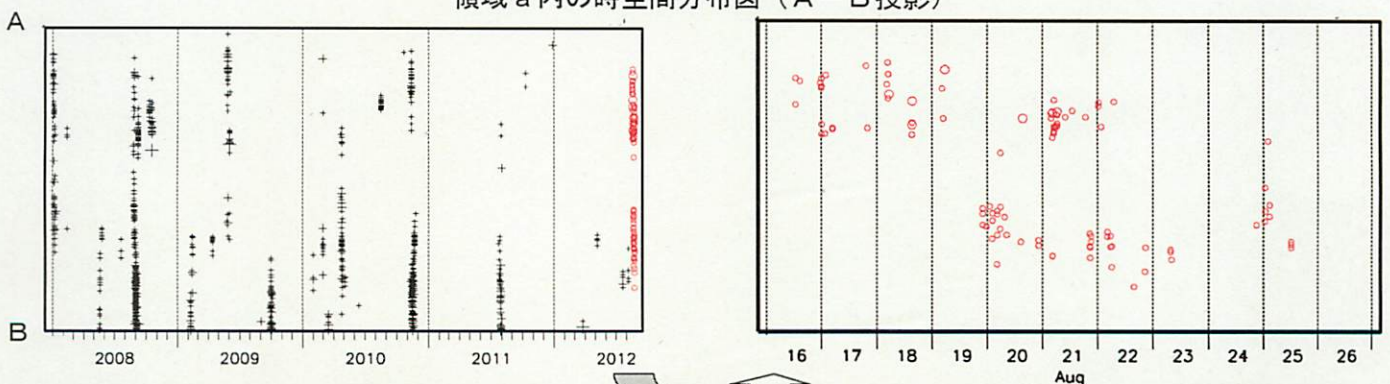
2012年8月16日から25日に、長野県南部から愛知県にかけての領域で深部低周波地震活動が観測されている。

今回の活動領域(長野県南部から愛知県)で深部低周波地震がまとまって観測されたのは、2011年7月下旬から8月上旬の活動以来である。

領域 a 内の地震活動経過図及び回数積算図

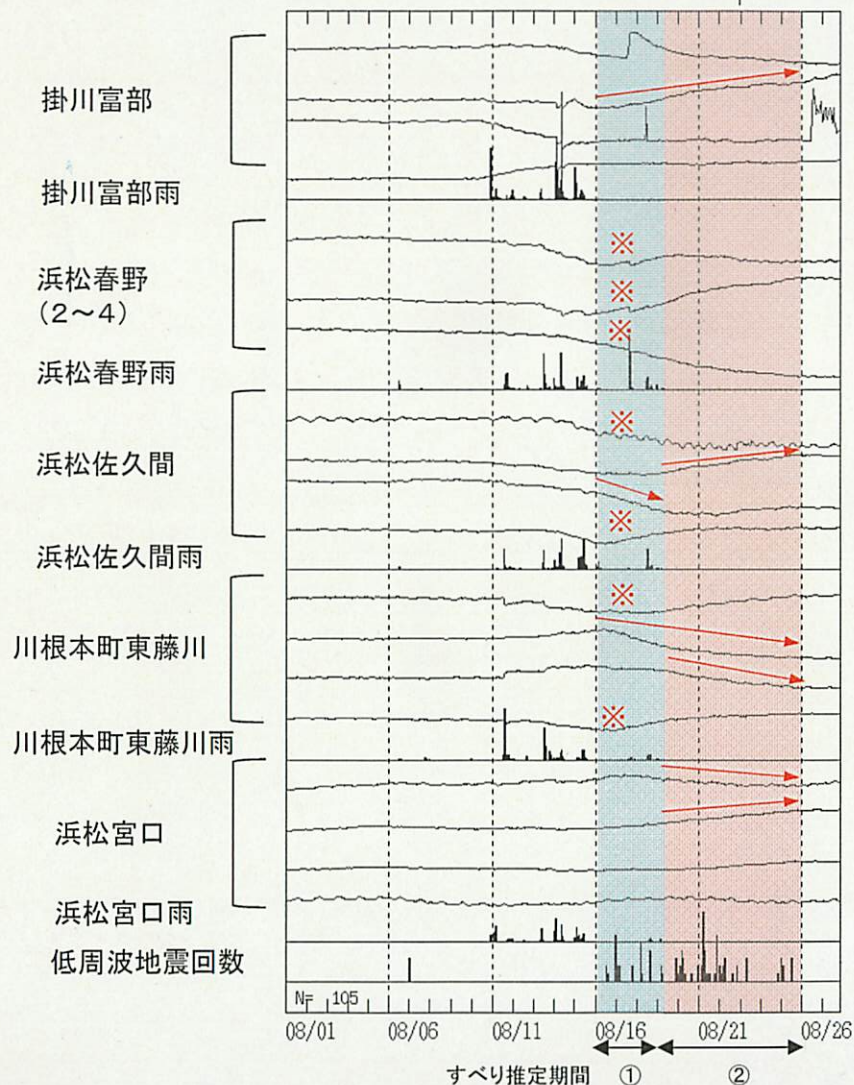


領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)



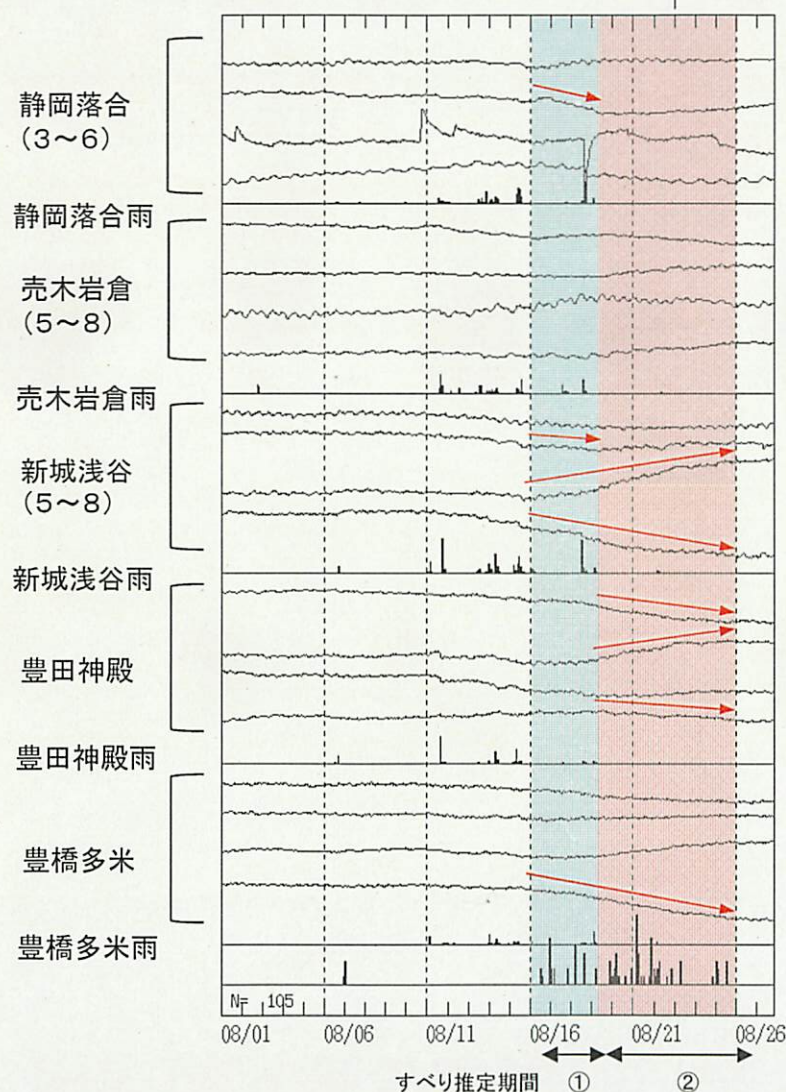
長野県・愛知県における深部低周波地震活動(8月16日～25日)に同期したひずみ変化

東海周辺ひずみ変化1(補正時間値 磁気補正)^{EXP.}
2012/08/01 00:00 - 2012/08/27 20:00
1.0E-07 strain
60 mm/Hour
10 count/Hour



※ 低周波地震に伴うひずみ変化には、降水の影響も含まれている可能性があるためすべり推定解析には使用していない。

東海周辺ひずみ変化2(補正時間値 磁気補正)^{EXP.}
2012/08/01 00:00 - 2012/08/27 20:00
1.0E-07 strain
60 mm/Hour
10 count/Hour

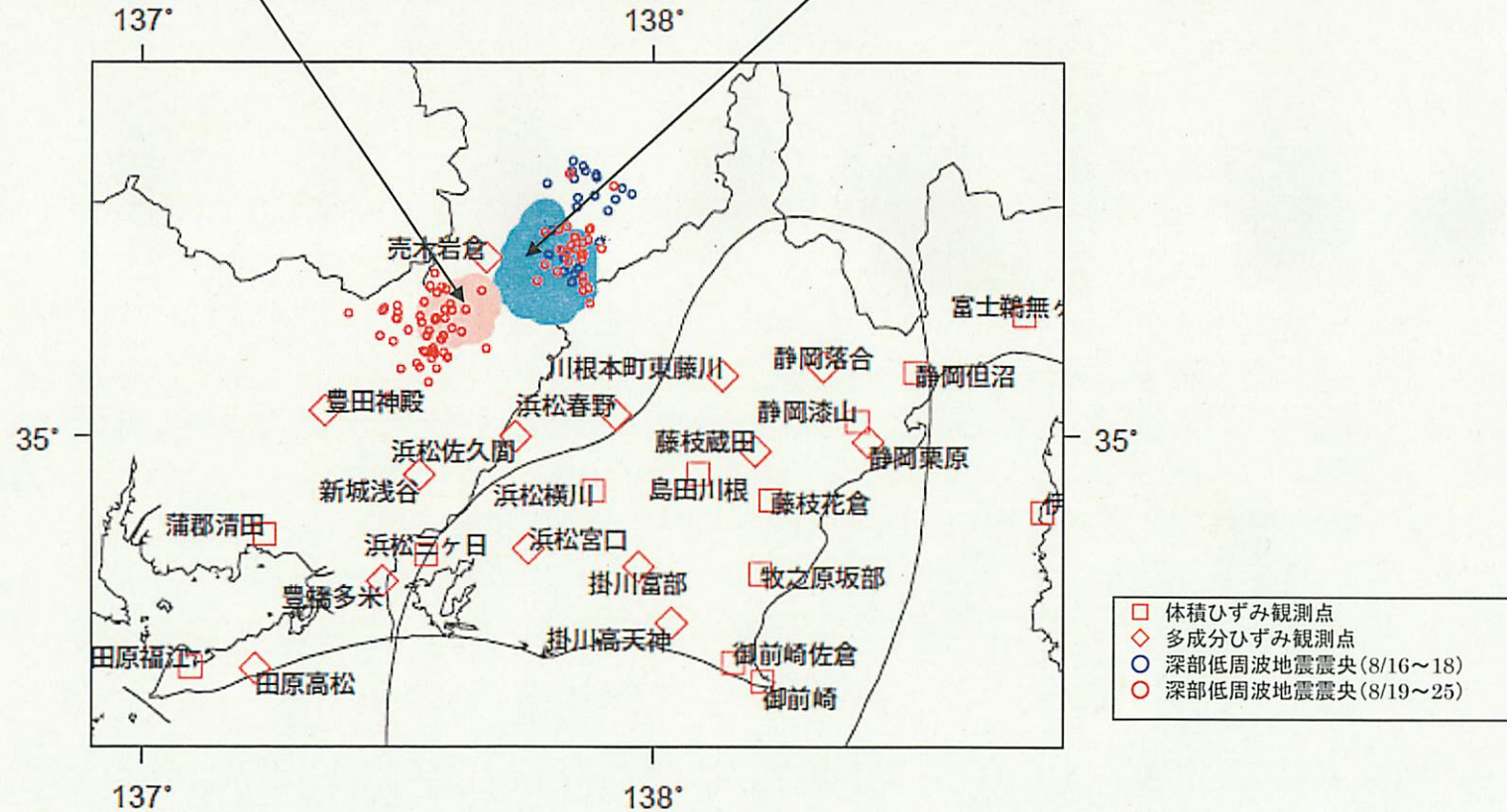


浜松春野、川根本町東藤川は静岡県整備のひずみ計である。
豊田神殿、豊橋多米は産業技術総合研究所整備のひずみ計である。
気象庁作成

ひずみ変化から推定されるすべり領域

② 8月19日～25日
短期的ゆっくりすべり候補領域
Mw5.7～5.8

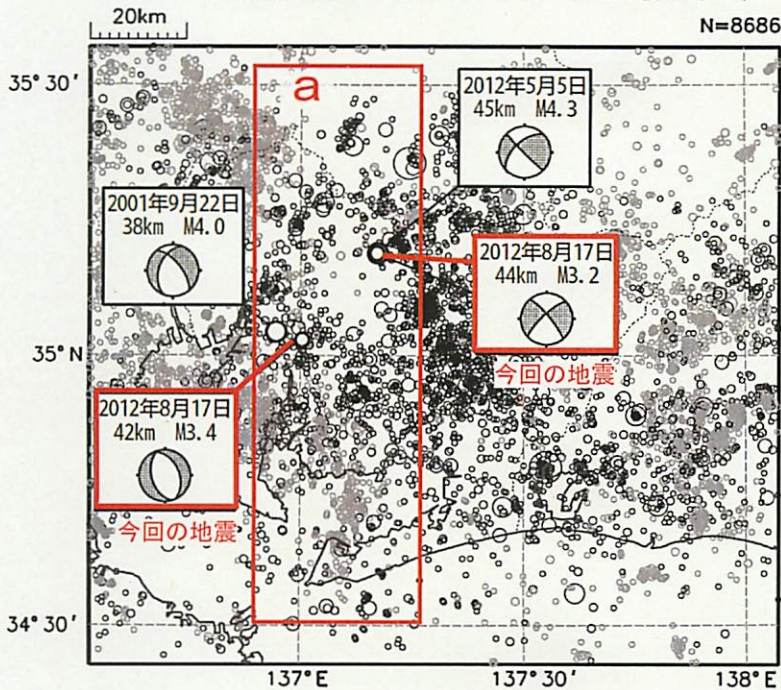
① 8月16日～18日
短期的ゆっくりすべり候補領域
Mw5.5～5.6



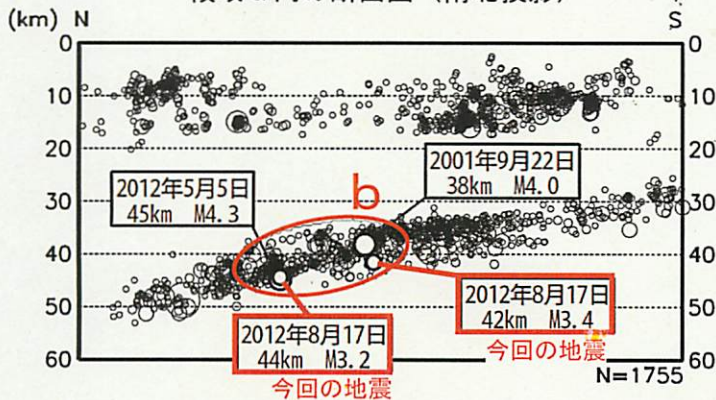
すべり候補領域は、HITEQにより求めた。プレート境界と断層面の形状はHirose et al.(2008)による。
(なお、HITEQとは、すべり候補領域の位置とその規模(Mw)を、すべりがプレート境界面上でプレートの沈み込み方向と反対に発生したと仮定し、グリッドサーチ(考え得る全ての解を前提として得られる理論値と観測値を比較し、合致するものを抽出)で求める数値計算プログラム。)

8月17日 愛知県西部の地震

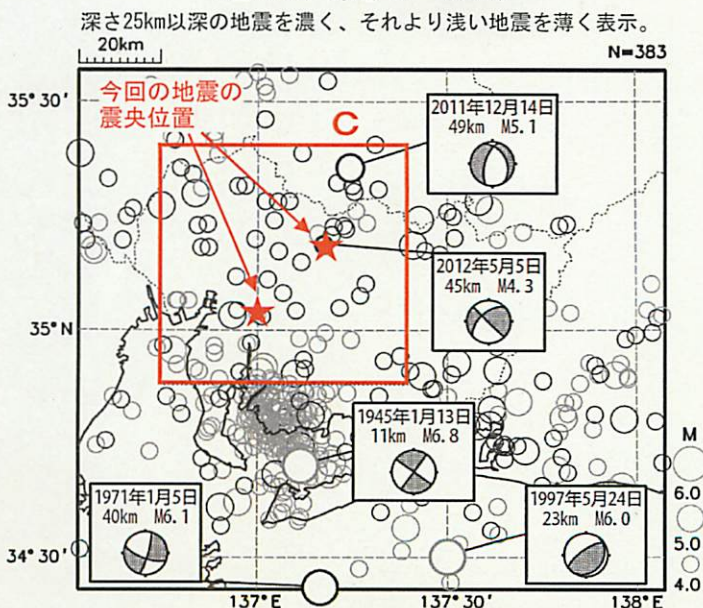
震央分布図 (2001年1月1日～2012年8月26日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0～60km)
深さ25km以深の地震を濃く、それより浅い地震を薄く表示。



領域a内の断面図 (南北投影)



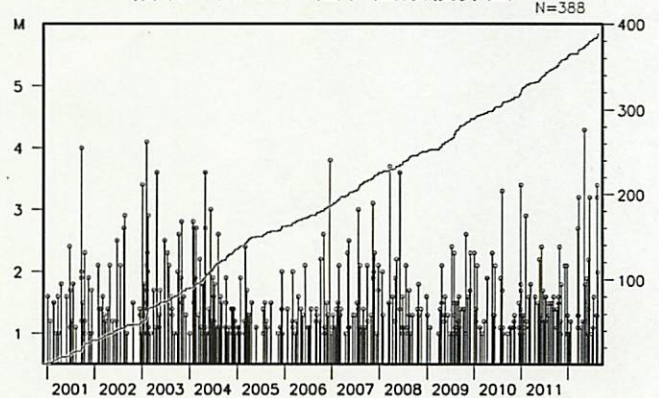
震央分布図 (1912年1月1日～2012年8月26日、 $M \geq 4.0$ 、深さ0～60km)
深さ25km以深の地震を濃く、それより浅い地震を薄く表示。



8月17日03時12分に愛知県西部の深さ44kmでM3.2の地震(最大震度1)が発生した。また、04時06分にも愛知県西部の深さ42kmでM3.4の地震(最大震度1)が発生した。これらの地震の発震機構は、それぞれ東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型(03時12分)、東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型(04時06分)で、どちらもフィリピン海プレート内で発生した地震である。余震活動は観測されていない。

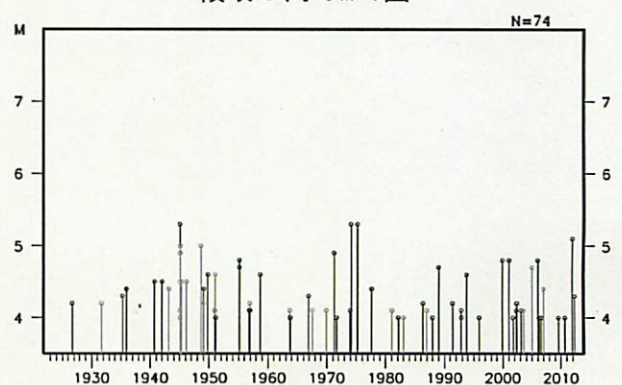
1997年10月以降の活動を見ると、03時12分の地震の震源付近では、2012年5月5日にM4.3の地震が発生していた。また、04時06分の地震の震源付近では、2001年9月22日にM4.0の地震が発生していた。

領域b内のM-T図、回数積算図



1923年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M4以上の地震が時々発生している。

領域c内のM-T図



気象庁作成

東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2012年8月26日 現在

	① 静岡県中西部		② 愛知県		③ 浜名湖周辺			④ 駿河湾	
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域	余震 除去
					全域	西側	東側		
短期活動指数	7	5	4	5	2	2	3	7	4
短期地震回数 (平均)	9 (5.29)	9 (7.00)	13 (13.16)	16 (14.15)	2 (6.16)	0 (2.46)	2 (3.70)	10 (6.06)	4 (3.97)
中期活動指数	7	4	2	3	0	1	2	7	4
中期地震回数 (平均)	23 (15.87)	21 (21.00)	32 (39.48)	36 (42.44)	4 (12.32)	1 (4.93)	3 (7.39)	18 (12.12)	7 (7.93)

* Mしきい値： 静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：M≥1.1、駿河湾：M≥1.4

* クラスタ除去：震央距離がΔr以内、発生時間差がΔt以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

静岡県中西部、愛知県、浜名湖周辺：Δr=3km、Δt=7日

駿河湾：Δr=10km、Δt=10日

* 対象期間： 静岡県中西部、愛知県：短期30日間、中期90日間

浜名湖周辺、駿河湾：短期90日間、中期180日間

* 基準期間： おおむね長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）発生前の地震活動を基準とする。

静岡県中西部、愛知県：1997年－2001年（5年間）、

浜名湖周辺：1998年－2000年（3年間）、駿河湾：1991年－2000年（10年間）

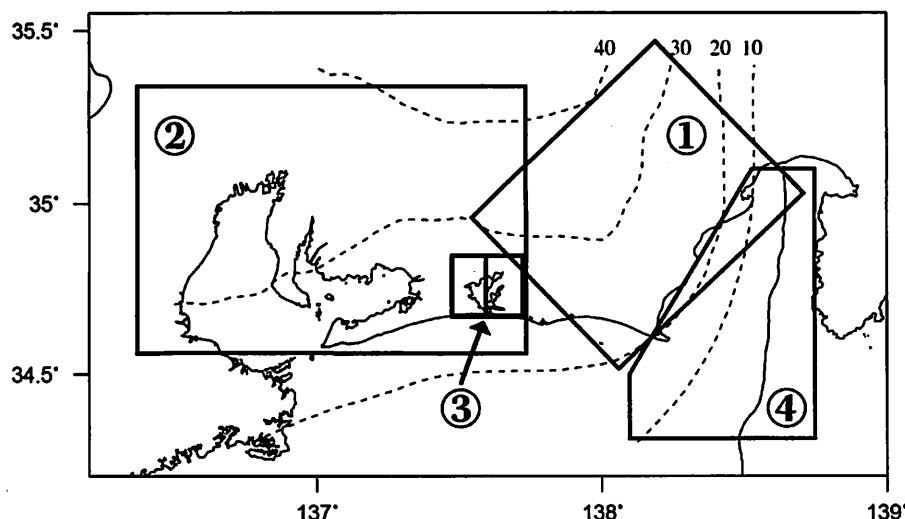
[各領域の説明] ①静岡県中西部：プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域（固着域）。

②愛知県：フィリピン海プレートが沈み込んでいく先の領域。

③浜名湖周辺：固着域の縁。長期的スロースリップ（ゆっくり滑り）が発生する場所であり、同期して地震活動が変化すると考えられている領域。

④駿河湾：フィリピン海プレートが沈み込み始める領域。

余震除去：2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除いて活動指数を求めた場合。



* プレート境界の等深線を破線で示す。

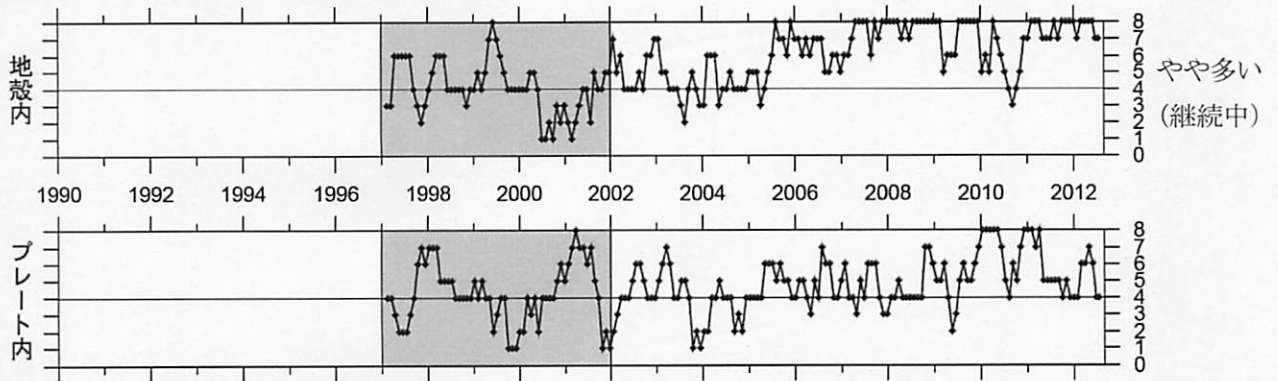
地震回数の指数化		
指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	やや多い
6	10	
5	15	
4	40	ほぼ平常
3	15	
2	10	
1	4	やや少ない
0	1	
		少ない

気象庁作成

地震活動指数の推移（中期活動指数）

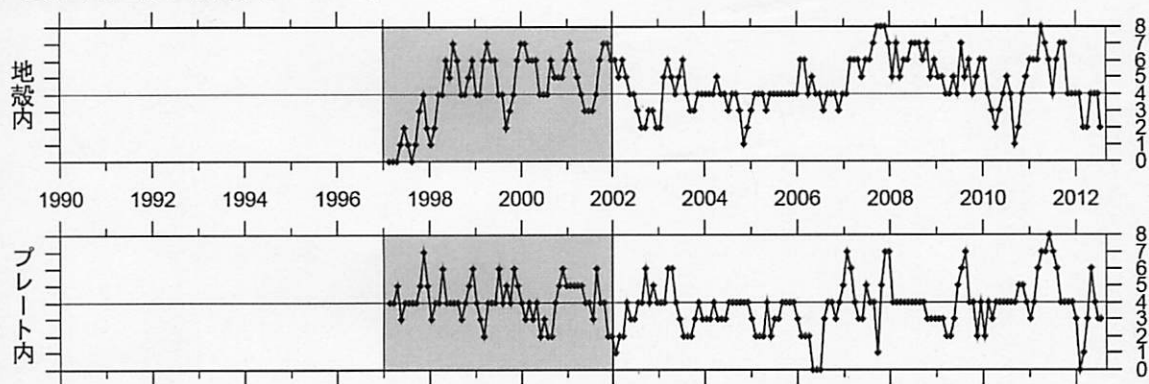
① 静岡県中西部（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.1



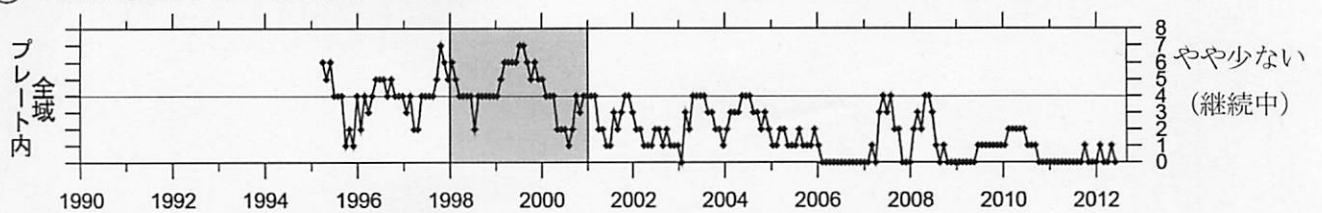
② 愛知県（対象期間：90日）

1997/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.1



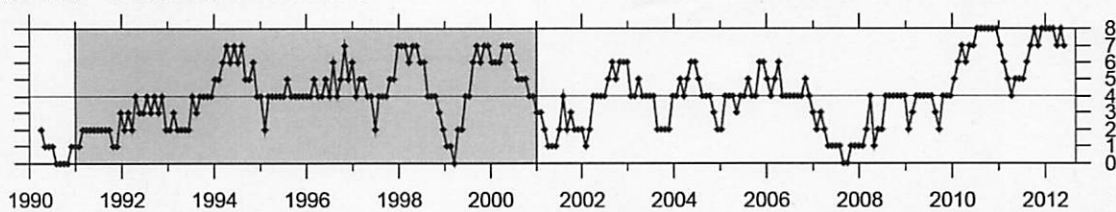
③ 浜名湖周辺（対象期間：180日）

1995/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.1

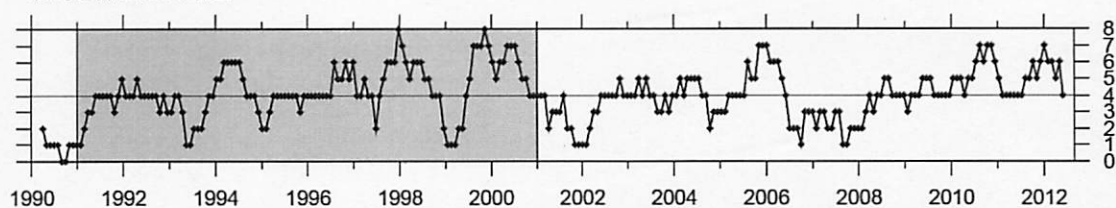


④ 駿河湾（対象期間：180日）

1990/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.4



2009年8月11日の駿河湾の地震（M6.5）と2011年8月1日の駿河湾の地震（M6.2）の余震域の活動を除去した場合



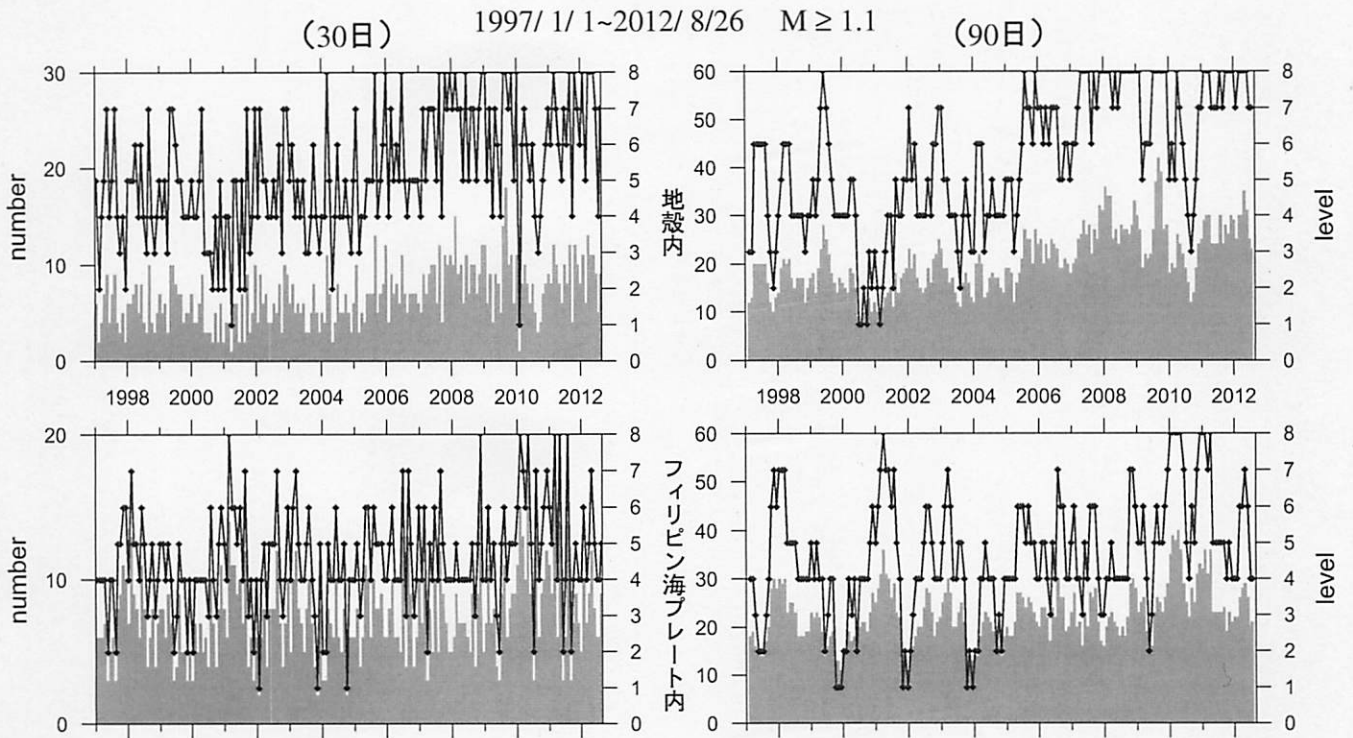
■：基準期間

／：地震活動指数（0－8）

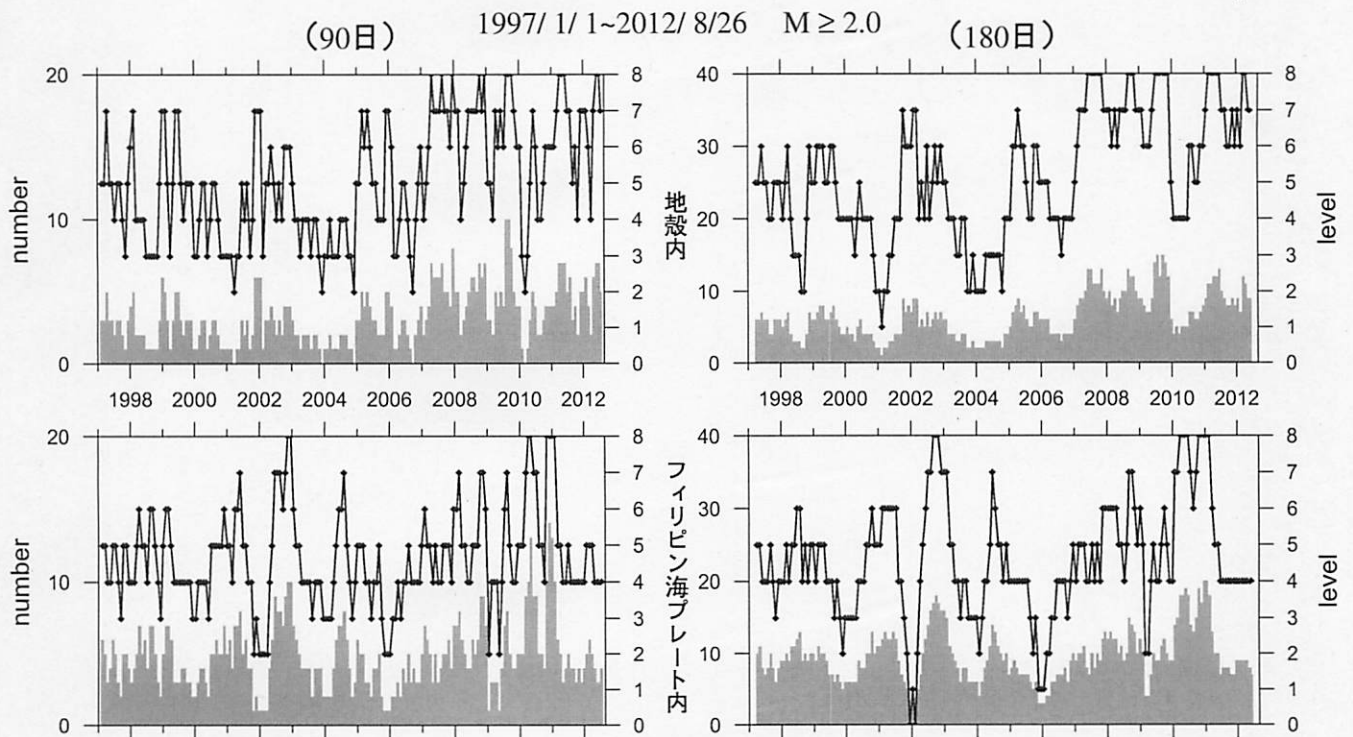
気象庁作成

地震活動指数の推移

① 静岡県中西部



地殻内はやや高い(7)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(5から4)。

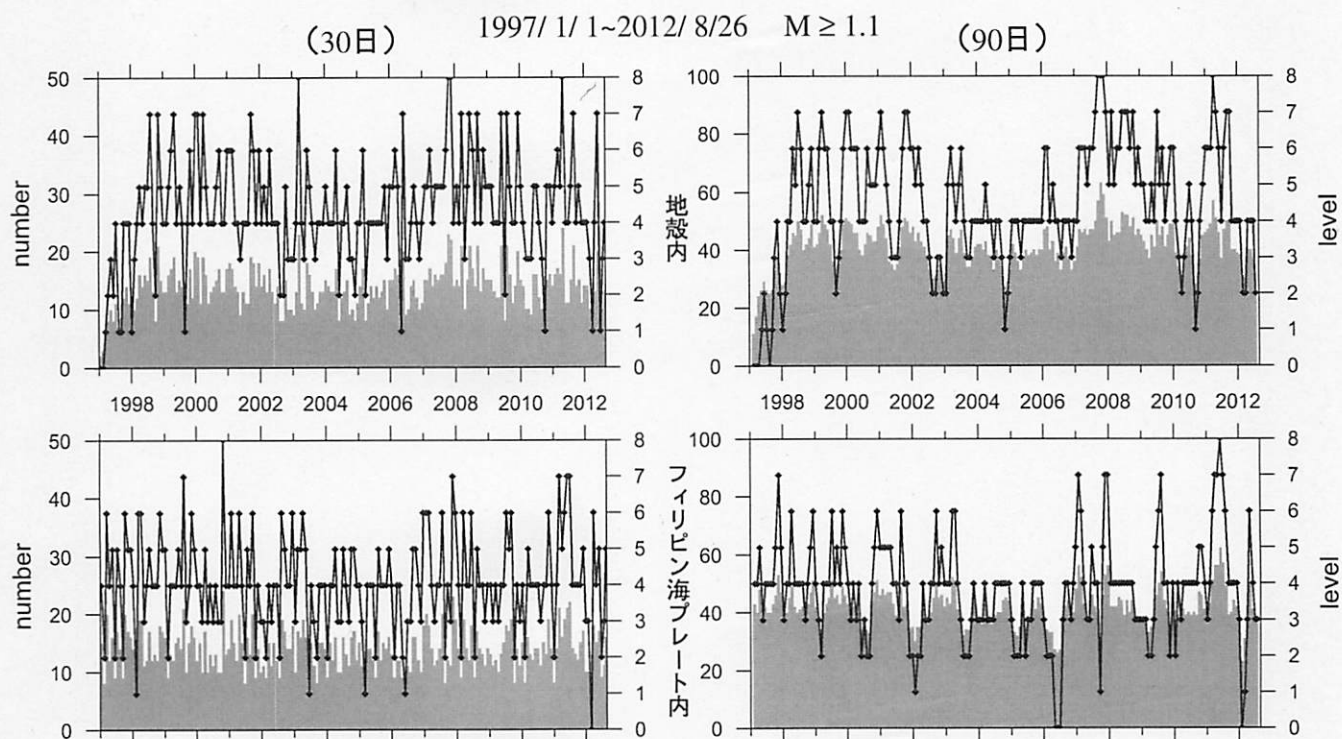


地殻内はやや高い(7)。
フィリピン海プレート内はほぼ平常(4)。

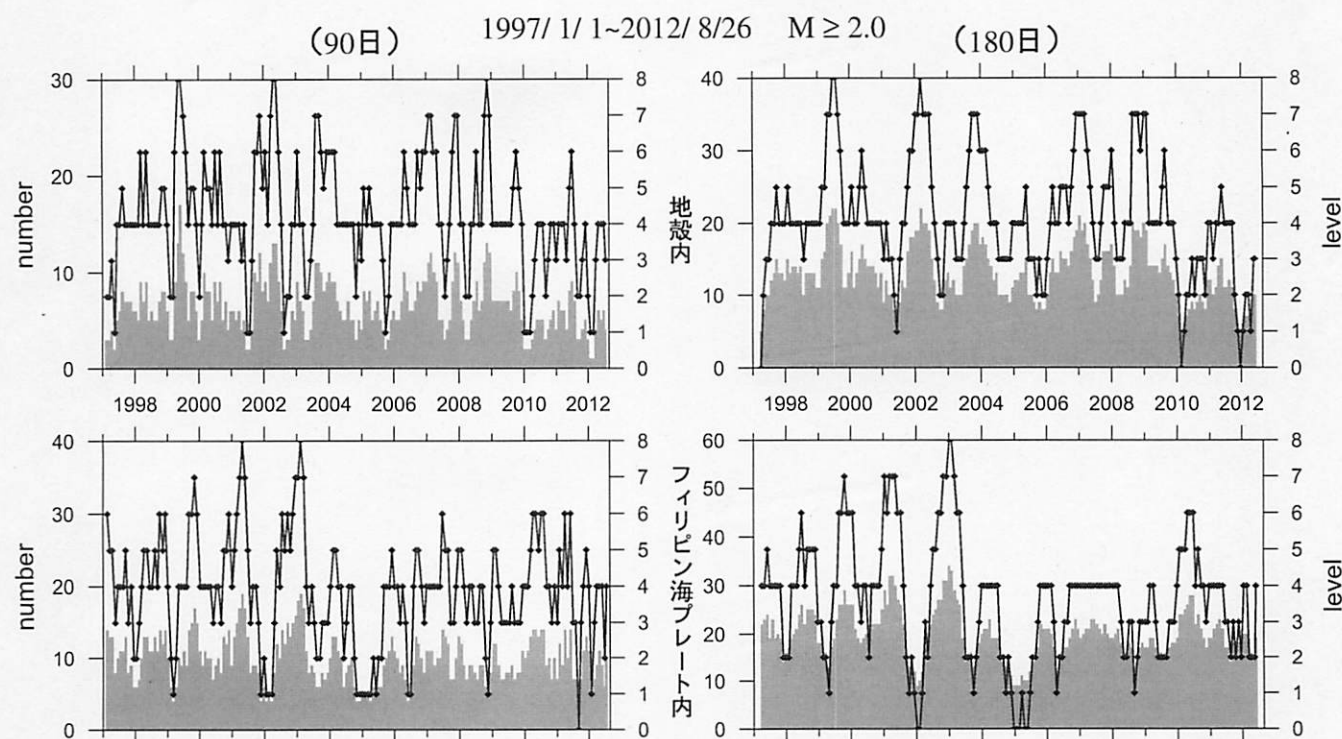
／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスターを除く)

地震活動指数の推移

② 愛知県



地殻内はやや低い(4から2)。フィリピン海プレート内はほぼ平常(4から3)



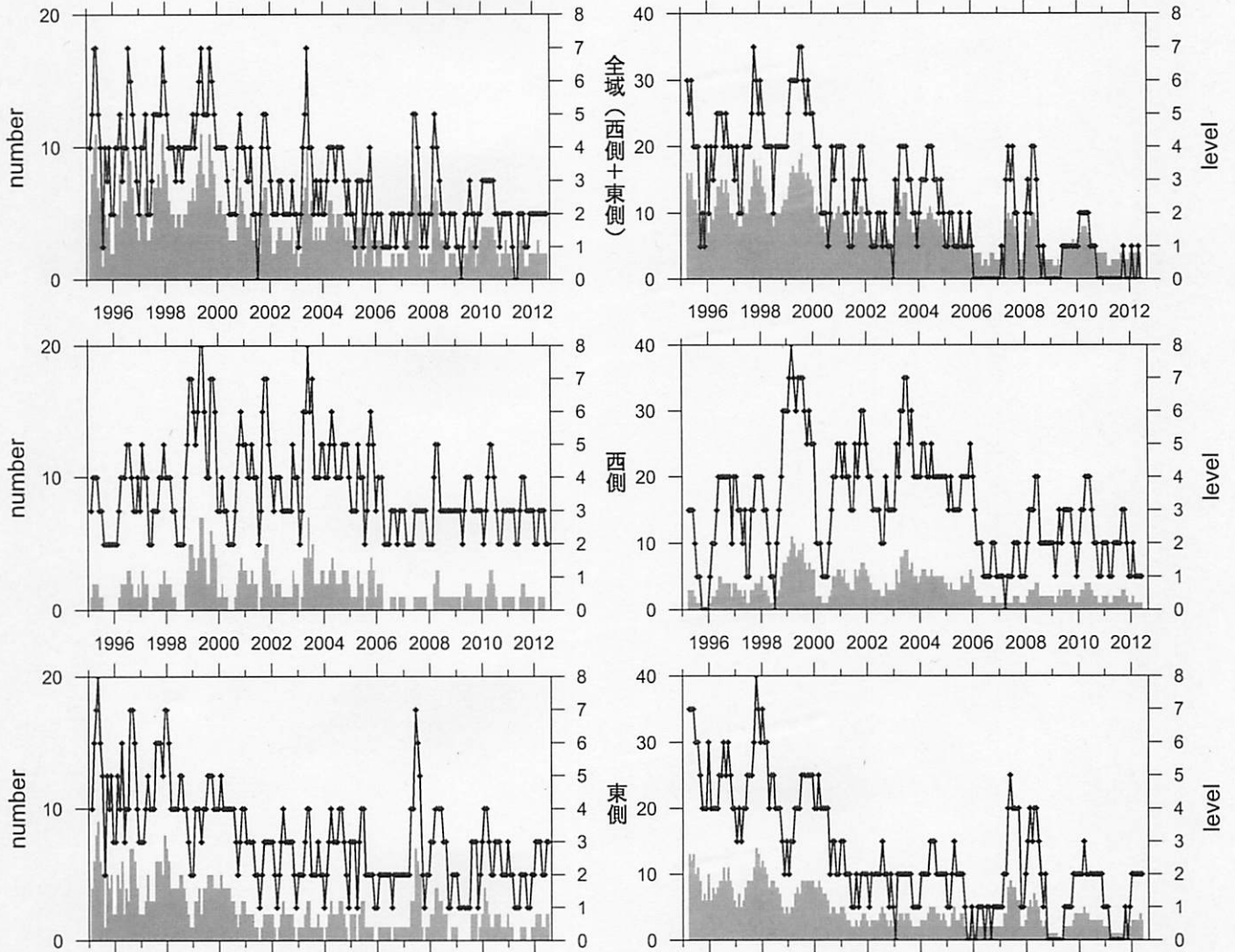
地殻内はほぼ平常(3)、フィリピン海プレート内もほぼ平常(4)。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスタを除く)

地震活動指数の推移

③ 浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

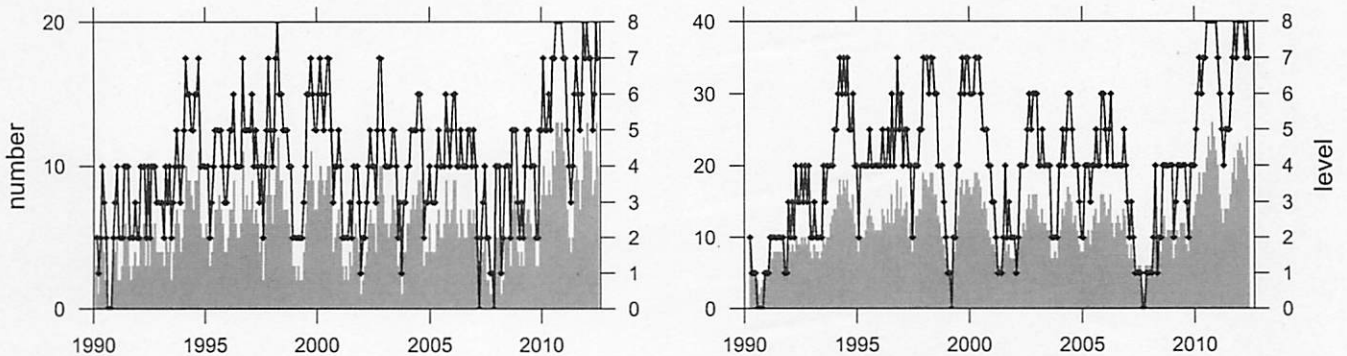
(90日) 1995/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.1 (180日)



フィリピン海プレート内の地震活動は低い(2から0)。

④ 駿河湾

(90日) 1990/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.4 (180日)



地震活動はやや高い(7)。

ただし、2009年8月11日 駿河湾の地震 (M6.5) と、2011年8月1日 駿河湾の地震 (M6.2) の余震活動の影響が残っている。

／ : 地震活動指数 (0-8)
■ : 地震回数 (クラスターを除く)

静穏化・活発化領域の検出（東海地方、地殻内）

抽出した地震

東海地方、地殻内で発生した

M 1.1 以上の地震

○：全期間の地震

○：解析対象期間内に発生した地震

クラスタ除去（デクラスタ）

震央距離 3.0 km 以内、発生時刻 7.0 日以内
の地震をグループ化し、最大地震で代表させる

図の注釈

静穏化

●：半径 15.0 km 以内でレベル 0

●：半径 20.0 km 以内でレベル 0

活発化

●：半径 15.0 km 以内でレベル 8

●：半径 20.0 km 以内でレベル 8

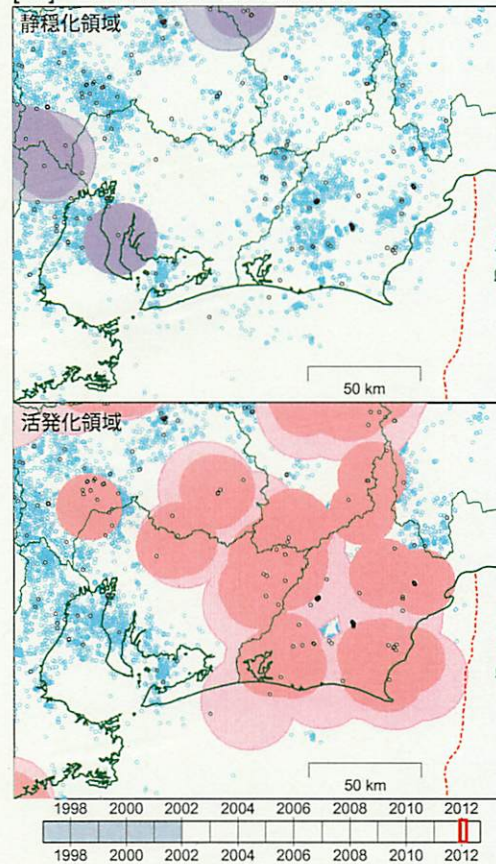
タイムバー

全体：検出領域中心として解析に用いたデータの期間

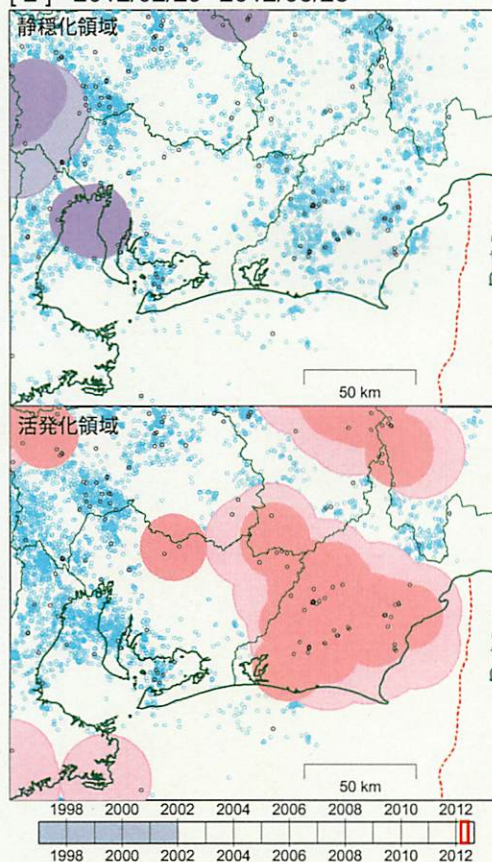
■：基準期間

□：解析対象期間

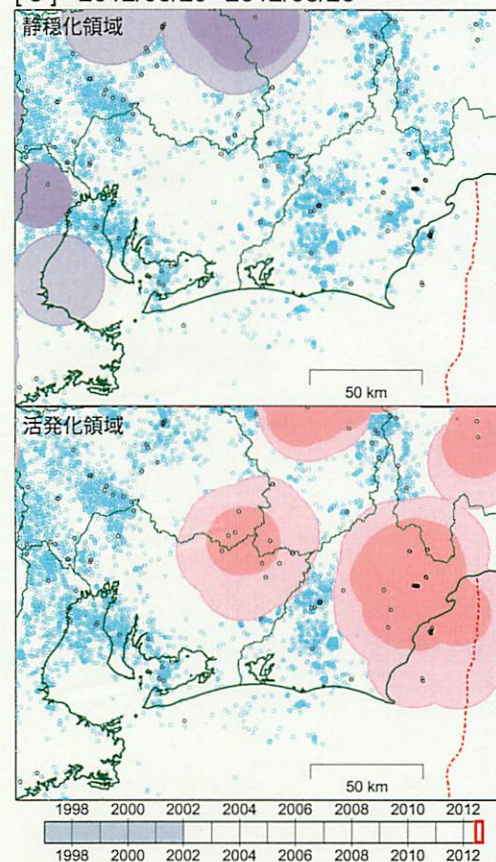
[1] 2011/12/01--2012/02/28



[2] 2012/02/29--2012/05/28

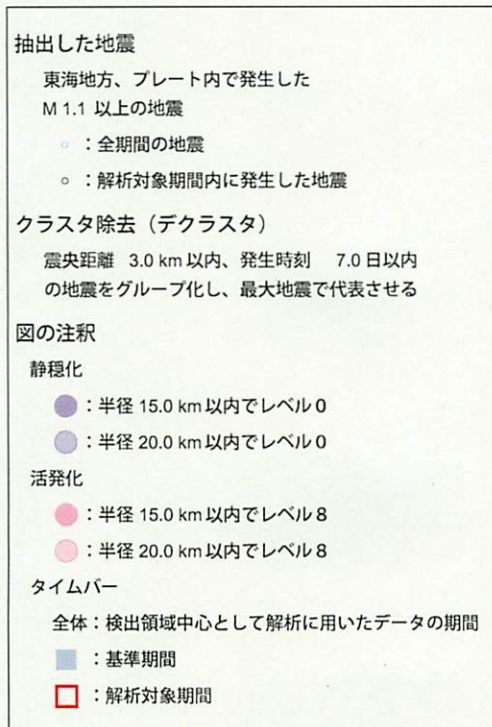


[3] 2012/05/29--2012/08/26

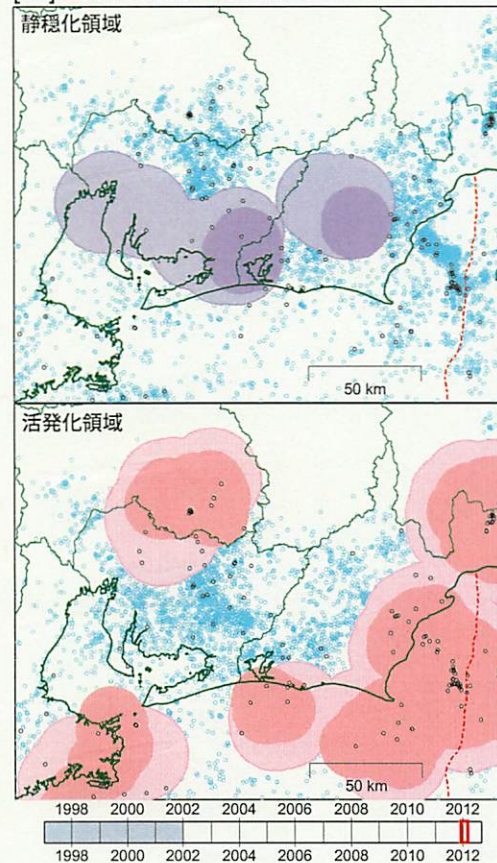


気象庁作成

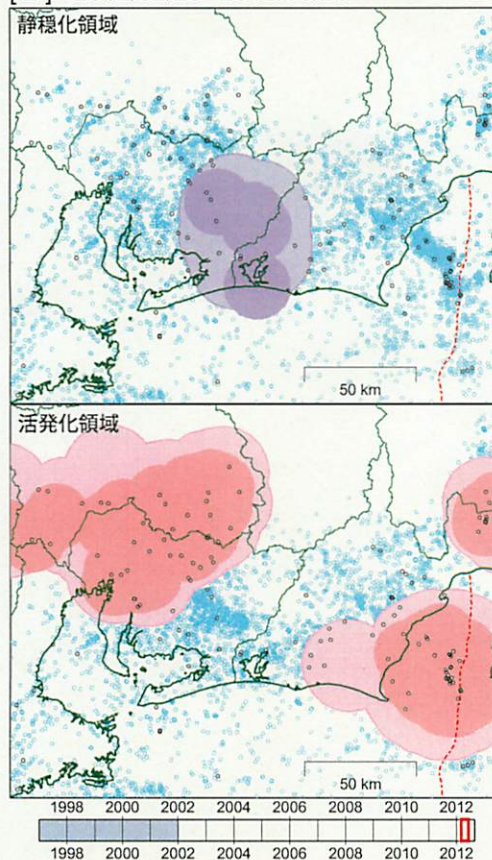
静穏化・活発化領域の検出（東海地方、プレート内）



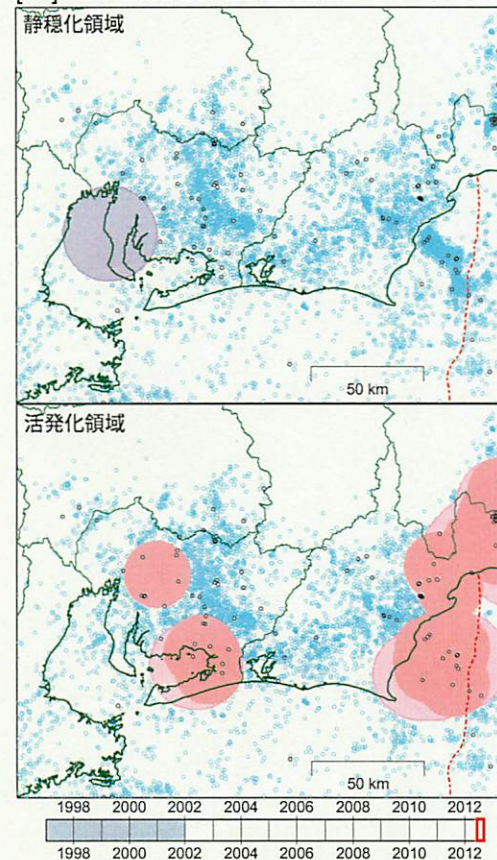
[1] 2011/12/01--2012/02/28



[2] 2012/02/29--2012/05/28



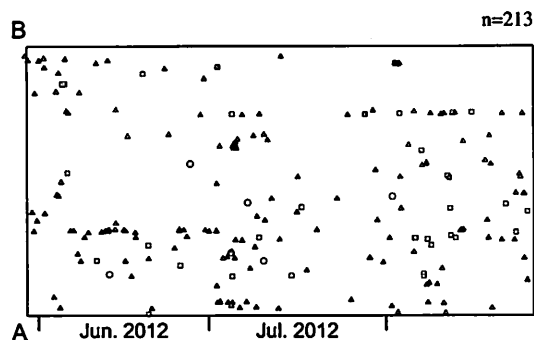
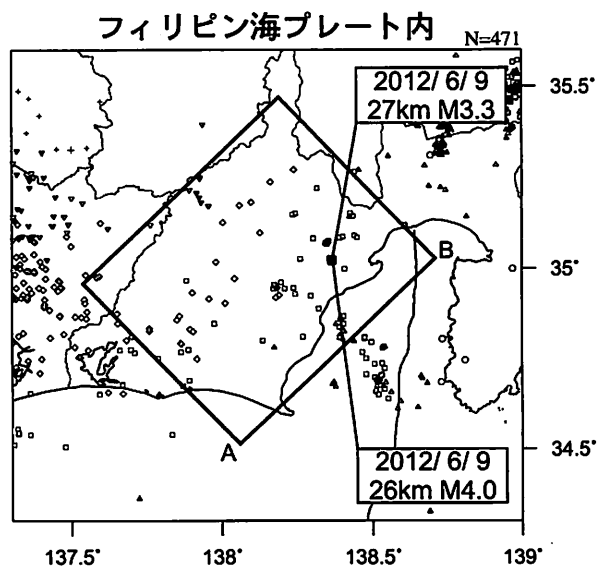
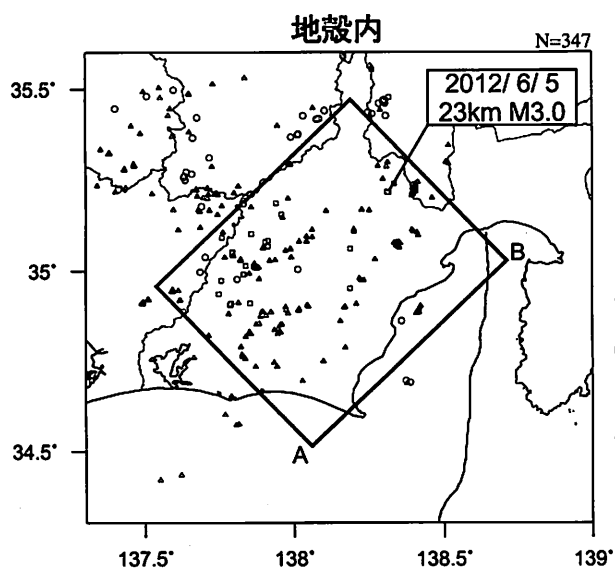
[3] 2012/05/29--2012/08/26



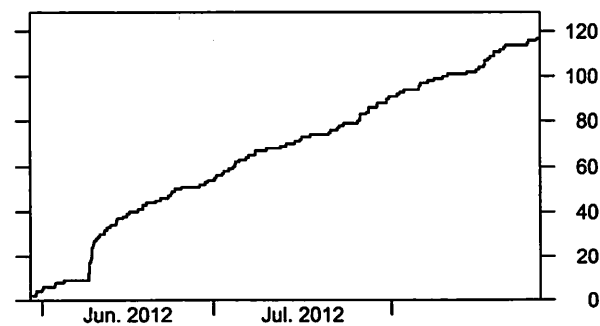
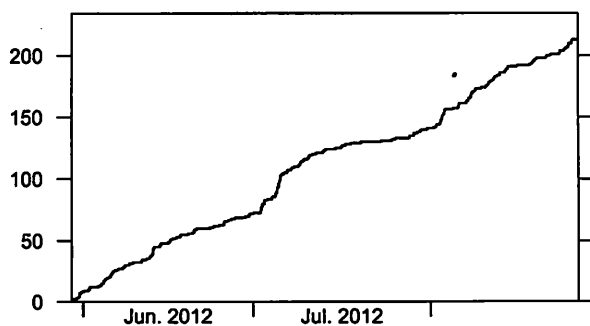
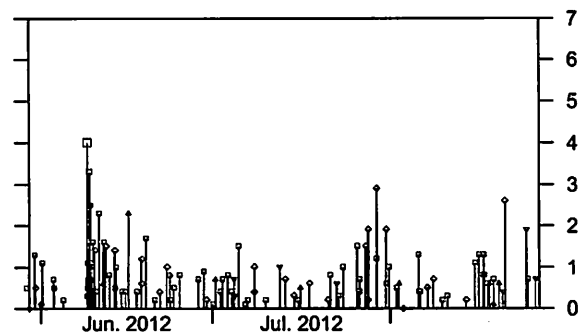
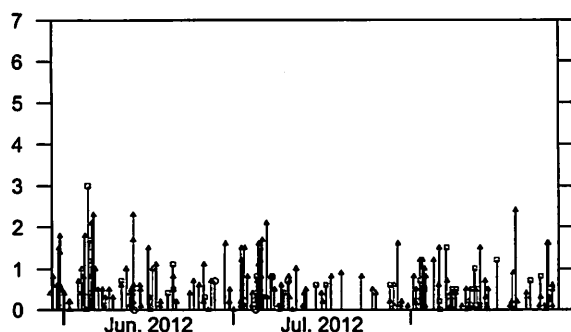
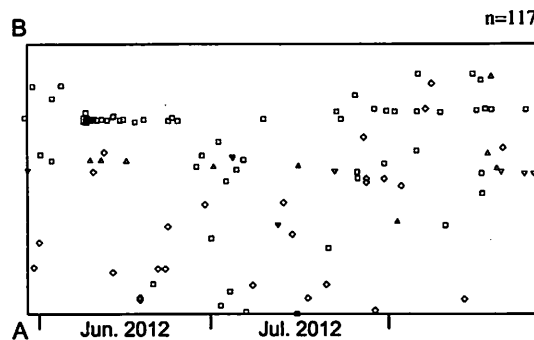
気象庁作成

静岡県中西部（最近90日）

2012/5/29~2012/8/26 M $\geq$ 0.0 0 $\leq$ 深さ(km) $\leq$ 60



時空間分布図（A B 方向）



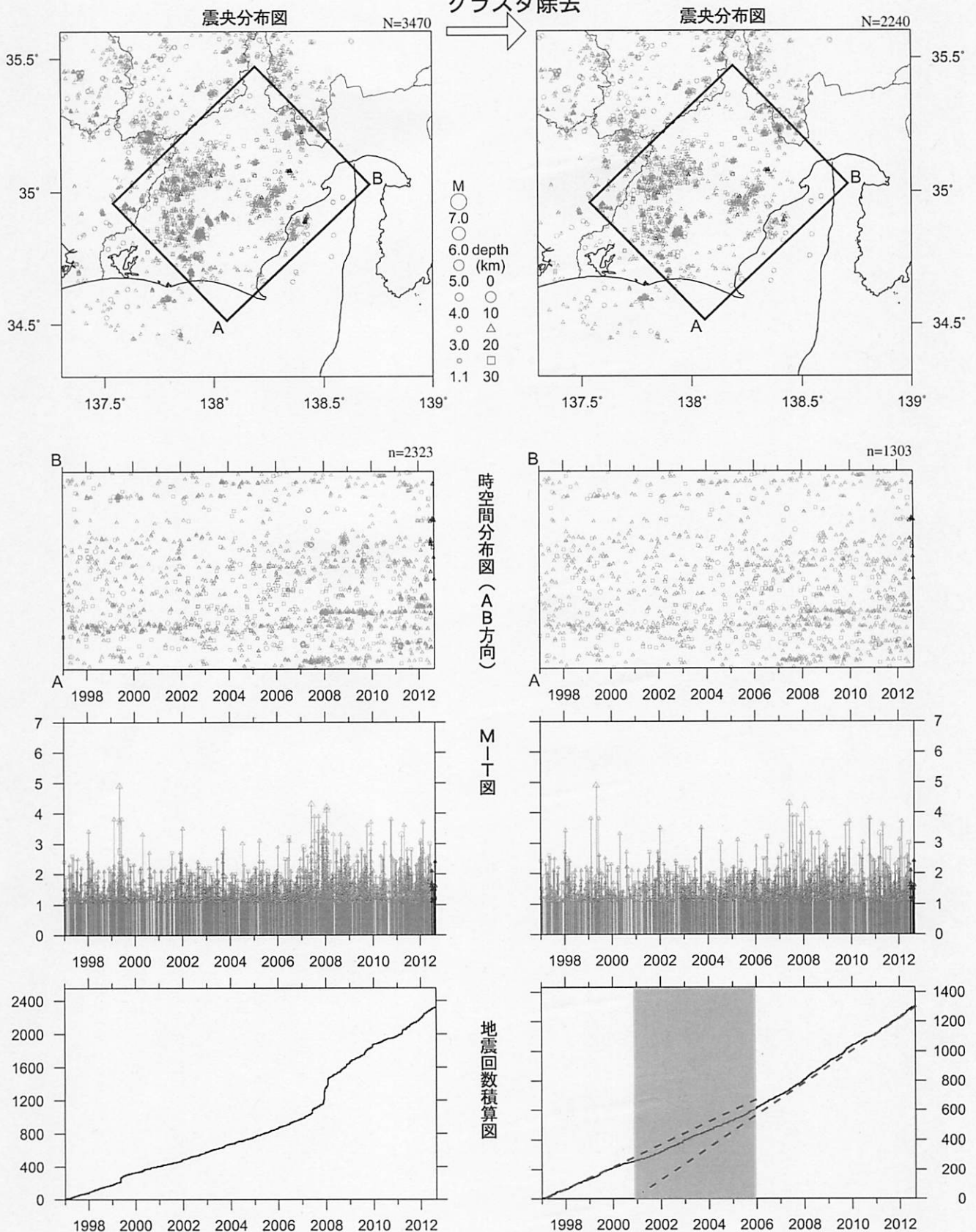
*吹き出しはM $\geq$ 3.0

注) 6月5日のM3.0の地震は、Hirose et al. (2008)によるフィリピン海スラブ上面の深さによると地殻内に分離されるが、メカニズム解の特徴から、プレート内の地震と考えられる。

静岡県中西部（地殻内）

1997/1/1~2012/8/26 M $\geq$ 1.1

クラスタ除去

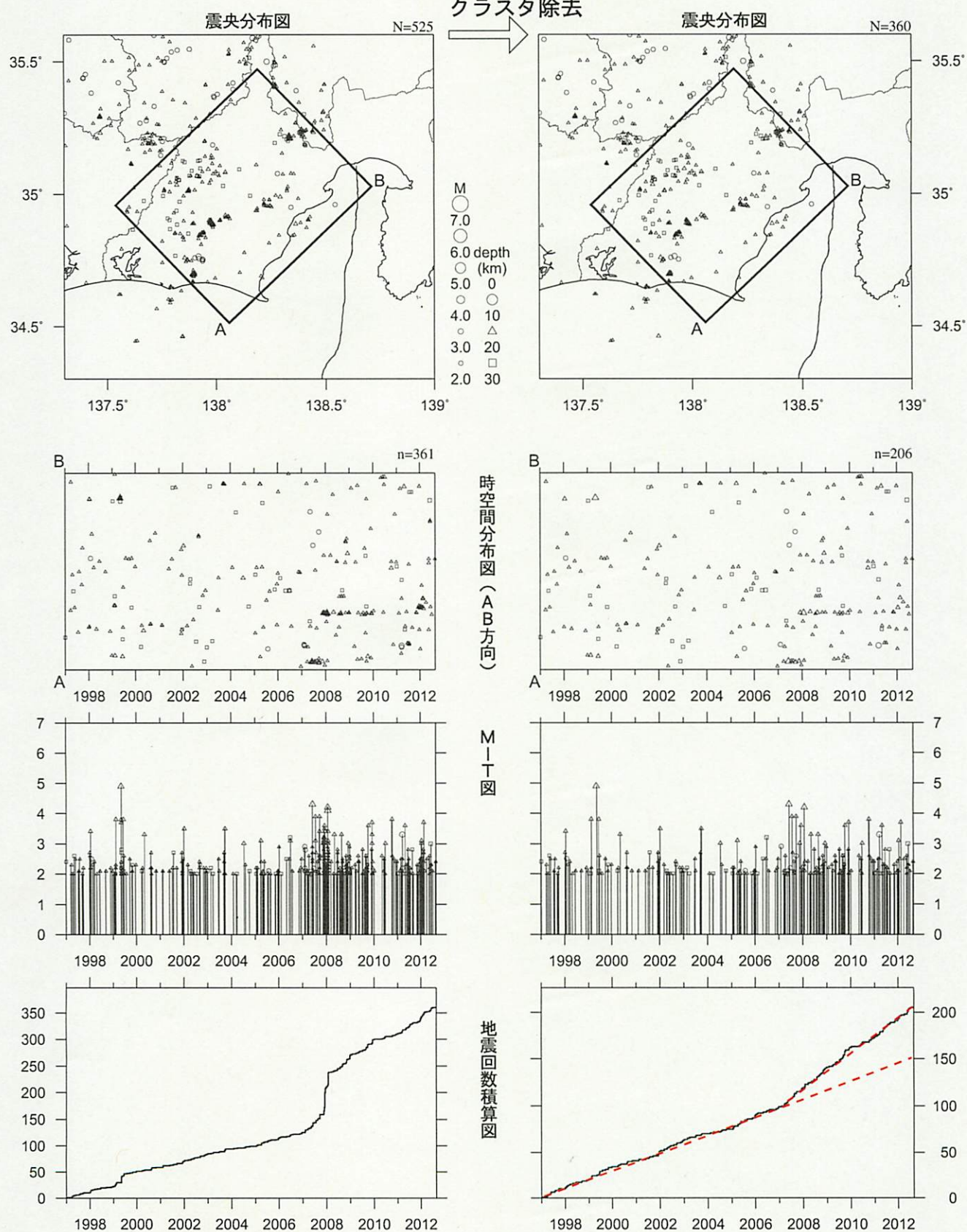


最近60日以内の地震を濃く表示

クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急でやや活発、その後2005年半ばまでは傾きが緩やかでやや低調、2005年半ば以降はやや活発、という傾向が見られる。この地震活動変化は、概ね長期的スロースリップの進行（右下図網掛け領域）・停滞の時期に対応している。2007年後半以降はさらに活発な傾向が見られている。

1997/ 1/ 1~2012/ 8/ 26 $M \geq 2.0$

1997/ 1/ 1~2012/ 8/ 26 $M \geq 2.0$

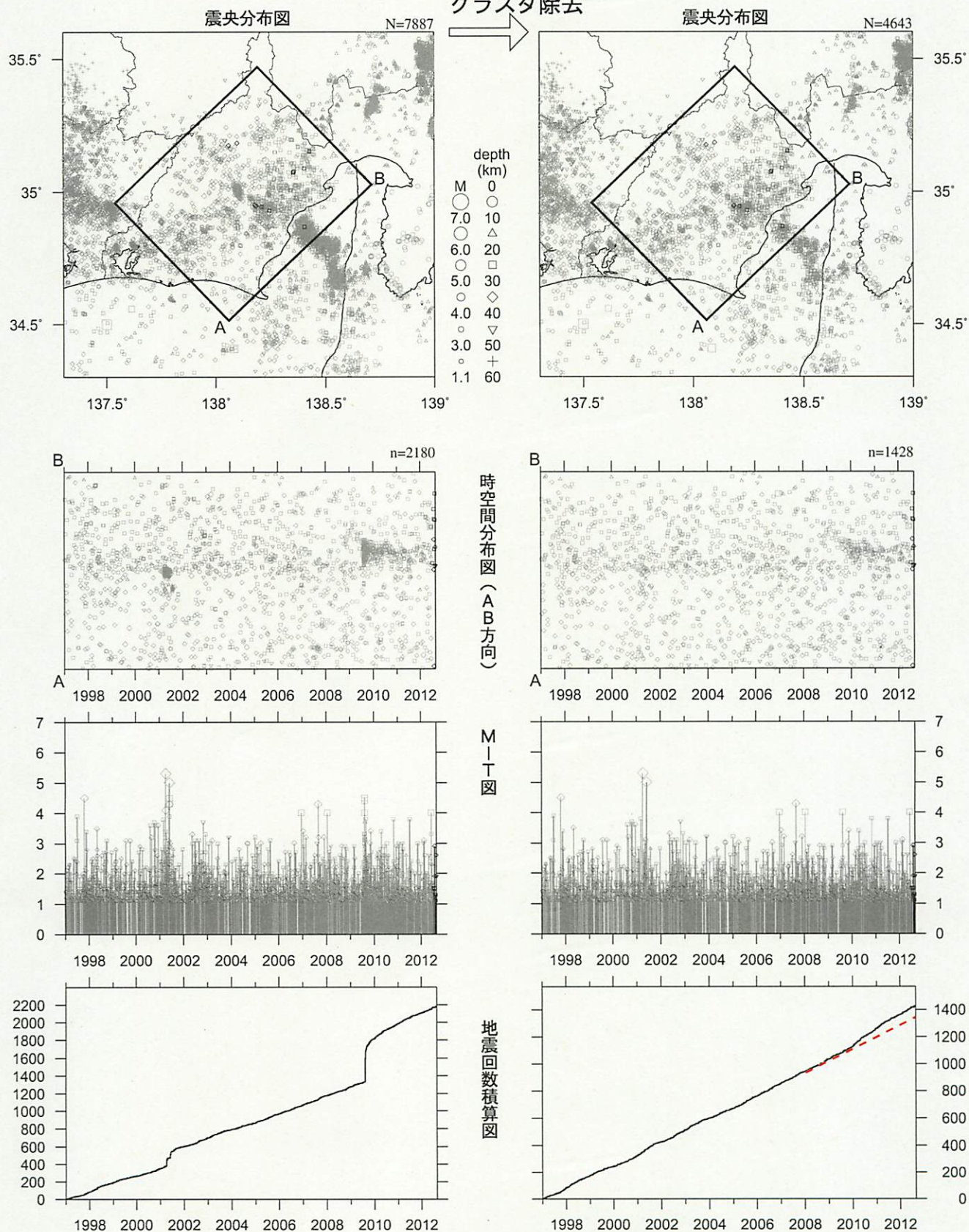


クラスタ除去後の地震回数積算図（右下図）を見ると、**2007年**に入ってから傾きが急でやや活発な状態を示している。

静岡県中西部（フィリピン海プレート内）

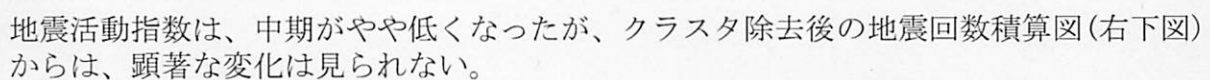
1997/ 1/ 1~2012/ 8/ 26 M ≥ 1.1

クラスタ除去



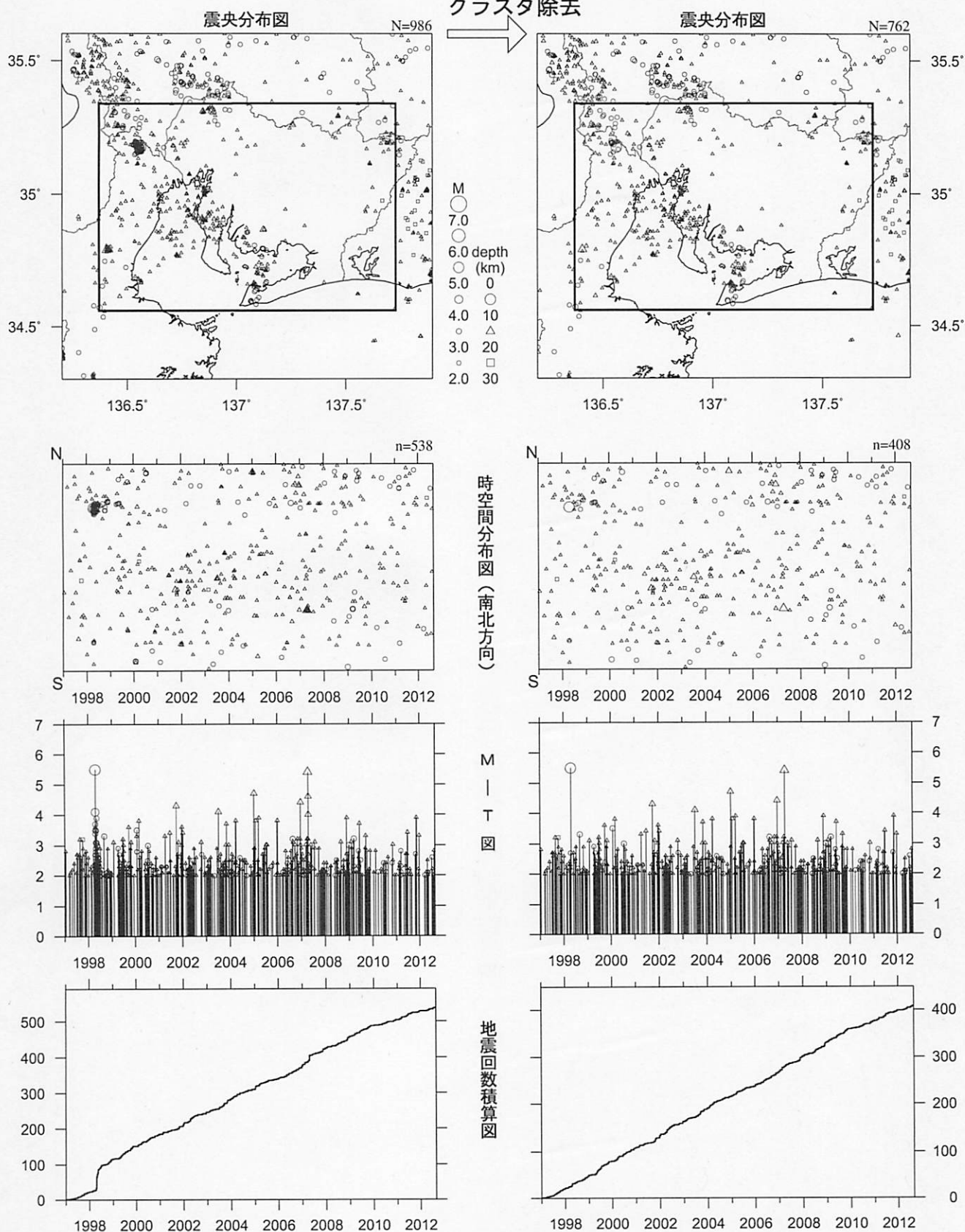
2009年末から2011年始めまで、地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られていた。これは、2009年8月11日に発生した駿河湾の地震(M6.5)の余震活動が適切にデクラスタされていないためである。現在の地震活動指数はほぼ平常からやや高い程度で推移しており、クラスタ除去後の地震回数積算図(右下図)にも顕著な変化は見られない。

気象庁作成

1997/ 1/ 1~2012/ 8/26 $M \geq 1.1$ 

1997/ 1/ 1~2012/ 8/26 $M \geq 2.0$

クラスタ除去

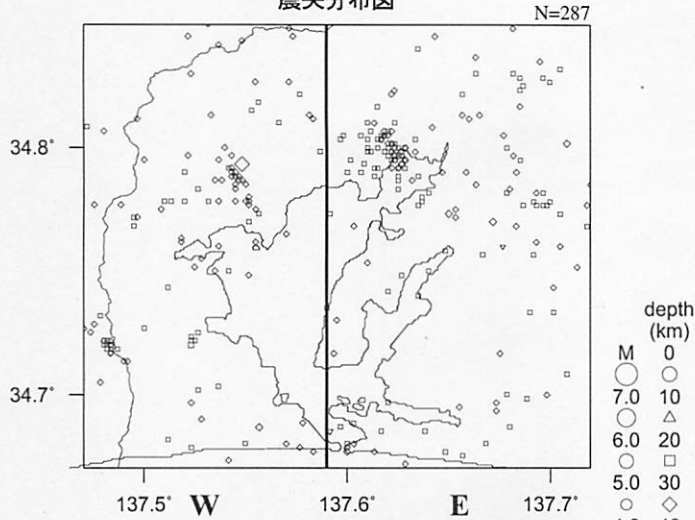


地震活動指数はほぼ平常であるが、クラスタ除去後のM2.0以上の地震回数積算図(右下図)からは、長期的には2009年終わり頃から地震活動はやや静穏な状態で推移している。

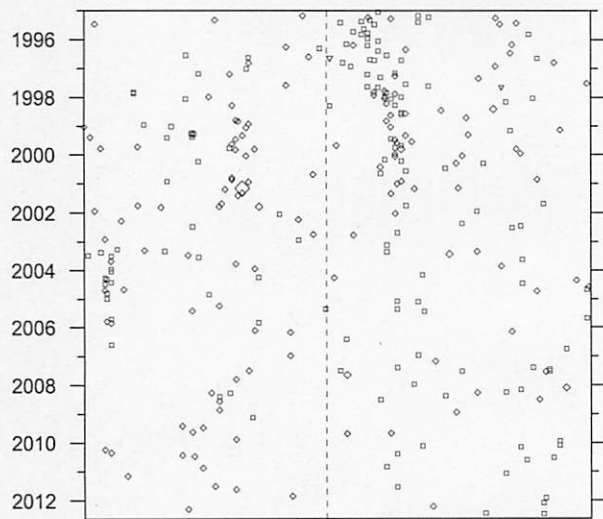
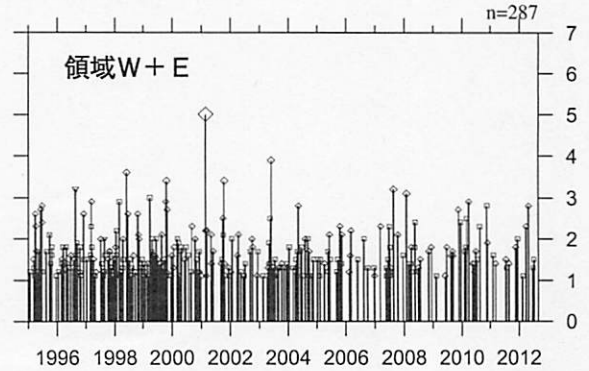
浜名湖周辺（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2012/ 8/26 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

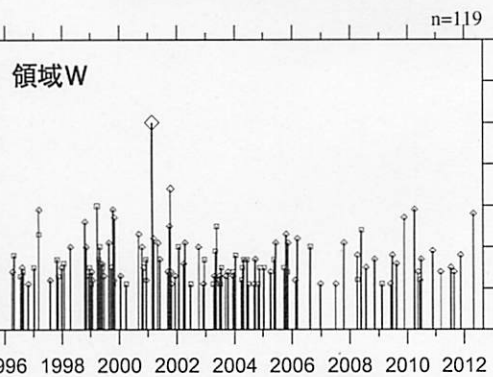
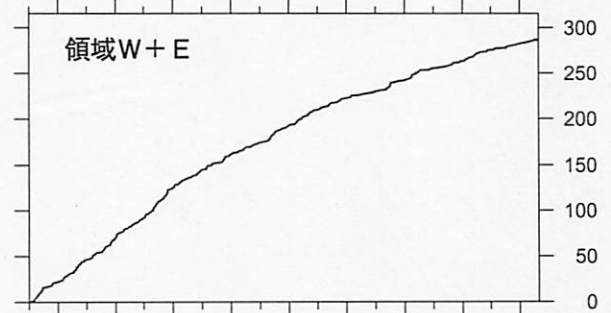
震央分布図



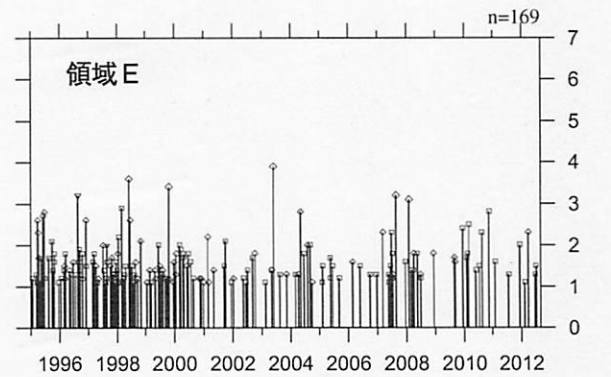
M-T 図



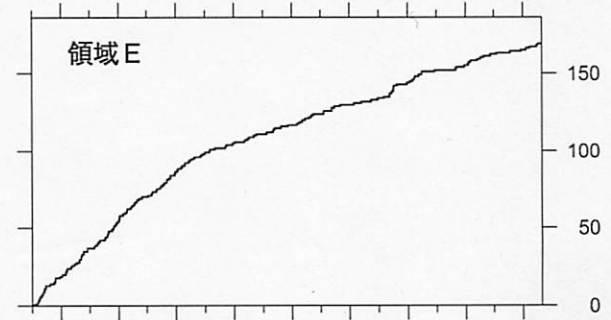
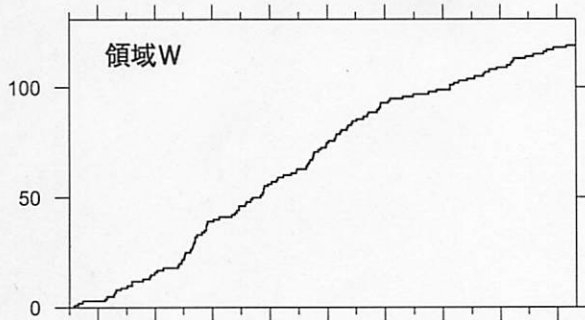
地震回数積算図



M-T 図



地震回数積算図



[東側] 地震回数積算図 (右下図) を見ると、地震活動は2000年以降やや低調。

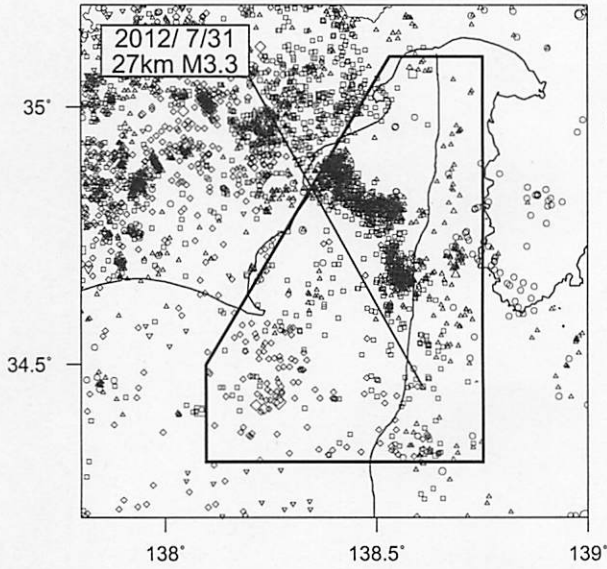
[西側] 地震回数積算図 (左下図) を見ると、2006年以降やや低調。

駿河湾

1990/ 1/ 1~2012/ 8/ 26 M ≥ 1.4

震央分布図

N=4057



震央分布図

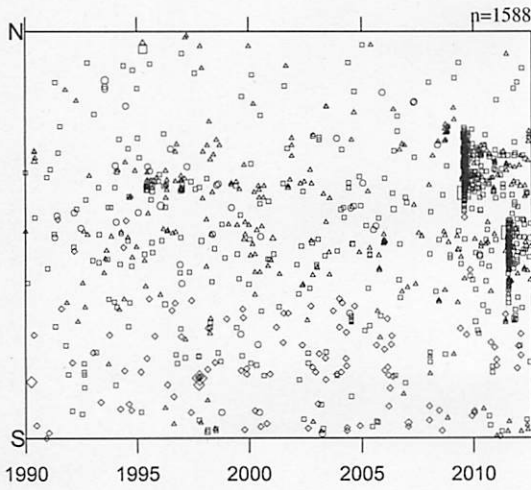
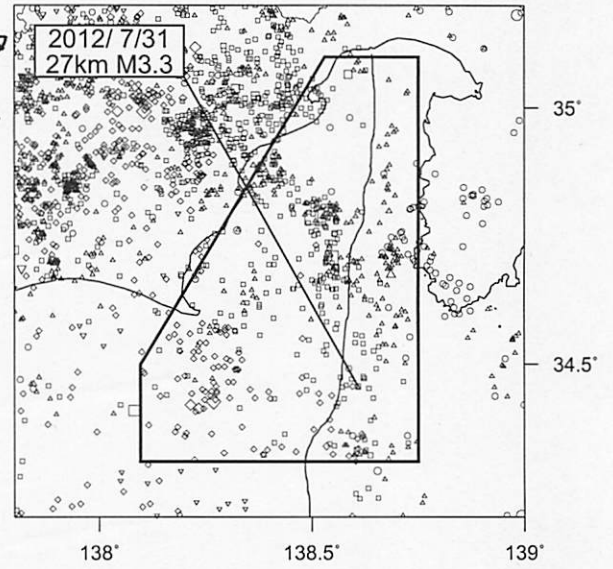
N=1970

クラスター
除去

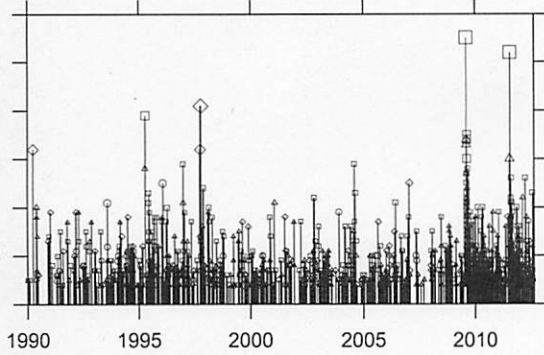
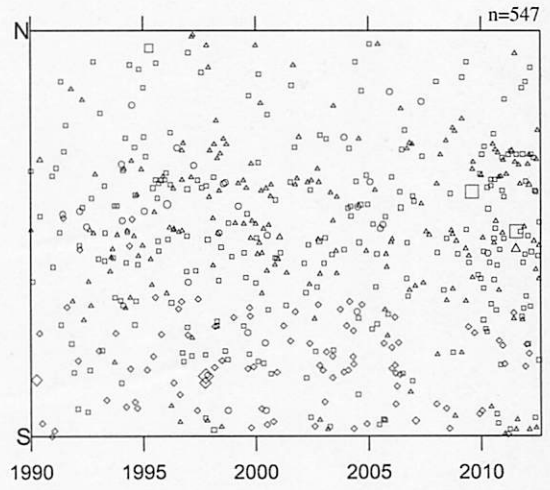
depth
(km)

M

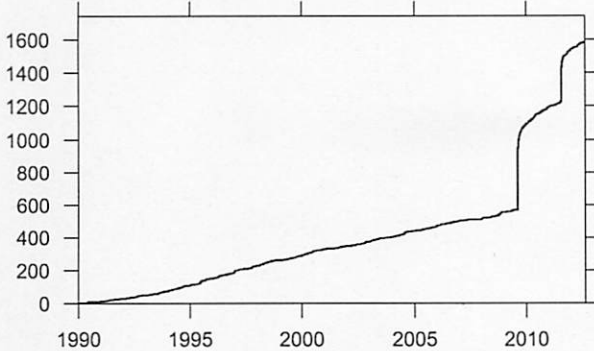
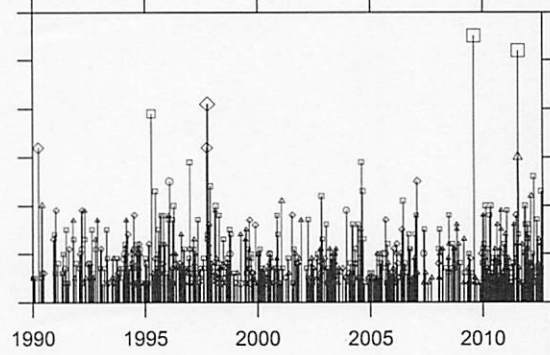
0 0
7.0 10
6.0 20
5.0 30
4.0 40
3.0 50
1.4 60



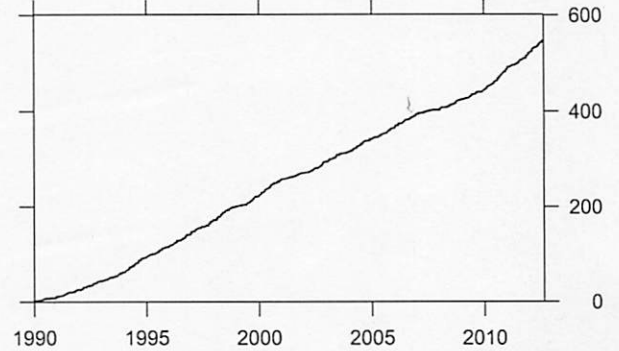
時空間分布図(南北方向)



M-T 図



地震回数積算図

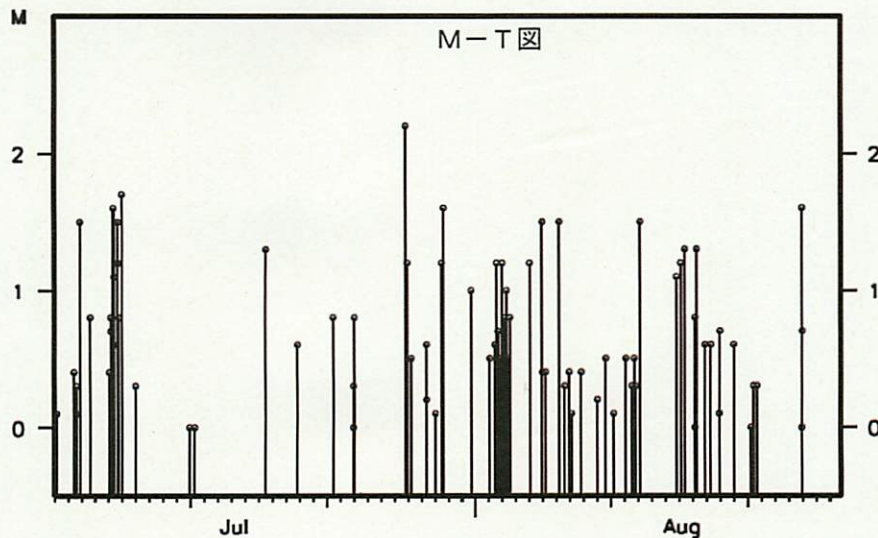
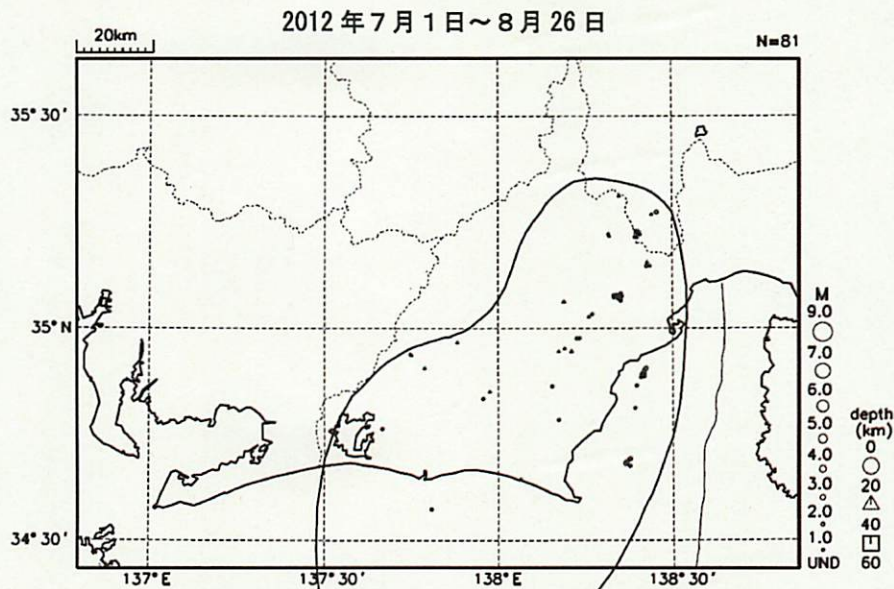


2010年頃地震活動指数はやや高い状態を示しており、クラスター除去後の地震回数積算図(右下図)からも同様の傾向が見られる。これは、2009年8月の駿河湾の地震(M6.5)と、2011年8月の駿河湾の地震(M6.2)余震活動が適切にデクラスターされていないためである。現在の地震活動指数もやや高い状態で推移している。

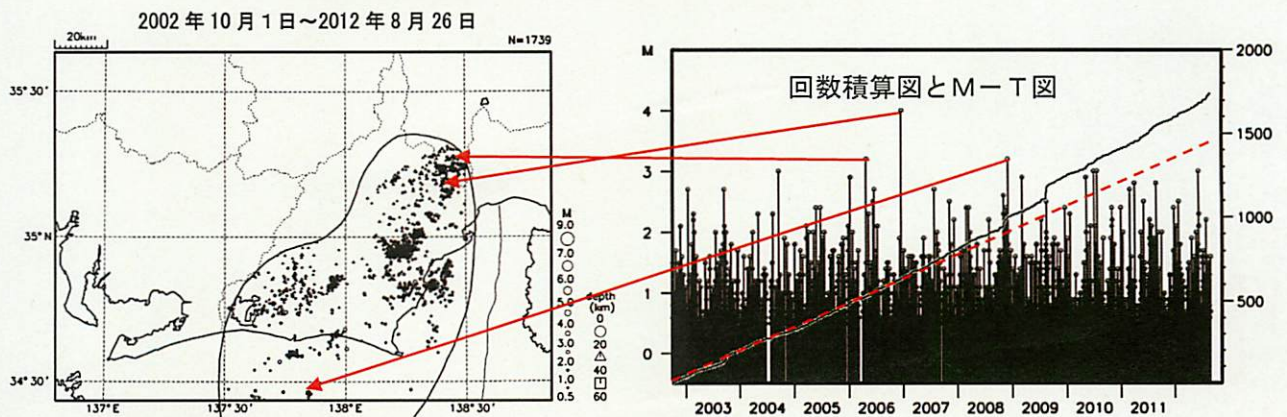
プレート境界とその周辺の地震活動(最近の活動状況)

(Hirose et al. (2008)によるフィリピン海スラブ上面深さの±3kmの地震を抽出)

プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (最近約1ヶ月半、Mすべて)



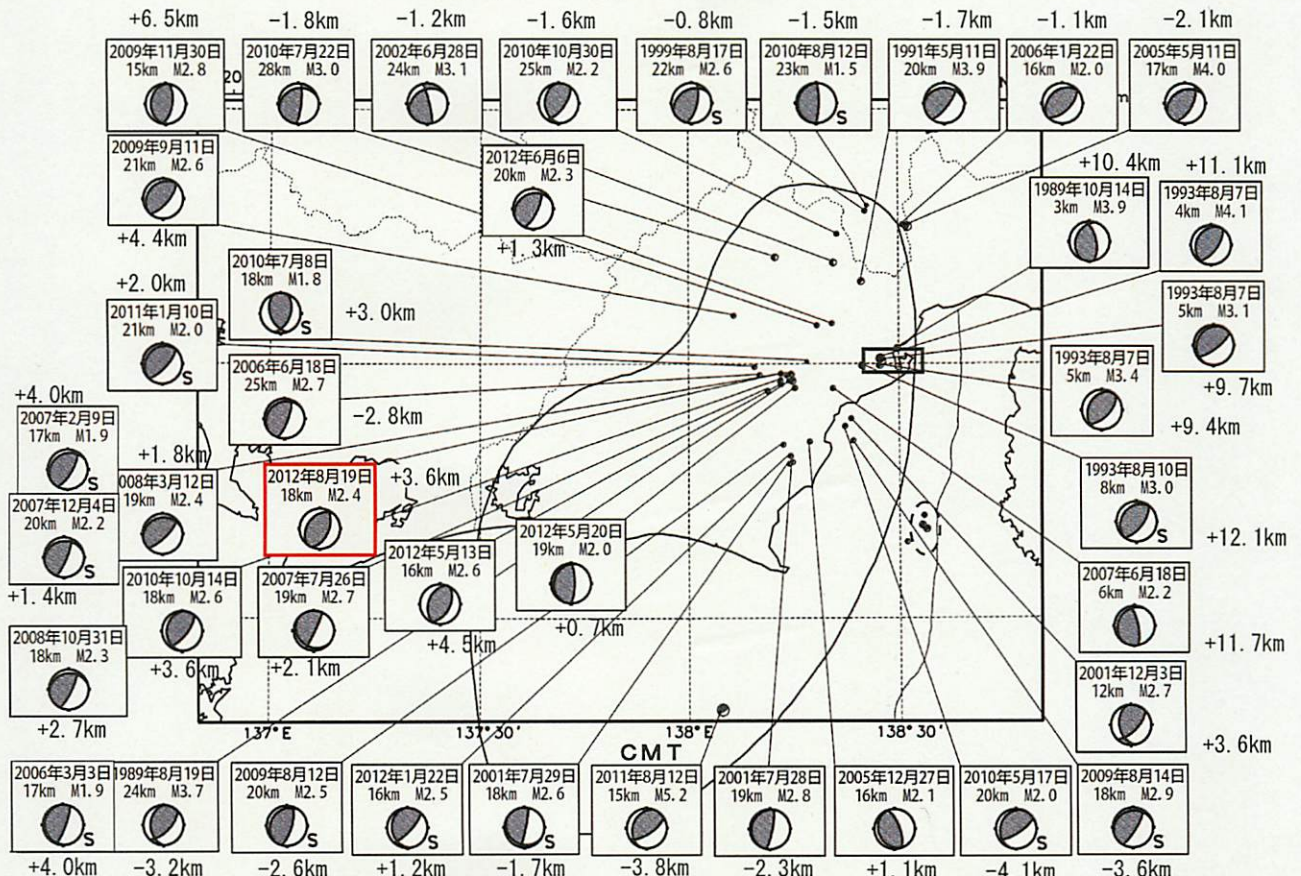
プレート境界とその周辺の地震の震央分布 (2002年10月以降、 $M \geq 0.5$)



2002年10月以降 ($M \geq 0.5$) で見ると、東海地域のプレート境界とその周辺の地震活動は、2007年中頃あたりからやや活発に見える。なお、2009年8月11日以降は、駿河湾の地震($M6.5$)の余震活動の一部を抽出している。M3を超える地震については、その震央を矢印で示しているが、これらの地震の発震機構解は想定東海地震のものとは類似の型ではない。 気象庁作成

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

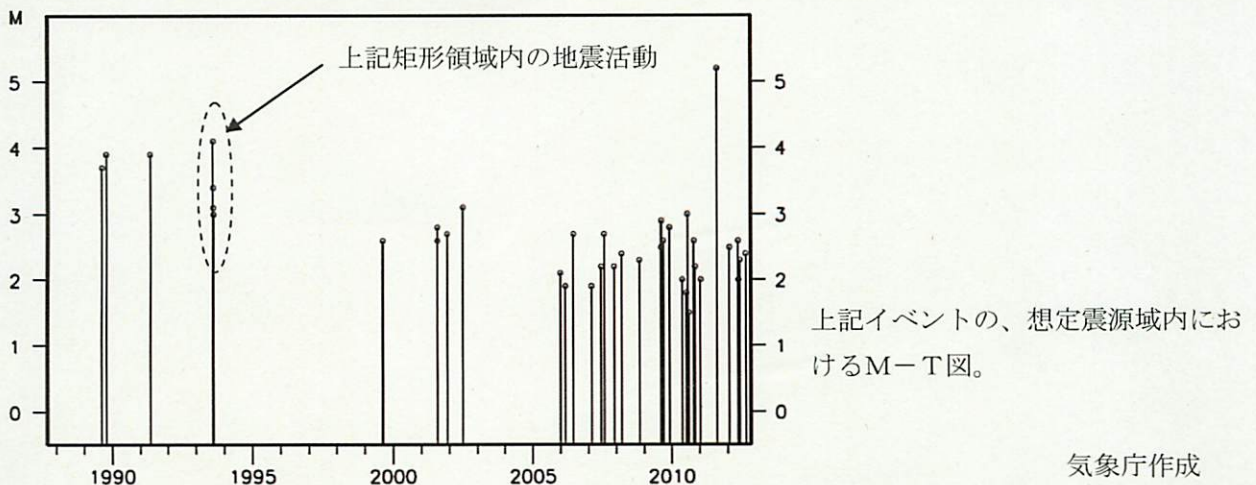
1987年9月1日～2012年8月26日



想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、P軸の傾斜角が45度以下、かつP軸の方位角が65度以上145度以下、かつT軸の傾斜角が45度以上、かつN軸の傾斜角が30度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内またはスラブ内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008)の3次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。点線楕円で囲まれた地震は、2011年8月1日に発生したM6.2の地震の余震で、フィリピン海プレート内の地震である。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りにSの表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



7月～8月 伊豆東部※の活動

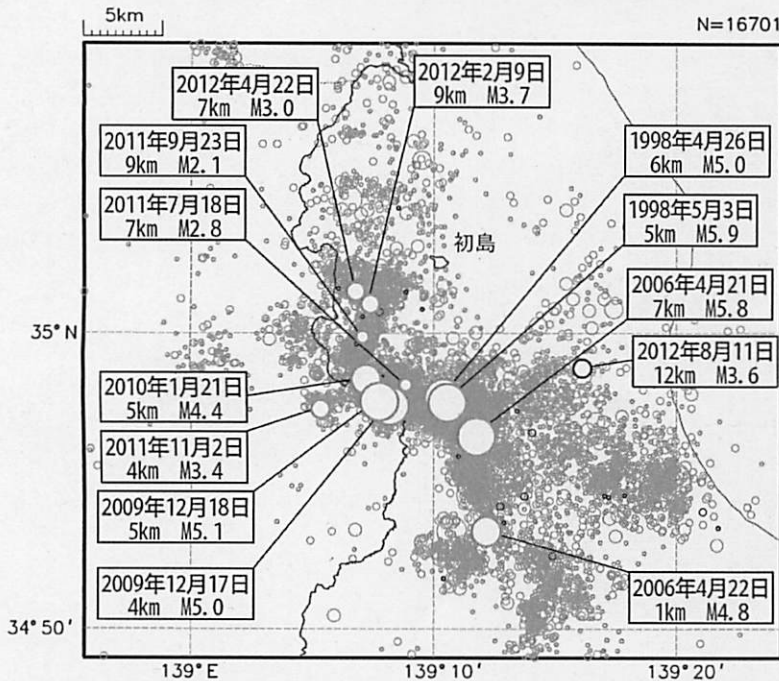
※ 「伊豆東部の地震活動に関する情報」で対象としている領域

8月11日01時32分にM3.6の地震（最大震度2）が発生したが、周辺に活動の変化はみられない。

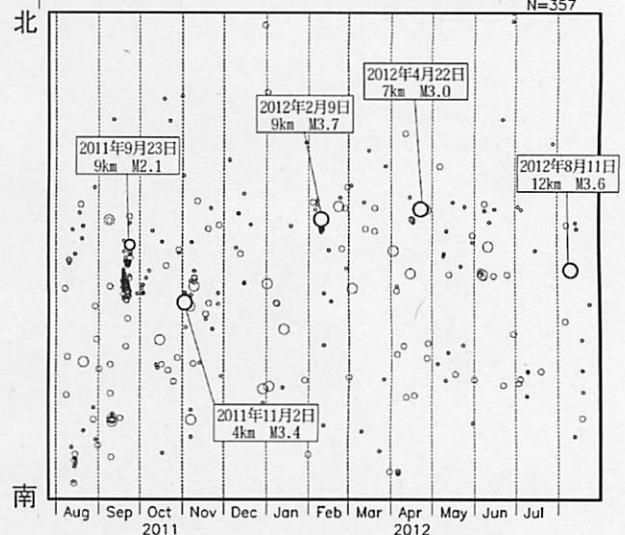
7月下旬～8月下旬にかけて、伊豆東部の体積ひずみ計（東伊豆奈良本）及び傾斜計（伊東猪山、岡、徳永、吉田）では、東伊豆奈良本で雨による変化が見られる以外に、目立った変化は観測されていない。

震央分布図（1997年10月1日～2012年8月26日、 $M \geq 0.5$ 、深さ0～20km）

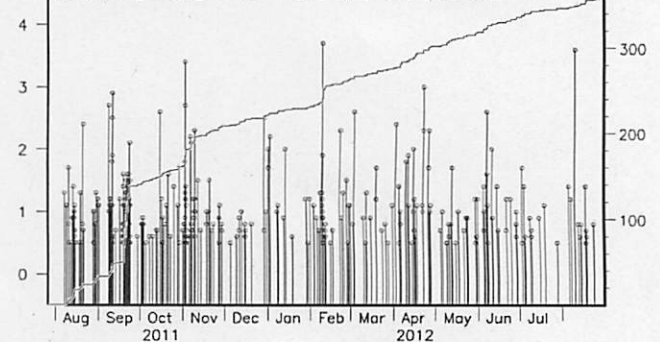
2012年6月までの地震を薄く、2012年7月以降の地震を濃く表示。



左図内の地震の時空間分布図（南北投影）（2011年8月1日～2012年8月26日）



左図内の地震のM-T図、回数積算図=357（2011年8月1日～2012年8月26日）



東伊豆地域の体積ひずみ計・傾斜計の記録（2012年7月28日00時～8月28日00時）

体積ひずみ・傾斜（気圧・潮汐補正; 時間値）伊豆東部
2012/07/28 00:00 - 2012/08/28 00:00

EXP. NEup 1.0E-07 strain 30 hPa
1.0E-06 radian 30 mm/1hour
0.5 degree
50 count/1hour

東伊豆奈良本LP
-7.927036E-09/DAY

伊東猪山傾NS

伊東猪山傾EW

防)岡傾NS

防)岡傾EW

防)徳永傾NS

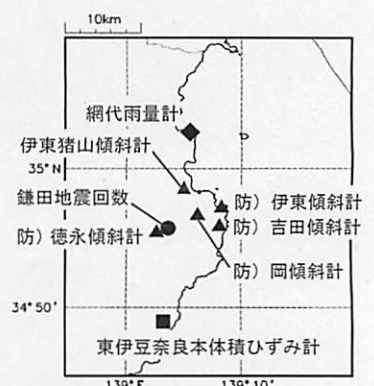
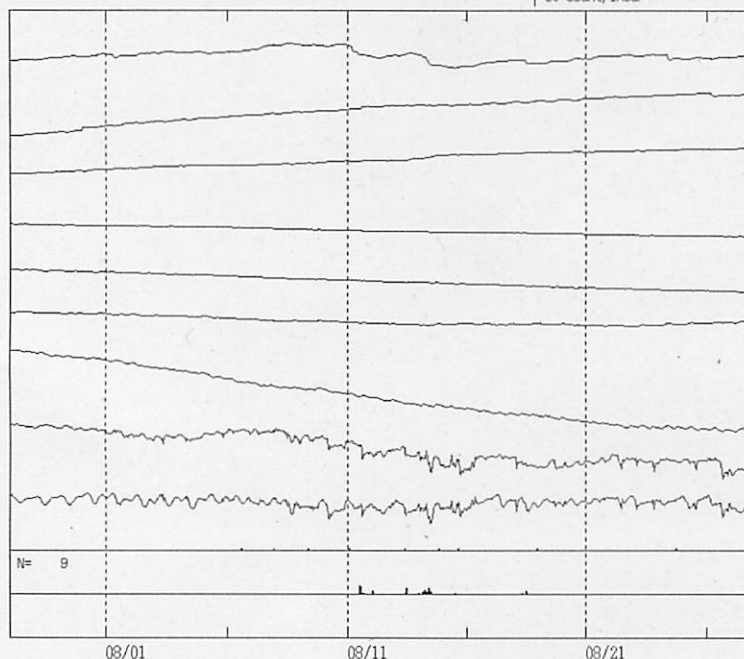
防)徳永傾EW

防)吉田傾NS

防)吉田傾EW

鎌田地震回数

網代雨



防)は独立行政法人防災科学技術研究所の観測点である。

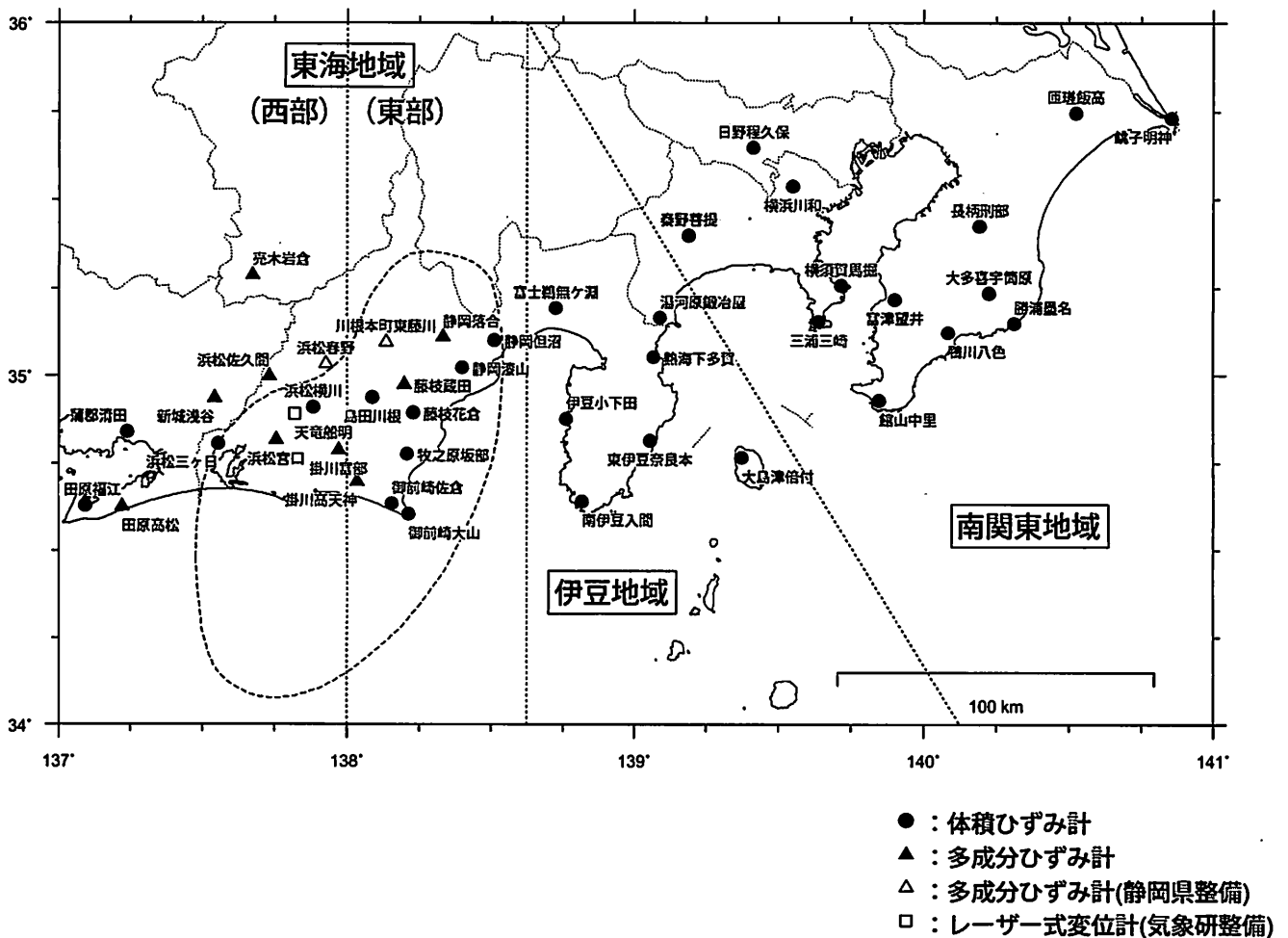
気象庁作成

ひずみ計による観測結果 (2012年2月1日～2012年8月27日)

短期的ゆっくり滑りに起因すると見られる次の地殻変動がひずみ計観測網で観測された。

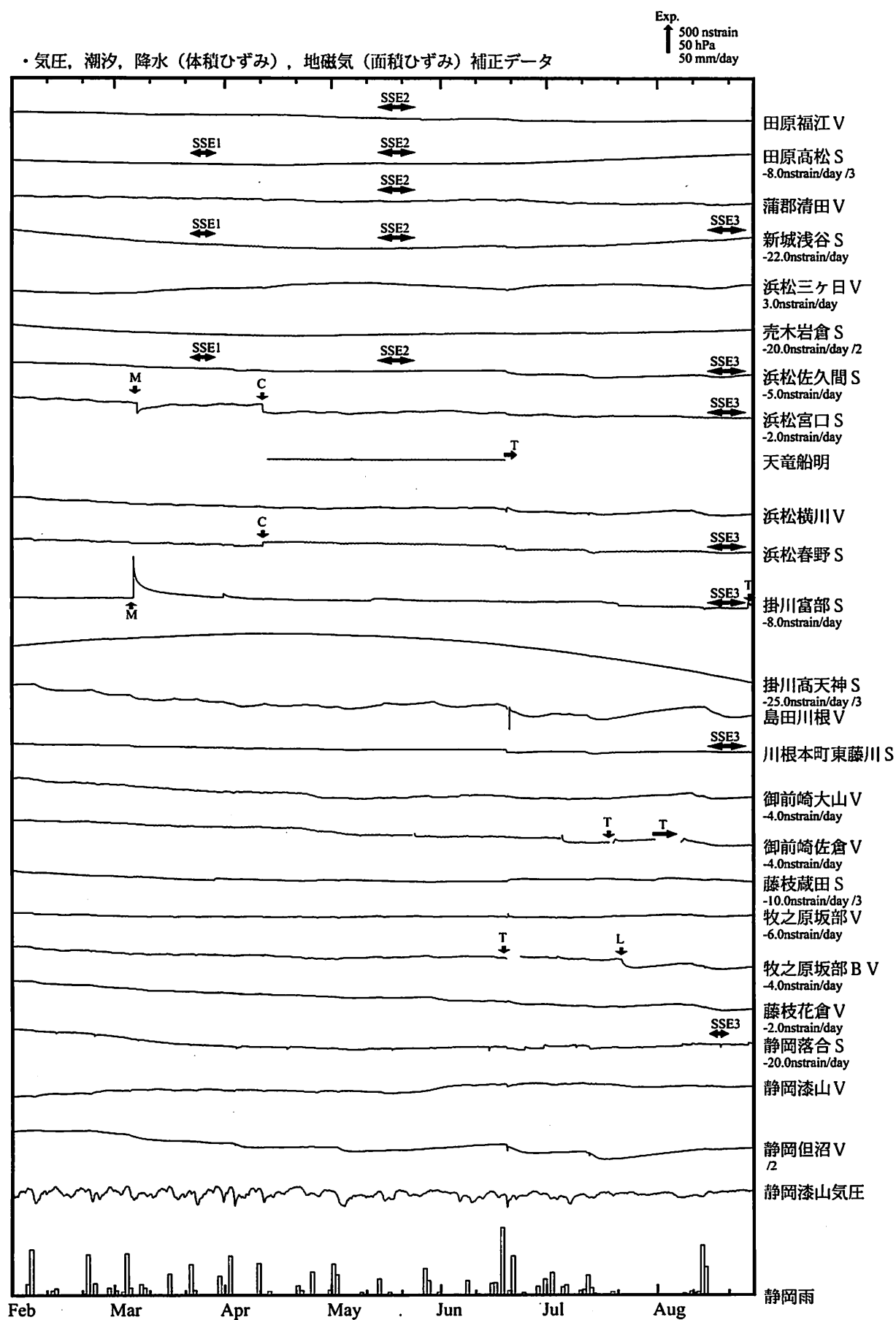
- SSE1 : 2012年3月23日から28日にかけて観測された。(第312回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
 SSE2 : 2012年5月15日から23日にかけて観測された。(第313回地震防災対策強化地域判定会資料参照)
 SSE3 : 2012年8月16日から25日にかけて観測された。(第316回地震防災対策強化地域判定会資料参照)

ひずみ計の配置図



気象庁作成

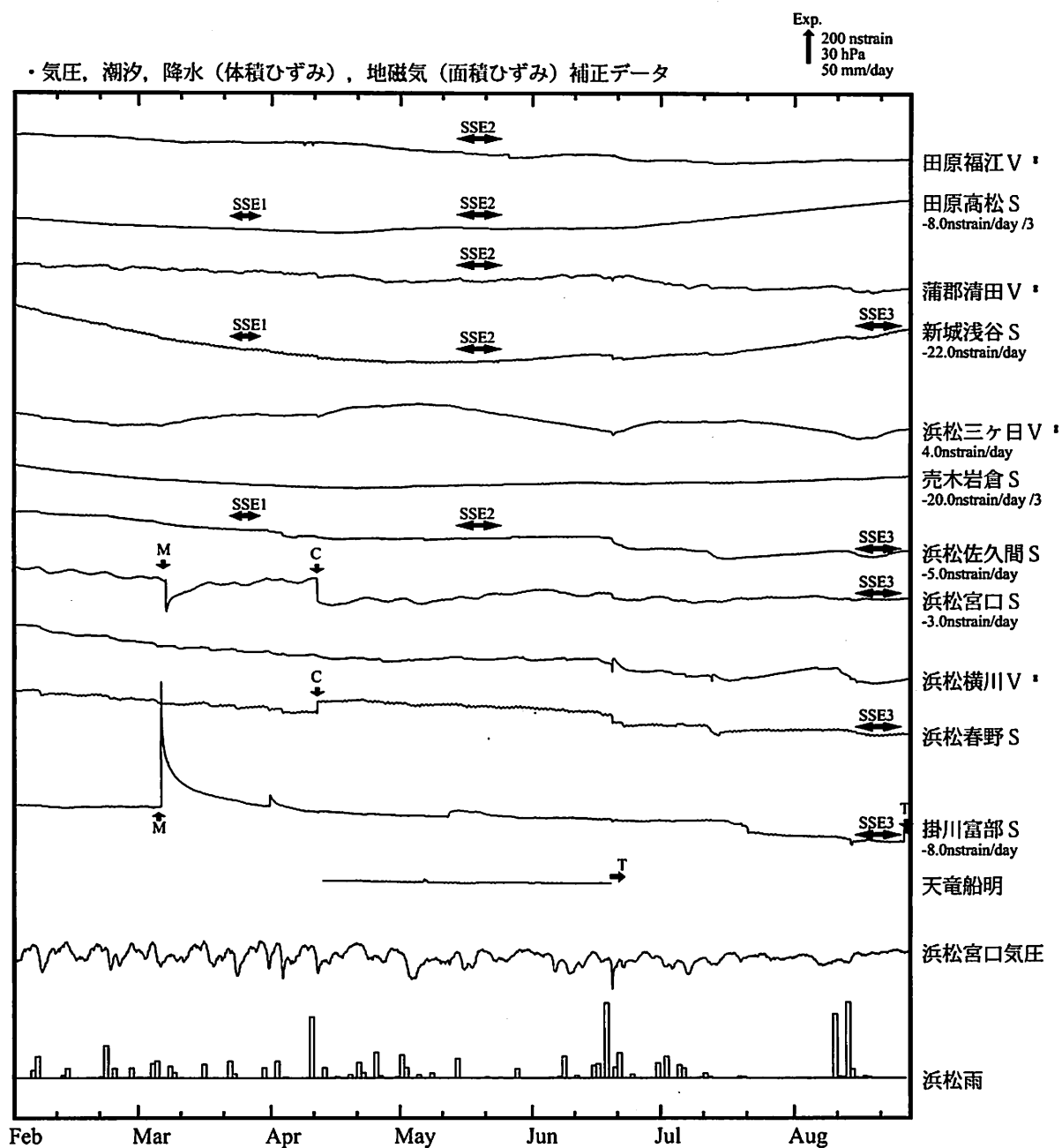
ひずみ変化 時間値 (東海地域)



※ C：地震に伴うステップ状の変化, L：局所的な変化, S：例年見られる変化, M：調整, T：障害

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（東海地域（西部））



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

※天竜船明（気象研究所整備）は、レーザー式変位計におけるひずみ変化を示す。

※田原福江は、地下水の汲み上げに伴うひずみ変化を補正している。

SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2012.03.23-03.28

SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2012.05.15-05.23

SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

C : 地震に伴うステップ状の変化

L : 局所的な変化

S : 例年見られる変化

M : 調整

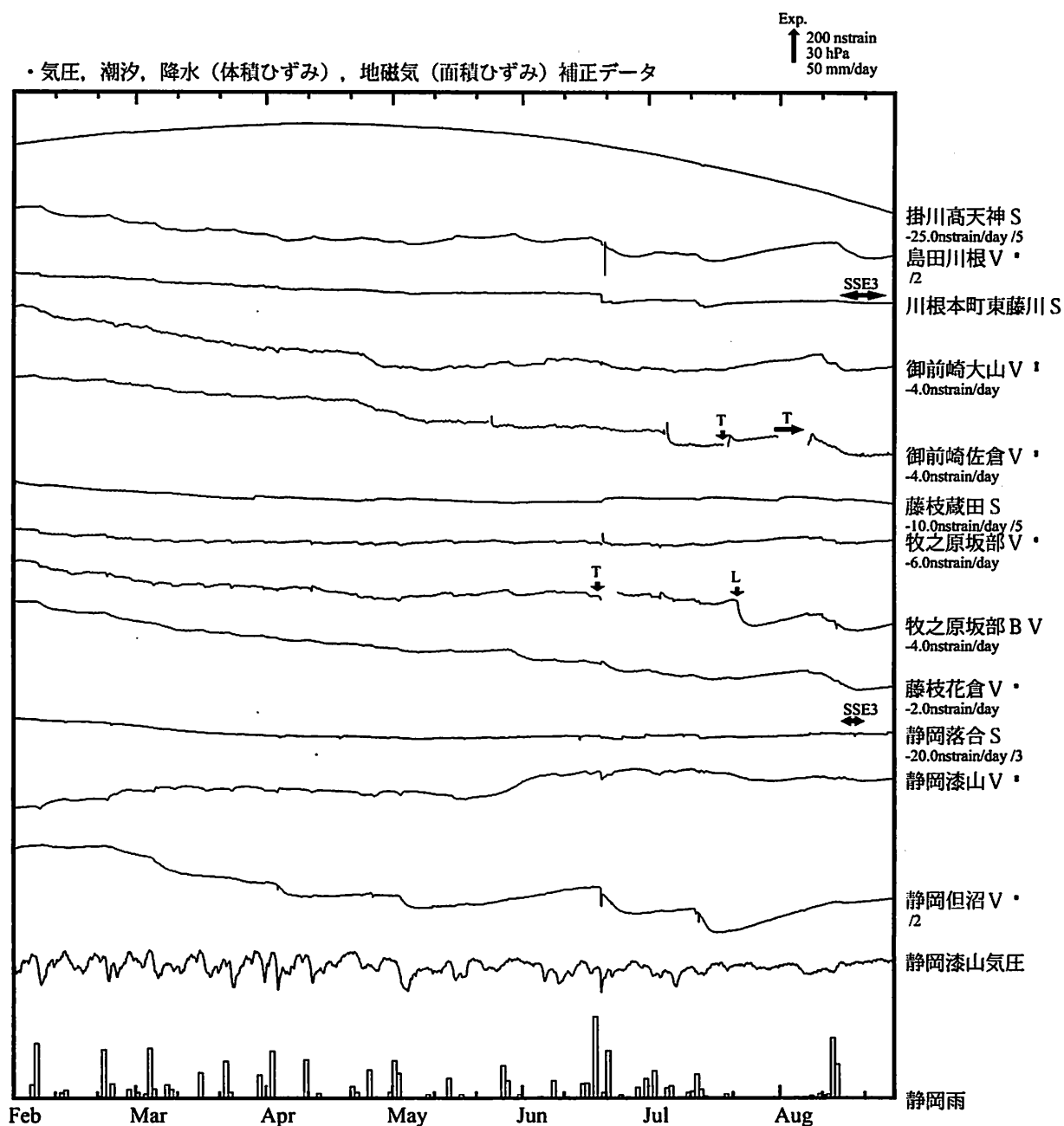
T : 障害

表示観測点の名称

田原福江	たはらふくえ
田原高松	たはらたかまつ
蒲郡清田	がまごおりせいだ
新城浅谷	しんしろあさや
浜松三ヶ日	はまつみっかび
売木岩倉	うるぎいわくら
浜松佐久間	はまつさくま
浜松宮口	はまつみやぐち
浜松横川	はまつよこかわ
浜松春野	はまつはるの
掛川富部	かけがわとんべ
天竜船明	てんりゅうふなざら

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（東海地域（東部））



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。

※記号Vは体積ひずみを、Sは多成分ひずみ計で観測した線ひずみより計算した面積ひずみを示す。

SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

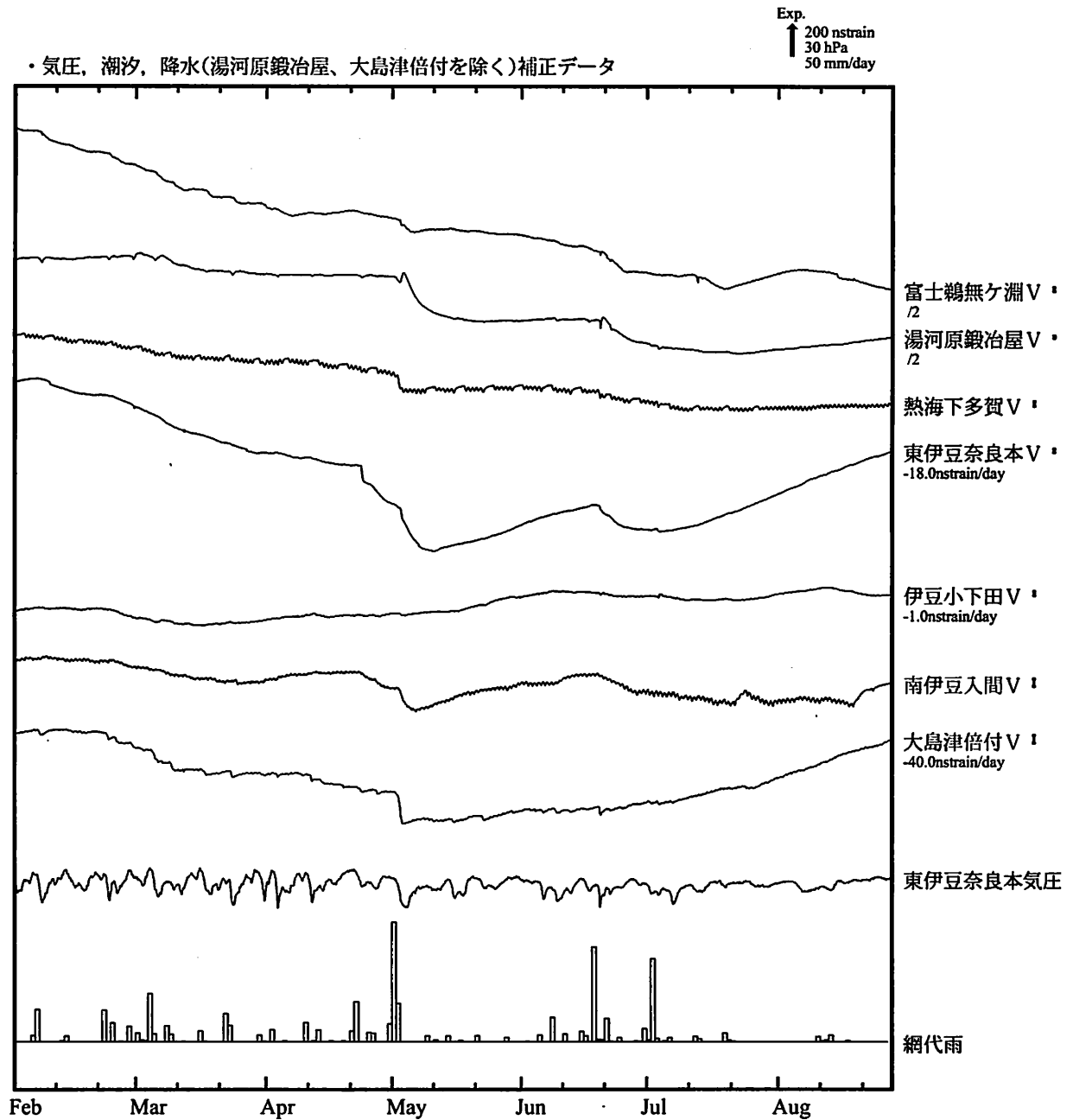
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

表示観測点の名称

掛川高天神	かけがわとかてんじん
島田川根	しまだかわね
川根本町東藤川	かわねほんちょう
	ひがしふじかわ
御前崎大山	おまえざきおおやま
御前崎佐倉	おまえざきさくら
藤枝蔵田	ふじえだくらた
牧之原坂部	まきのはらさかべ
藤枝花倉	ふじえだはなくら
静岡落合	しずおかおあい
静岡漆山	しずおかうるしやま
静岡但沼	しずおかただぬま

気象庁作成

ひずみ変化 時間値（伊豆地域）



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

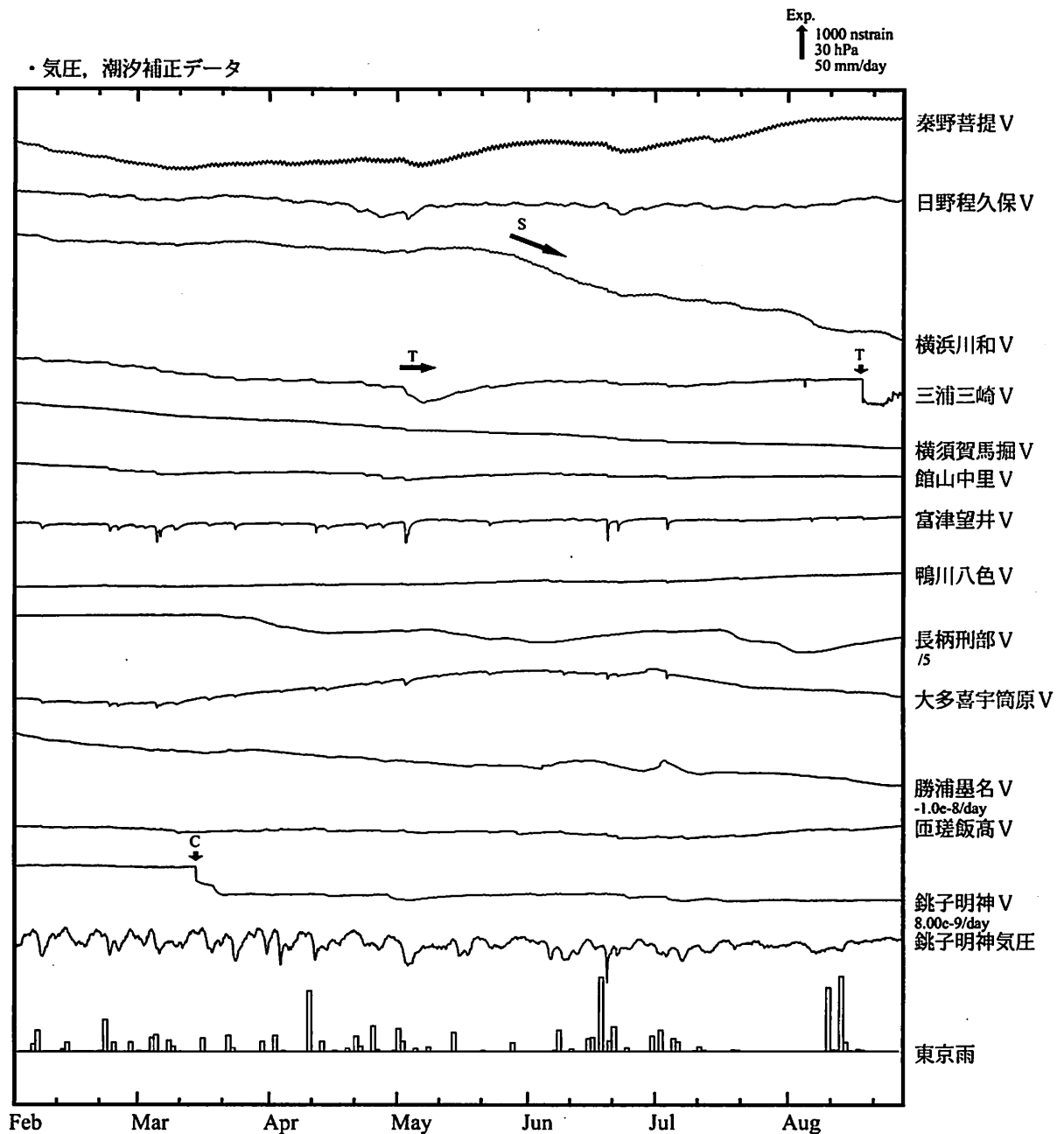
C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

表示観測点の名称

富士鶴無ヶ淵	ふじうないがふち
湯河原鍛冶屋	ゆがわらかじや
熱海下多賀	あたみしもたが
東伊豆奈良本	ひがしいずならもと
伊豆小下田	いずこしもだ
南伊豆入間	みなみいづるま
大島津倍付	おおしまつばいつき

気象庁作成

ひずみ変化 時間値 (南関東地域)



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

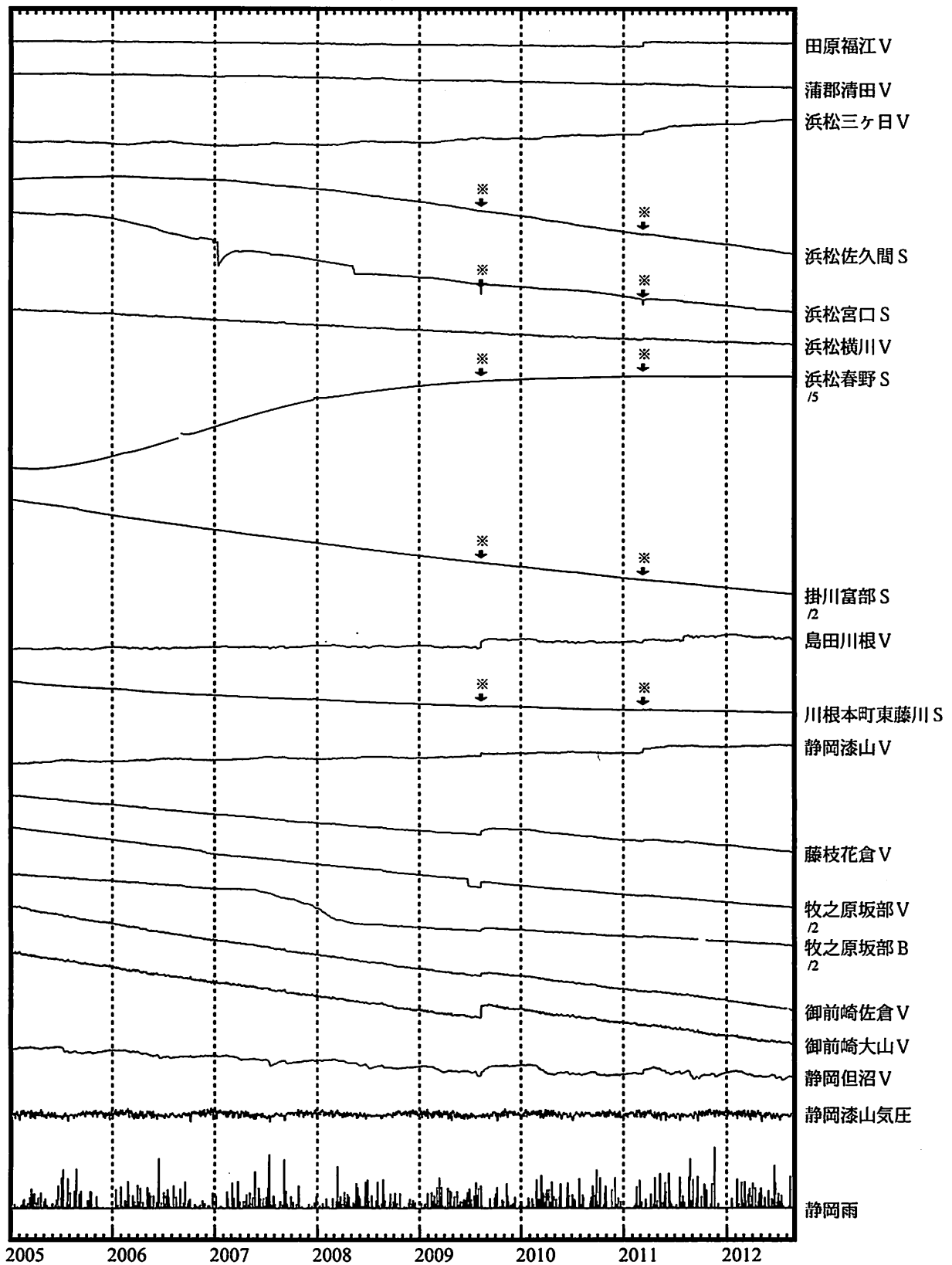
表示観測点の名称

秦野菩提	はだのぼだい
日野程久保	ひのほどくぼ
横浜川和	よこはまかわわ
三浦三崎	みうらみさき
横須賀馬堀	よこすかまぼり
館山中里	たてやまなかざと
富津望井	ふつつもちい
鴨川八色	かもがわやいろ
長柄刑部	ながらおさかべ
大多喜字筒原	おおたきうとうぼら
勝浦墨名	かつうらとな
匝瑳飯高	そうさいいだか
銚子明神	ちようしみようじん

気象庁作成

ひずみ変化 日平均値（東海地域）

↑5000 nstrain
100 hPa
100 mm

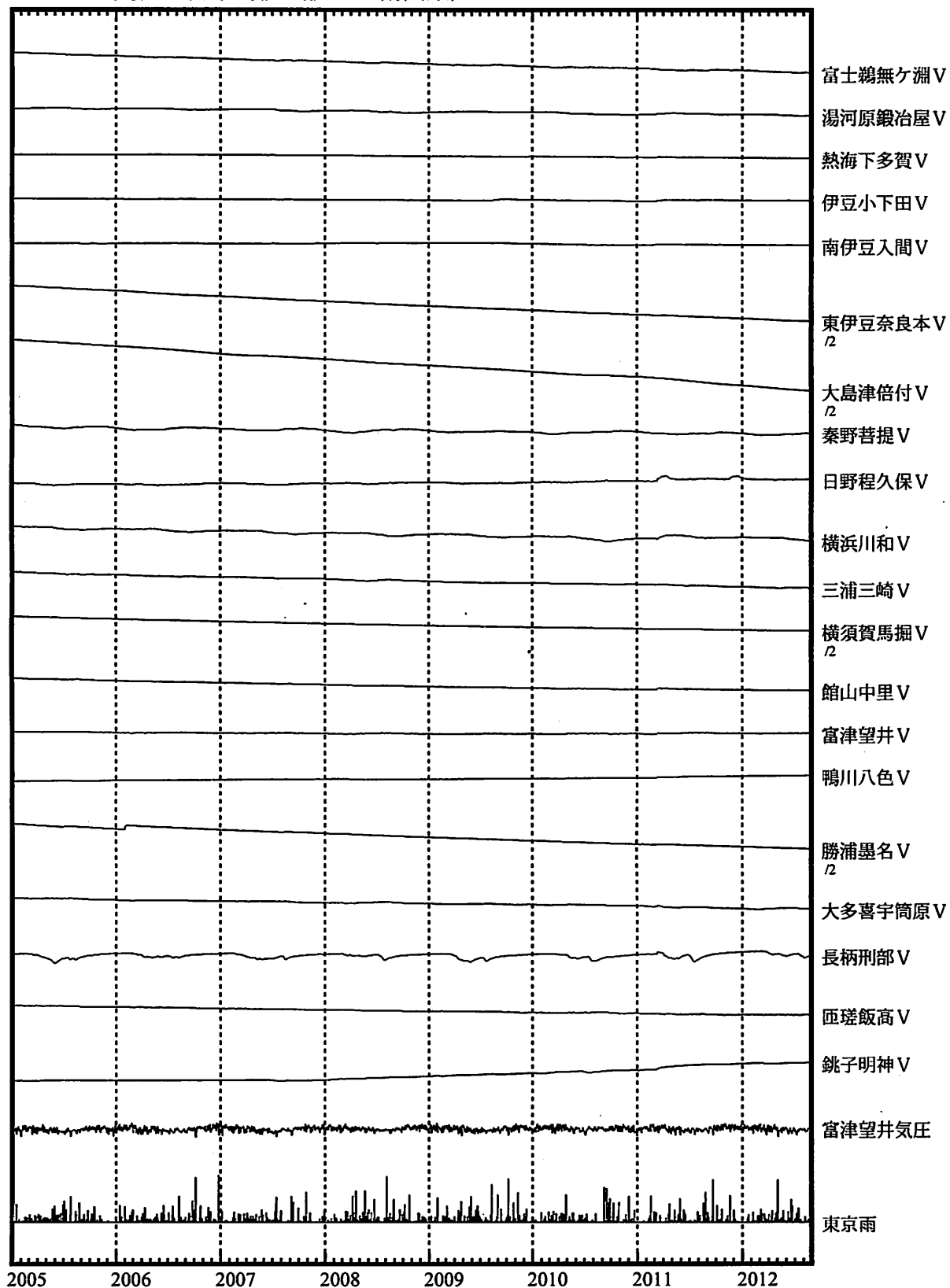


※面積ひずみは、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップ状の変化を除外して計算している。

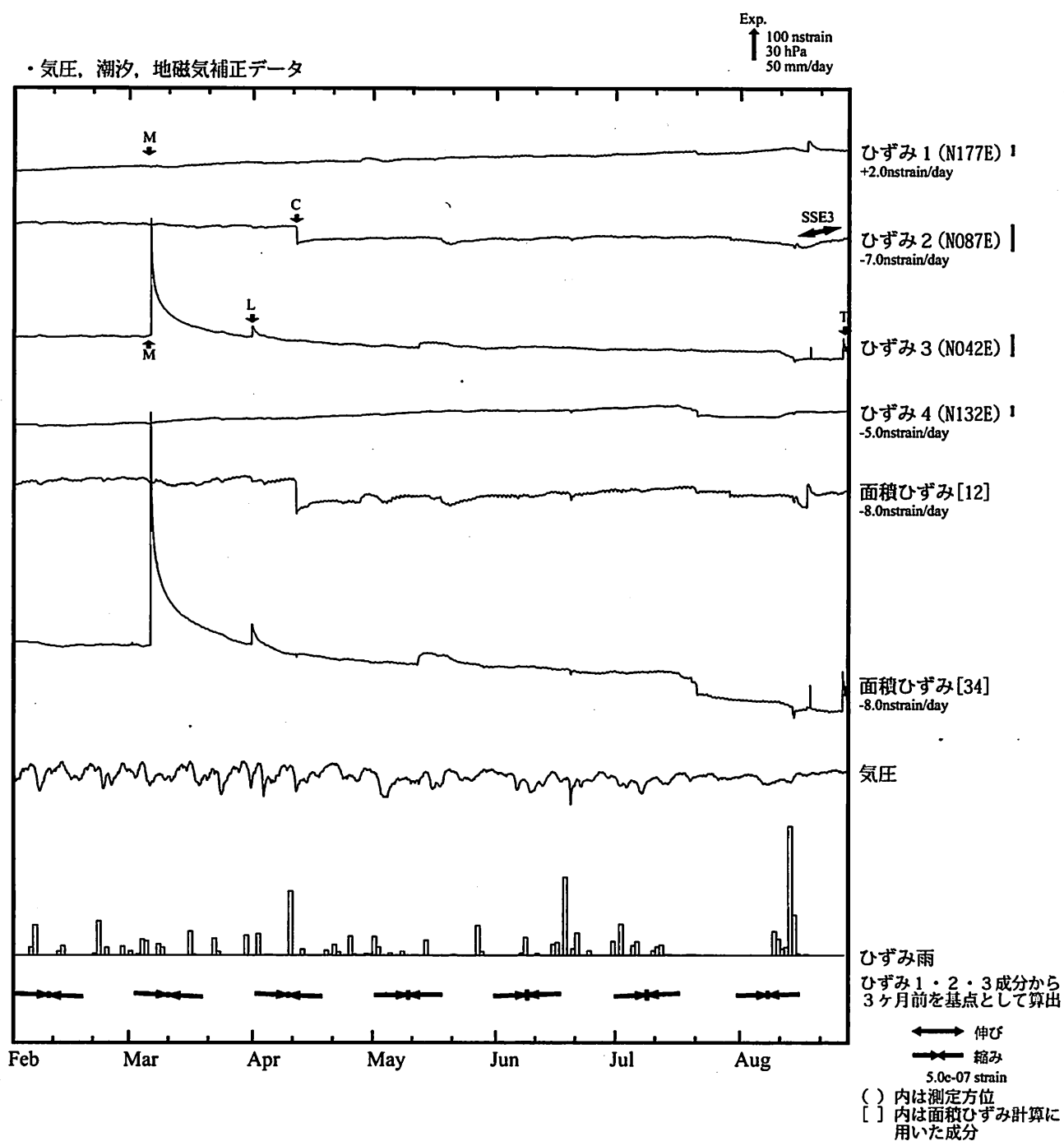
気象庁作成

ひずみ変化 日平均値 (伊豆・南関東)

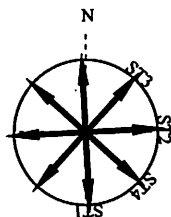
↑ 30000 nstrain
100 hPa
100 mm



掛川富部（かけがわとんべ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。



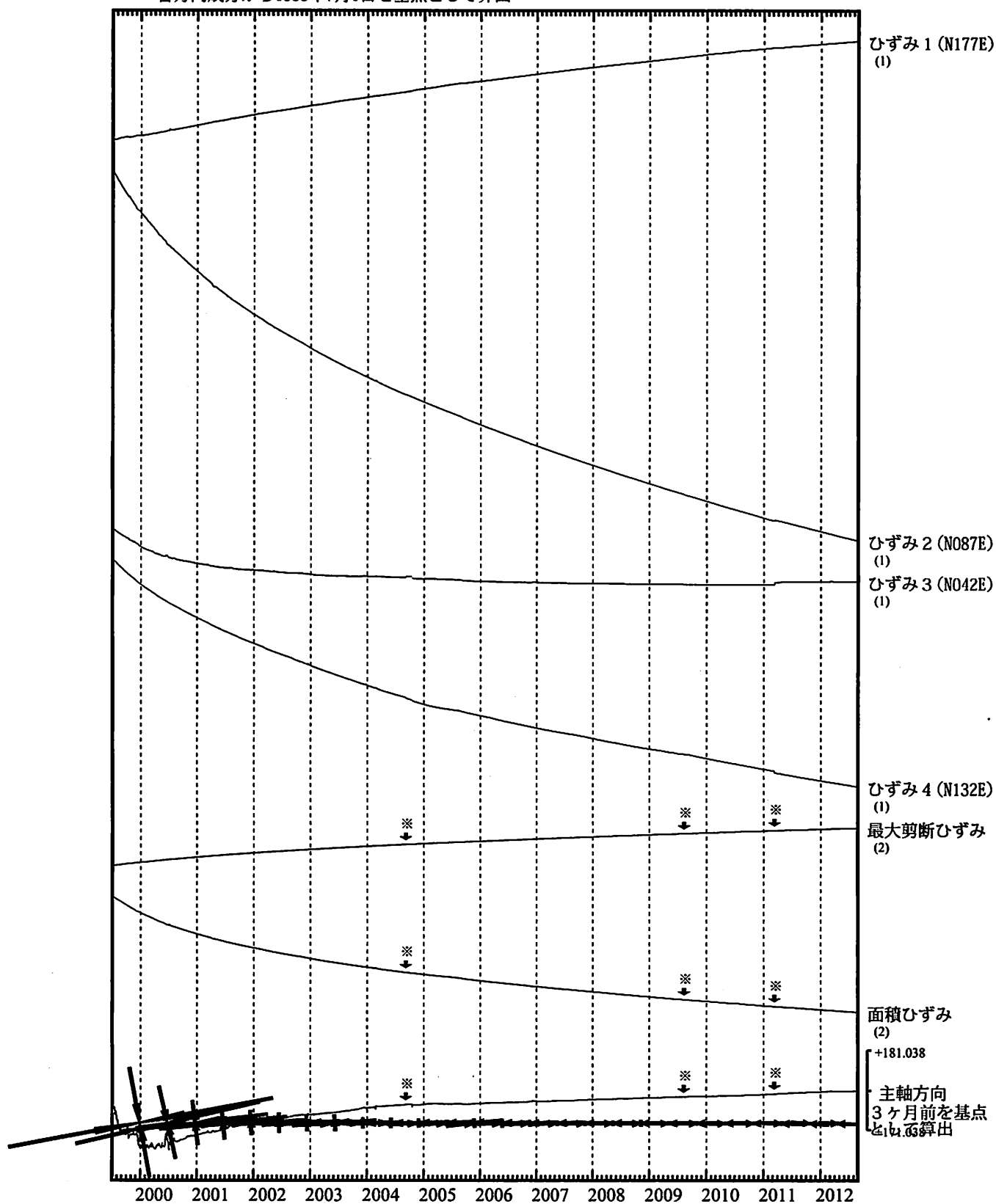
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

掛川富部ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ 1、2、3 の各方向成分から1999年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain (1)
20000 nstrain (2)



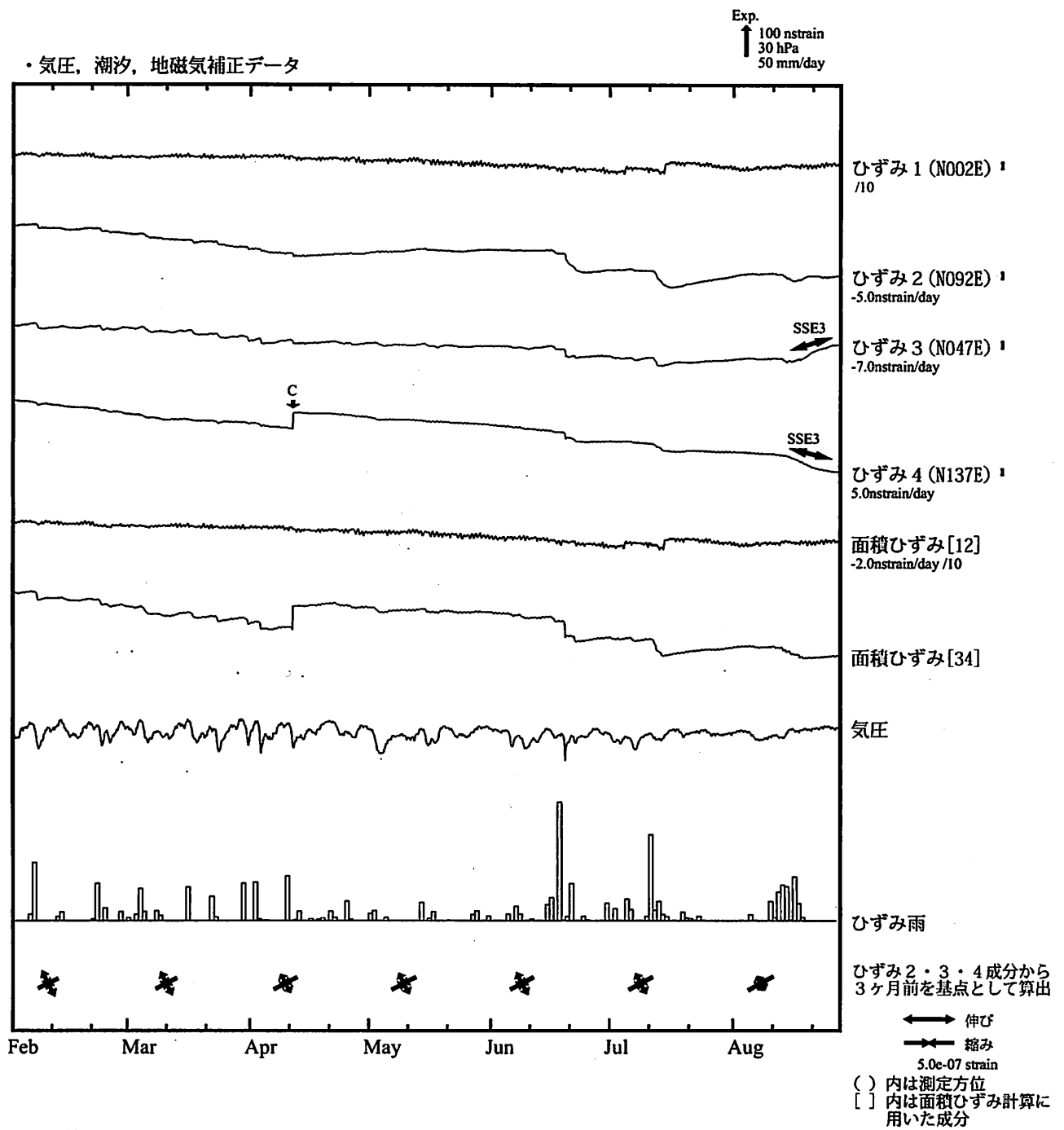
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップを除去して計算している。

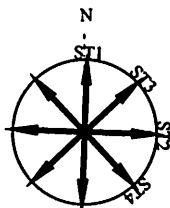
← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

浜松春野（はまつはるの）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。



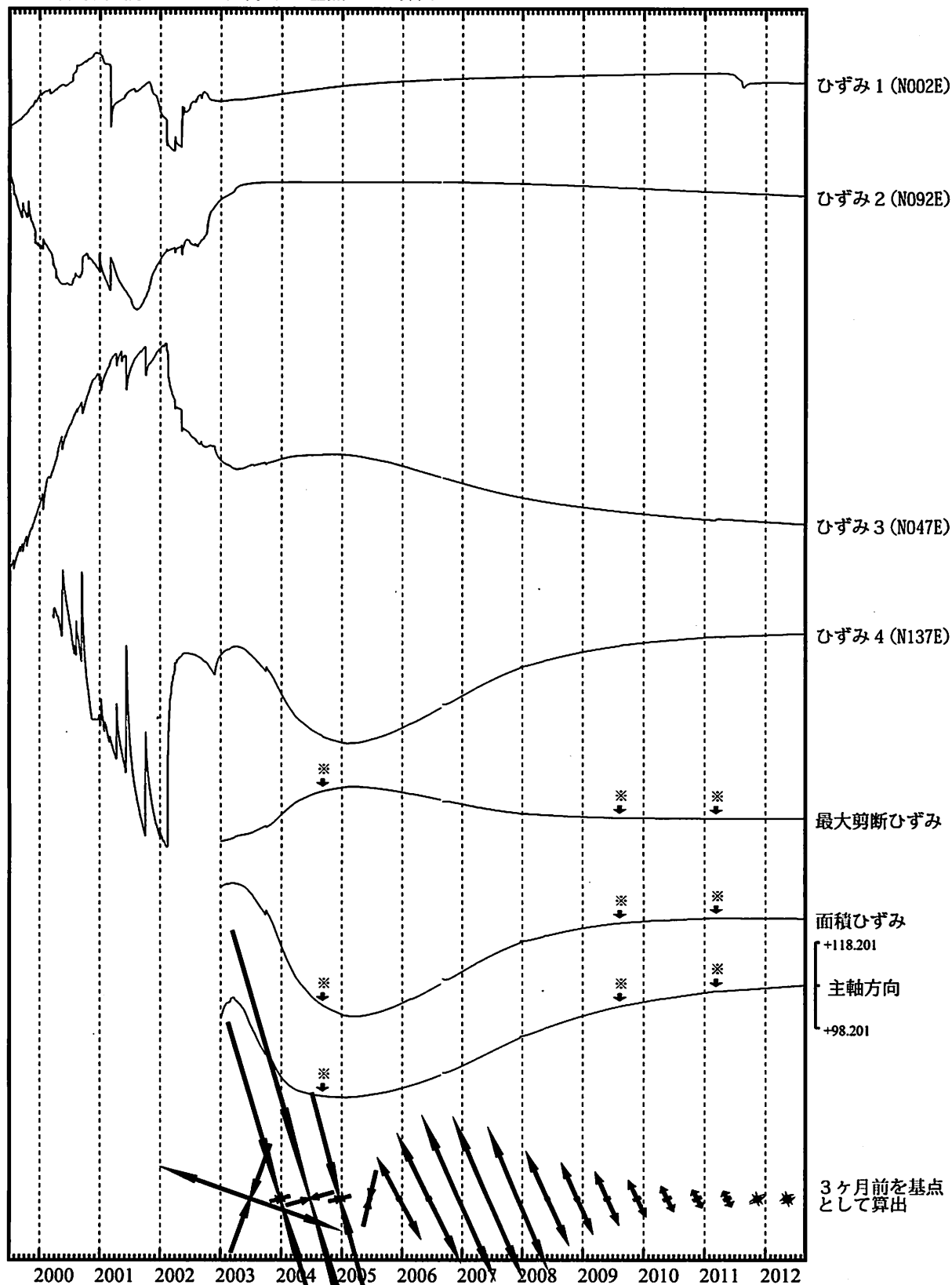
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

浜松春野ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ2、3、4の
各方向成分から2003年1月1日を基点として算出

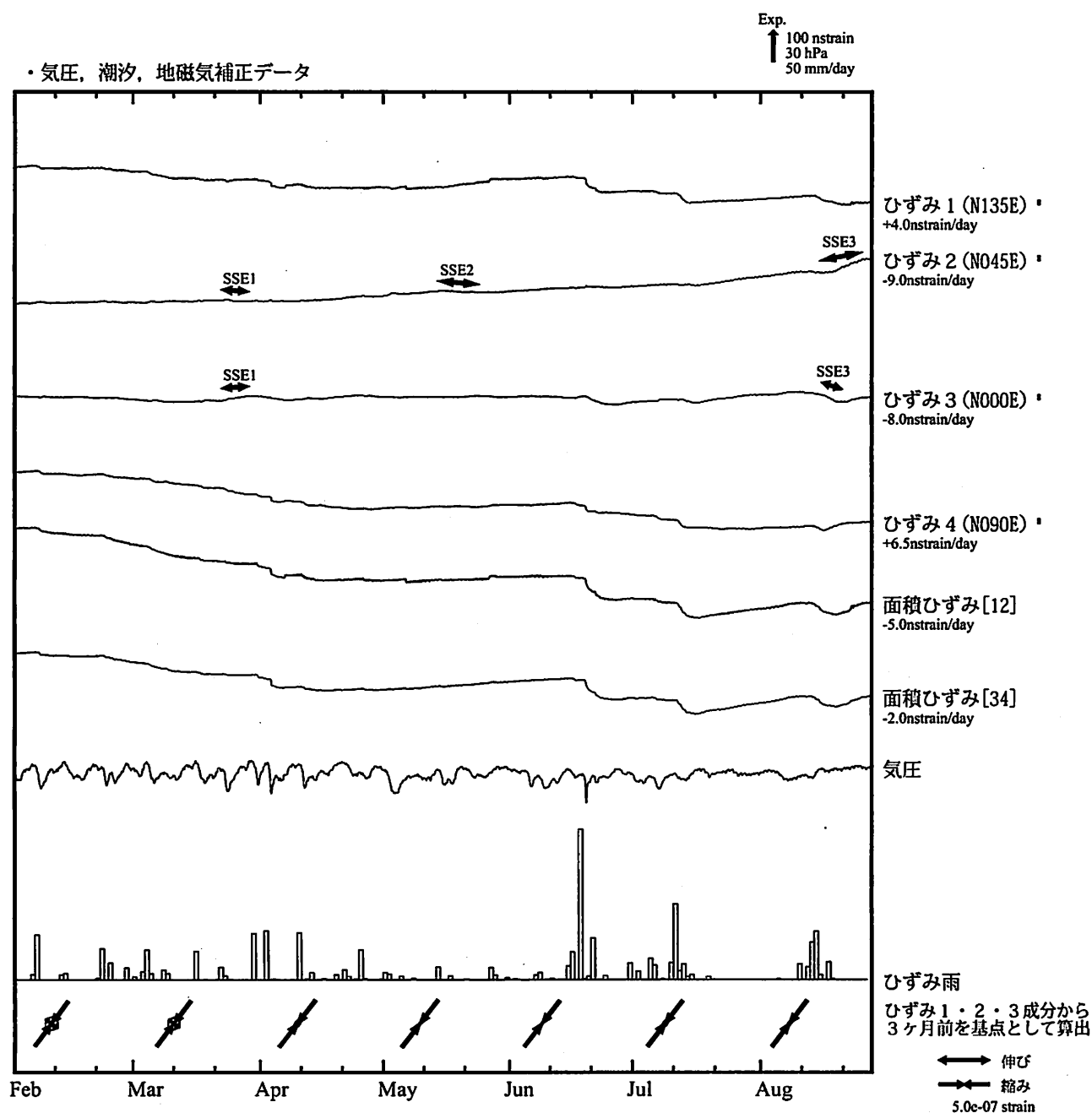
Exp.
↑ 20000 nstrain



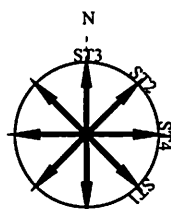
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップを除去して計算している。

気象庁作成

浜松佐久間（はまつさくま）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



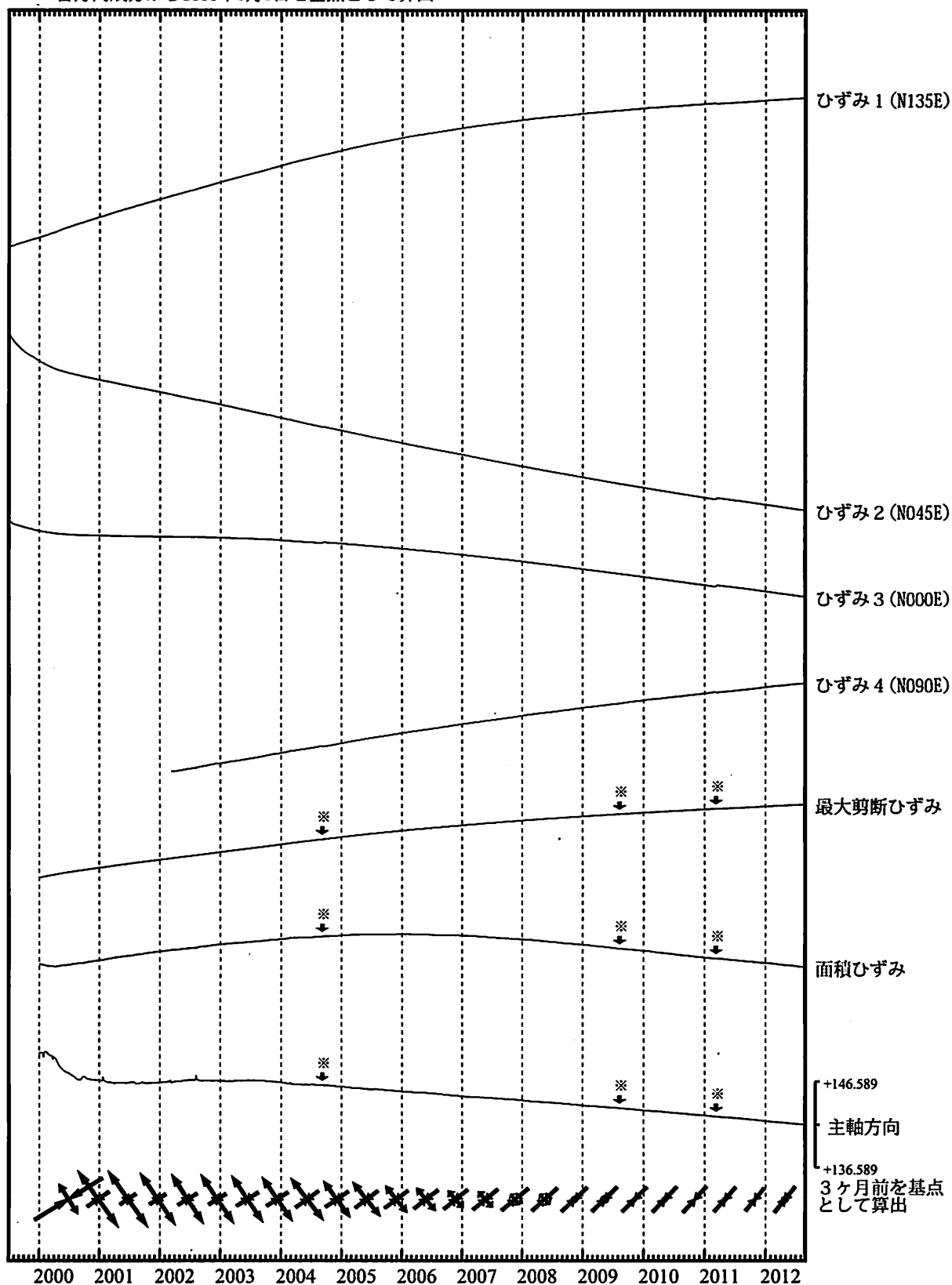
SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2012.03.23-03.28
SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2012.05.15-05.23
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

浜松佐久間ひずみ変化（日値）

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

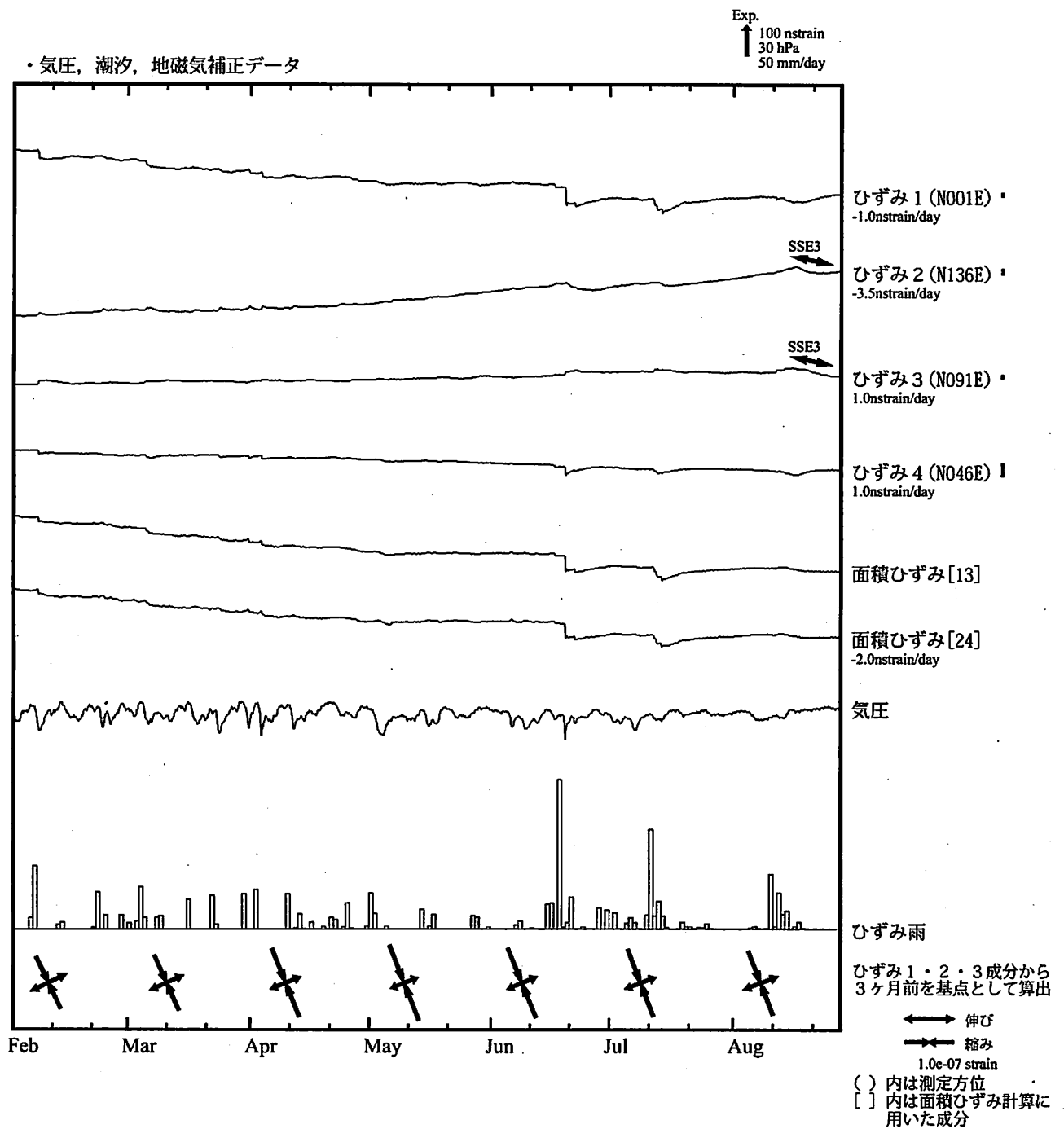
Exp.
↑ 10000 nstrain



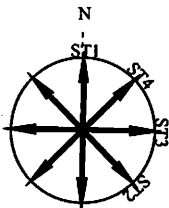
※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップを除去して計算している。

気象庁作成

川根本町東藤川（かわねほんちょうひがしふじかわ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



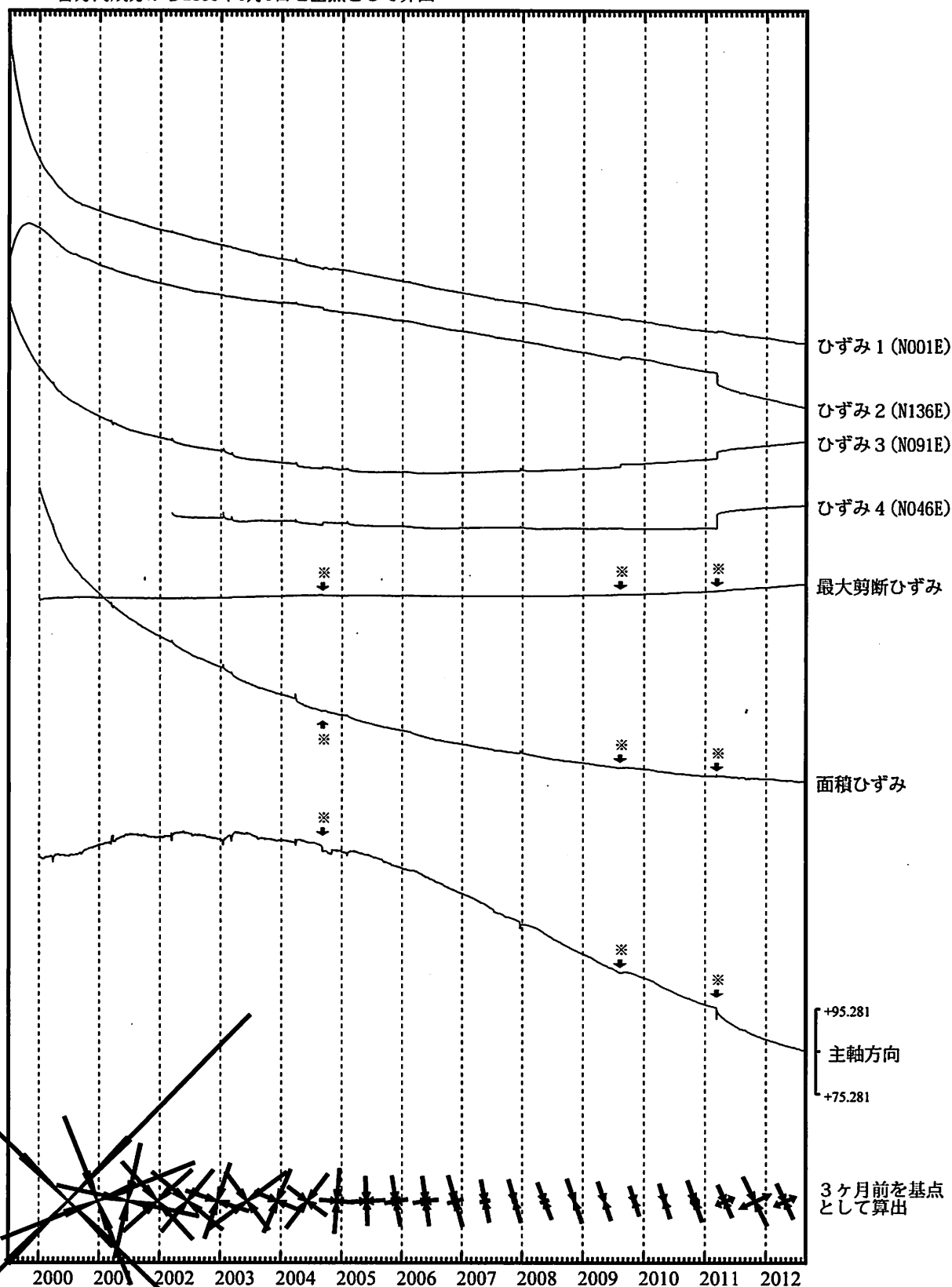
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

川根本町東藤川ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみおよび面積ひずみはひずみ1、2、3の
各方向成分から2000年1月1日を基点として算出

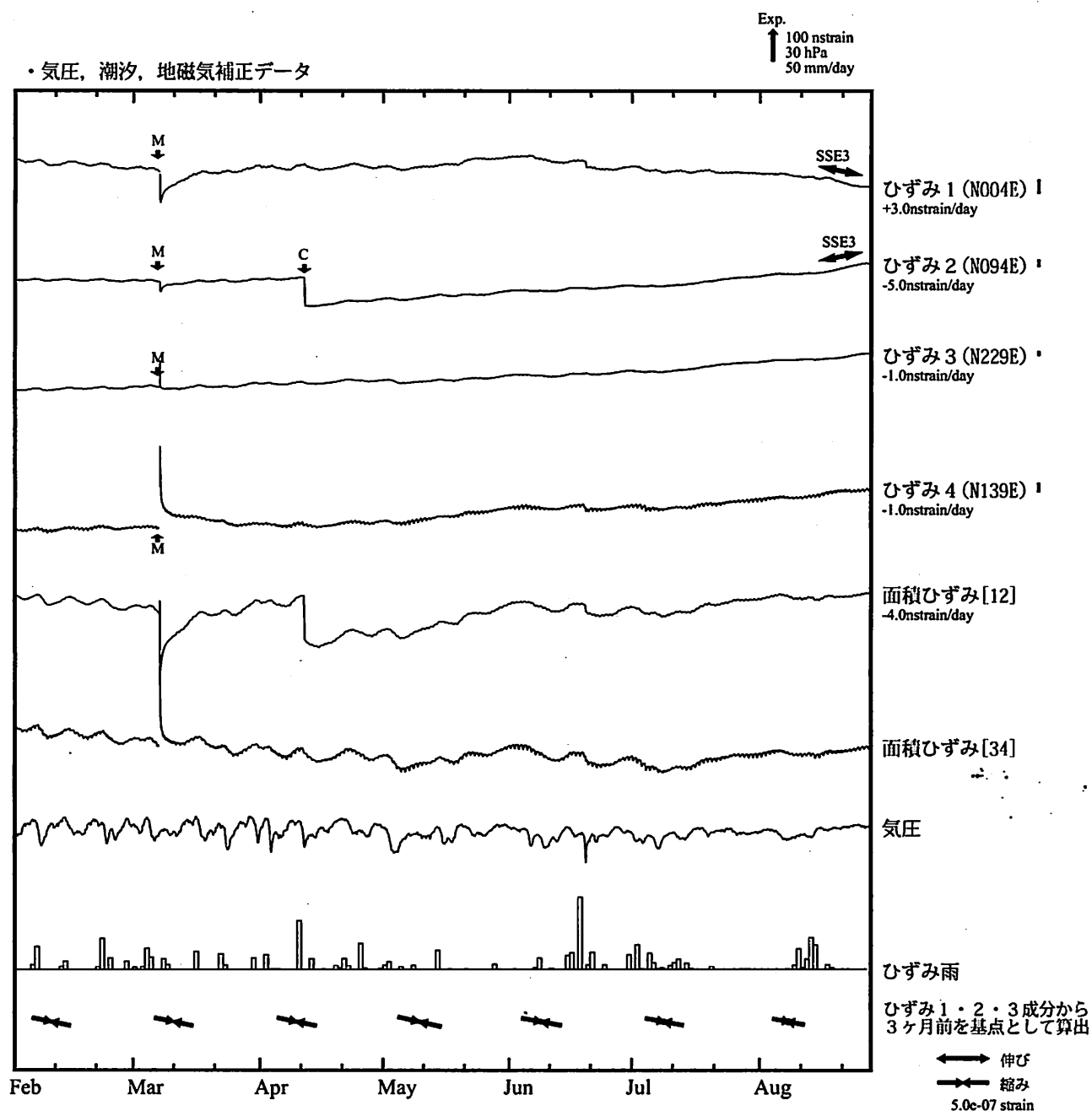
Exp.
↑ 2000 nstrain



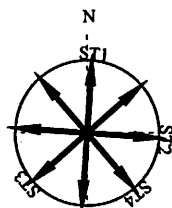
*最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うコサイスミックなステップを除去して計算している。

気象庁作成

浜松宮口（はまつみやぐち）ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



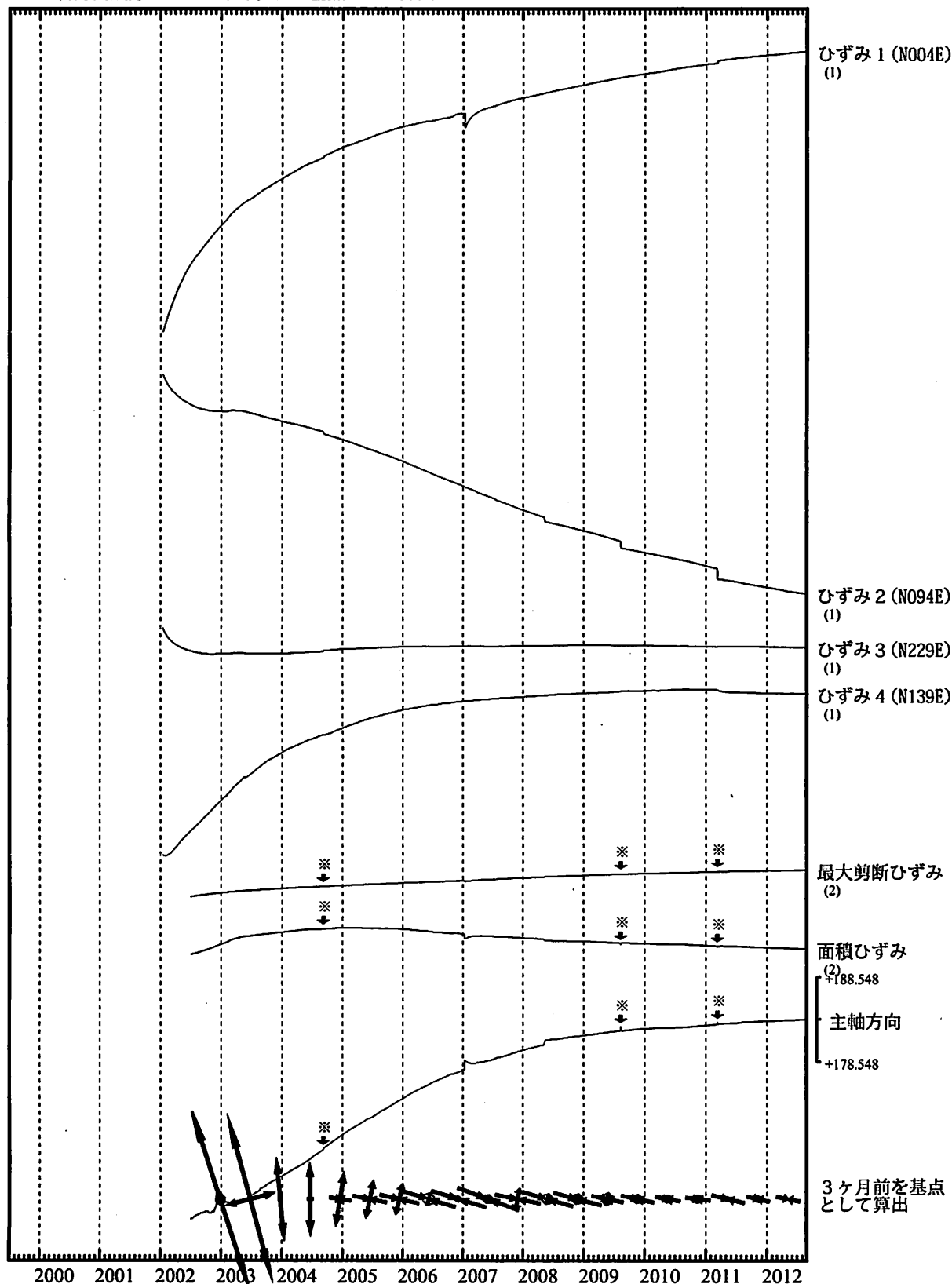
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

浜松宮口ひずみ変化 日値

・最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向はひずみ 1、2、3 の各方向成分から2002年7月1日を基点として算出

Exp.
↑ 5000 nstrain (1)
20000 nstrain (2)



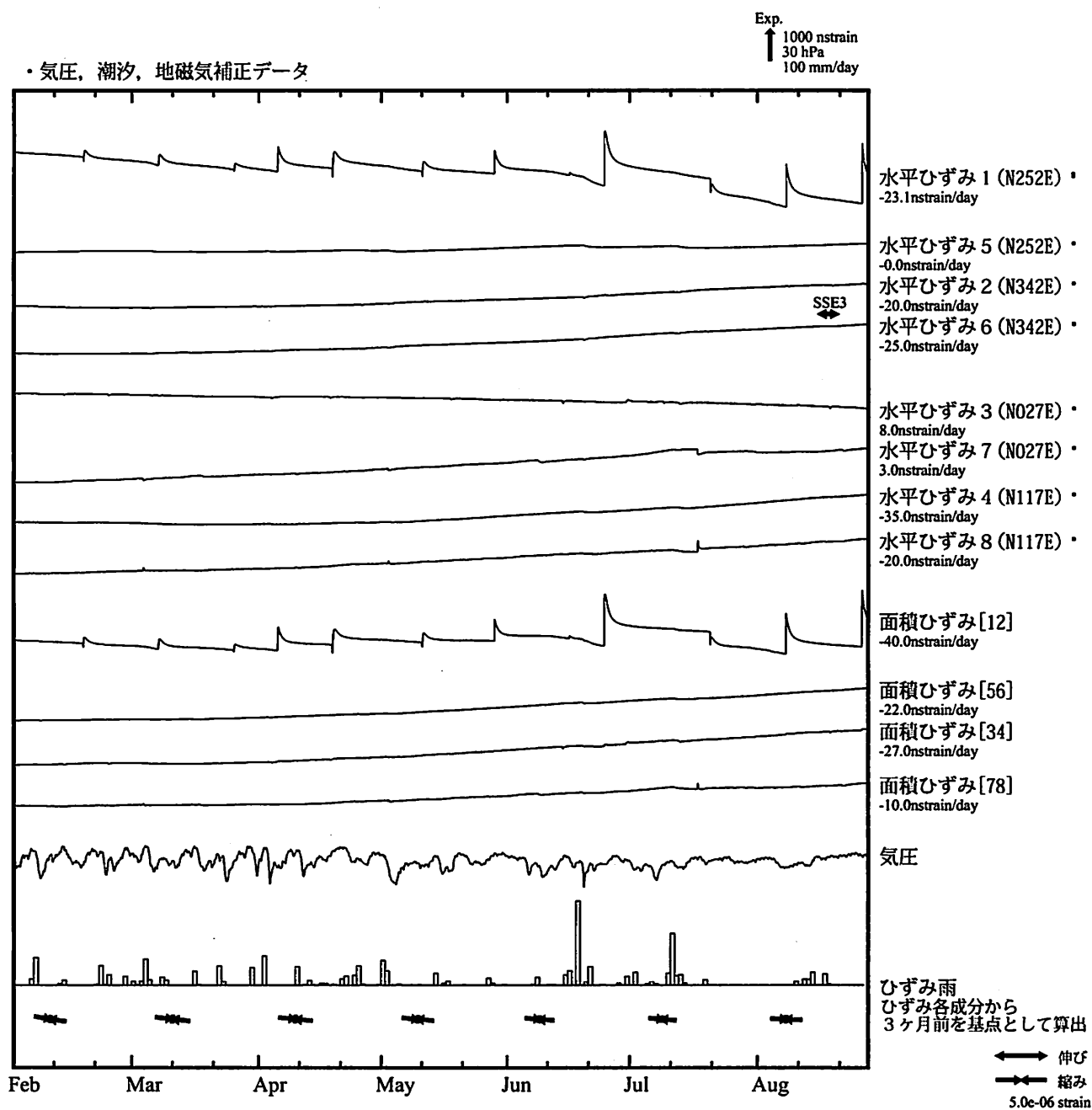
*各成分の括弧付き数字はスケールの番号に対応

※最大剪断ひずみ、面積ひずみおよび主軸方向は、東海道沖（紀伊半島南東沖）の地震、駿河湾の地震および東北地方太平洋沖地震に伴うステップを除去して計算している。

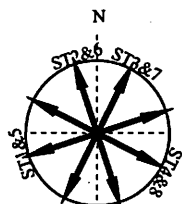
← 伸び
→ 縮み
1.0e-06 strain

気象庁作成

静岡落合（しずおかおちあい）ひずみ変化 時間値



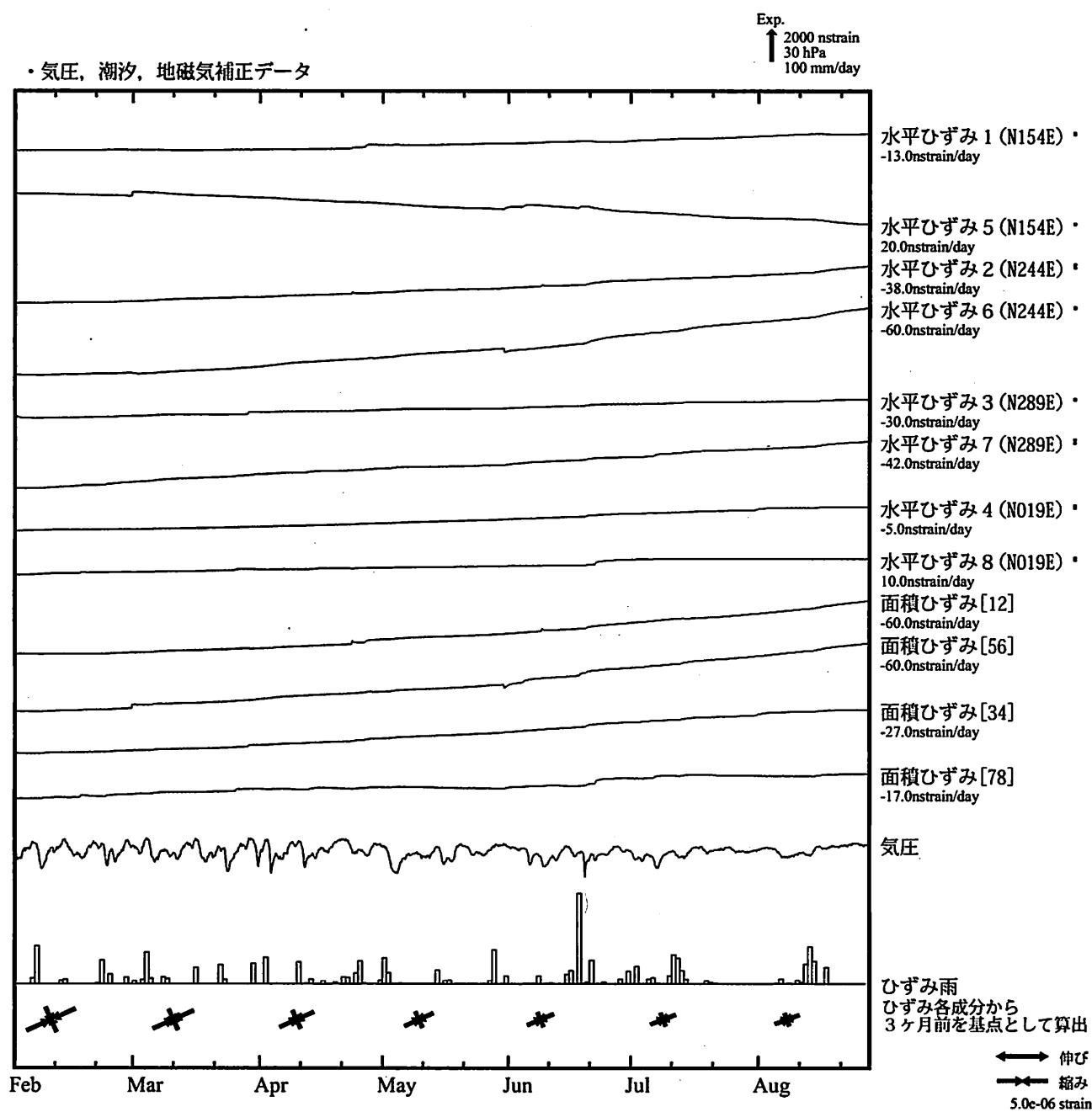
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

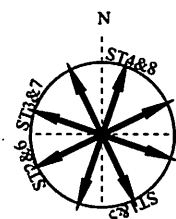
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

藤枝蔵田（ふじえだくらた）ひずみ変化 時間値



() 内は測定方位
[] 内は面積ひずみ計算に
用いた成分

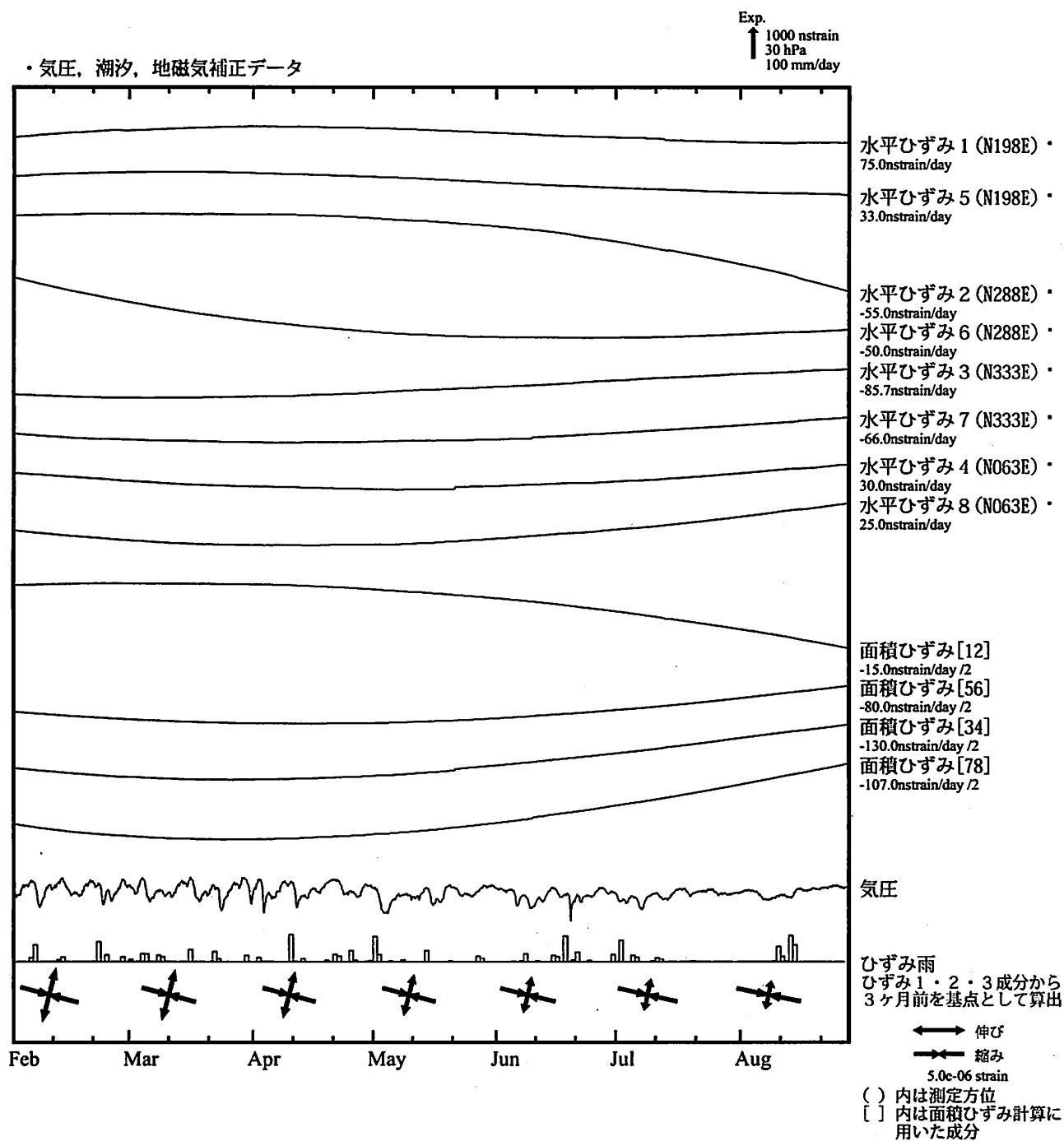
※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。



SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

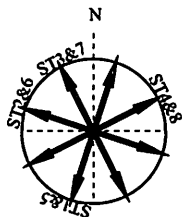
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

掛川高天神（かけがわたかてんじん） ひずみ変化 時間値



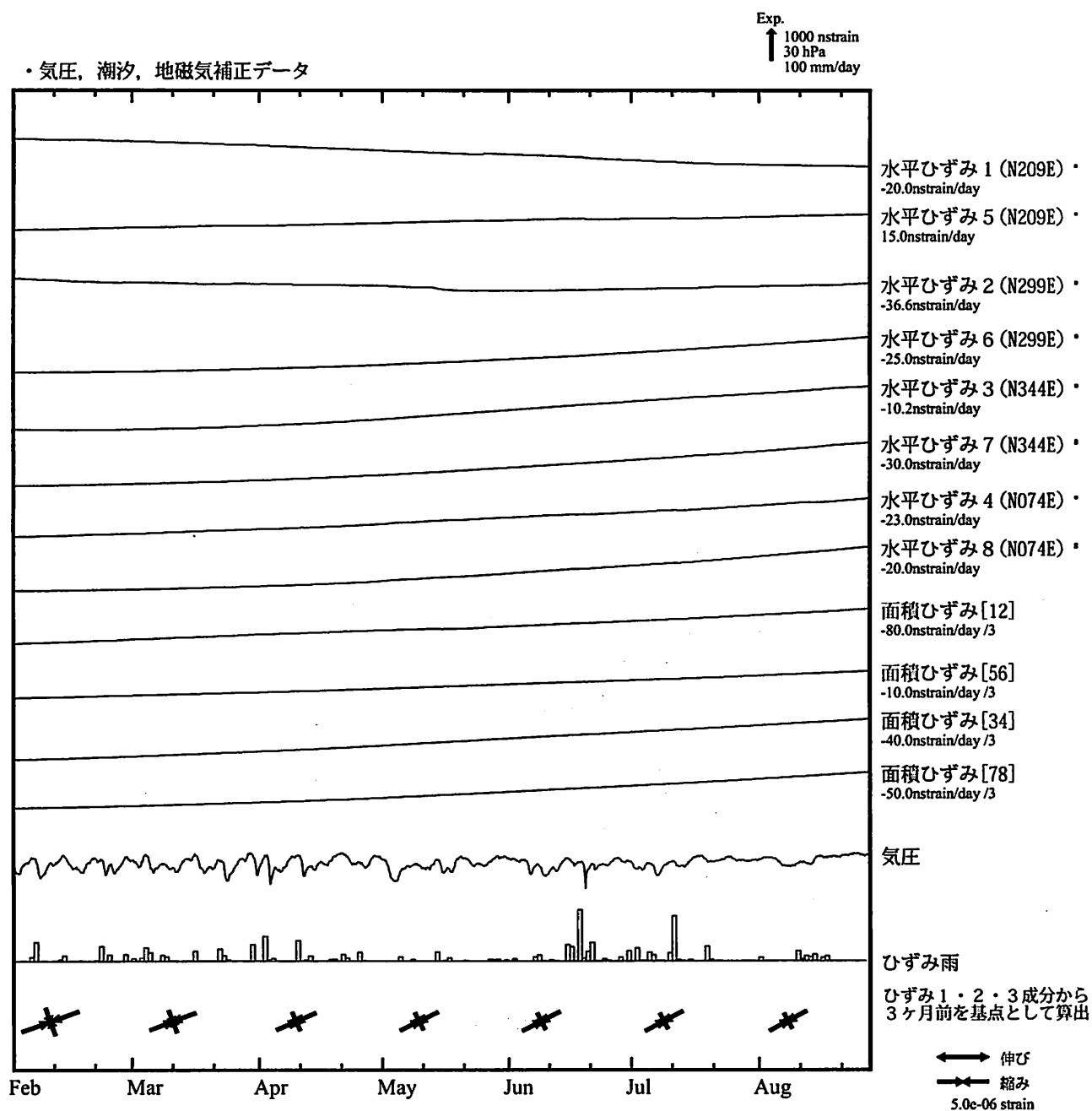
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。



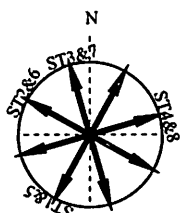
- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

売木岩倉（うるぎいわくら）ひずみ変化 時間値



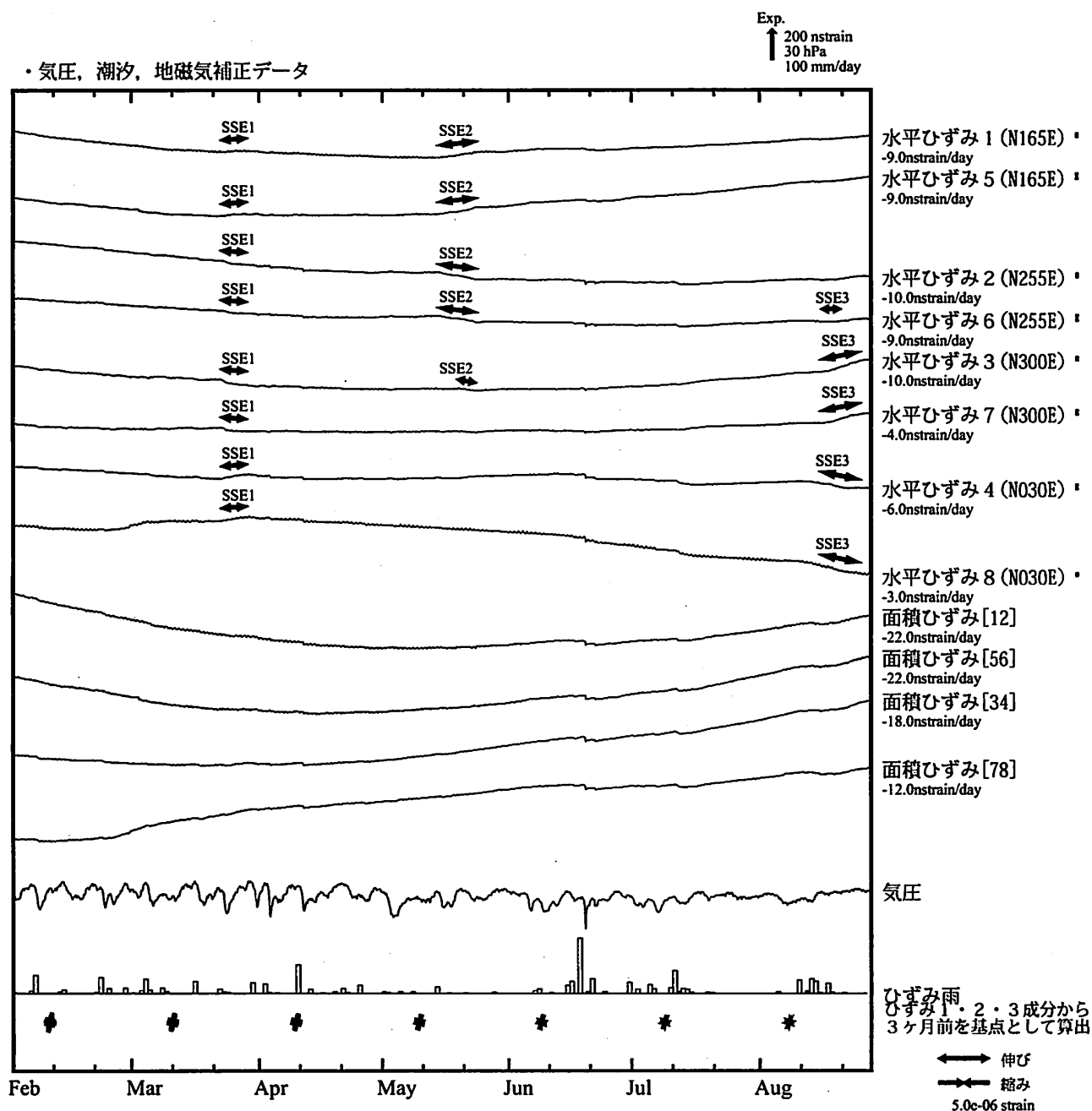
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の変化の幅(ノイズレベル)を示す。

・特記事項なし。

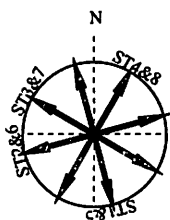


- C : 地震に伴うステップ状の変化
- L : 局所的な変化
- S : 例年見られる変化
- M : 調整
- T : 障害

新城浅谷（しんしろあさや） ひずみ変化 時間値



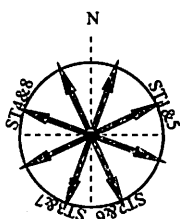
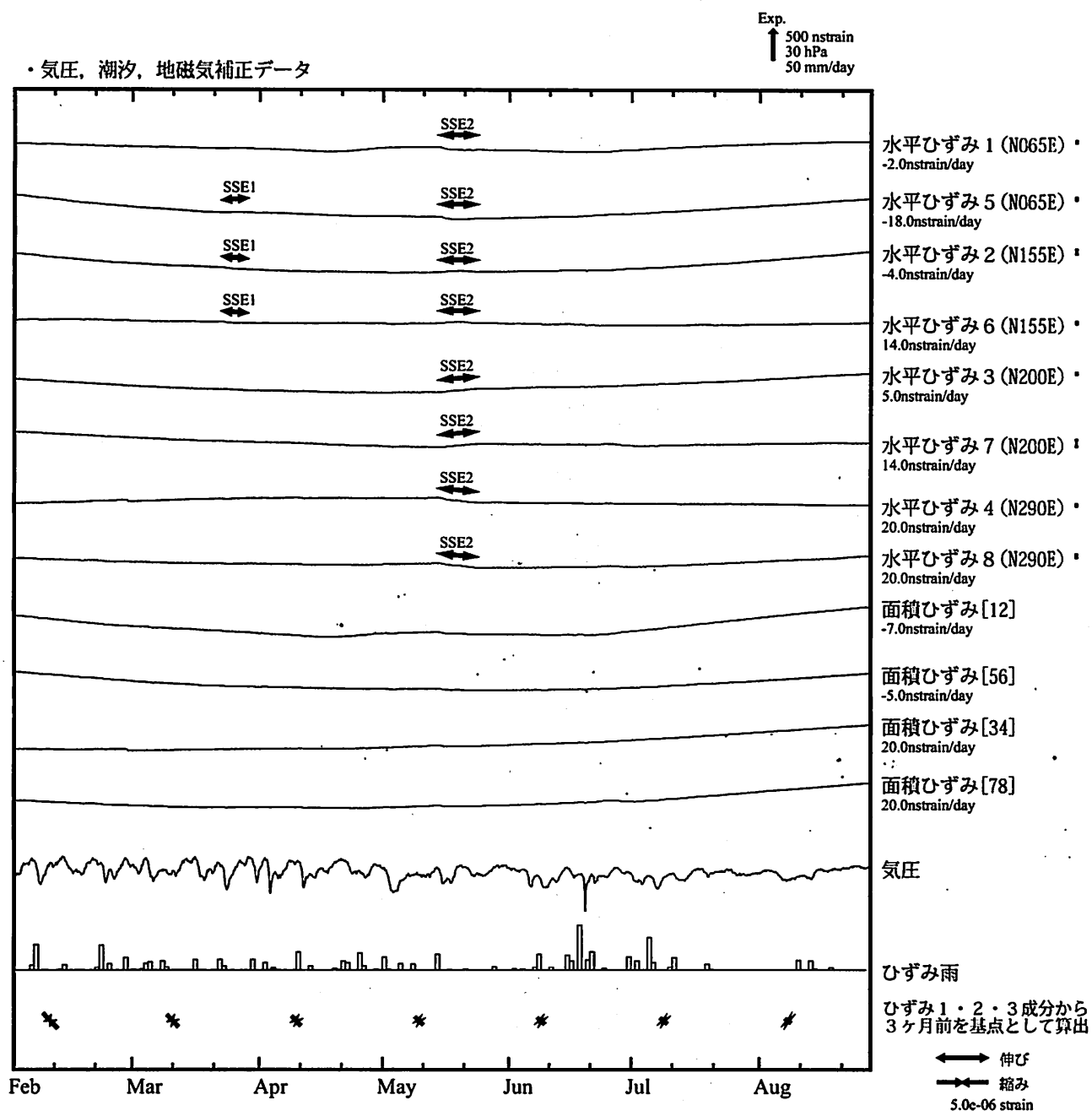
※観測点名の右側のスケールは、平常時に1日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。



SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2012.03.23-03.28
SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2012.05.15-05.23
SSE3 : 短期的ゆっくり滑り 2012.08.16-08.25

C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

田原高松（たはらたかまつ） ひずみ変化 時間値



※観測点名の右側のスケールは、平常時に 1 日間で変動し得る最大の变化の幅(ノイズレベル)を示す。

SSE1 : 短期的ゆっくり滑り 2012.03.23-03.28
SSE2 : 短期的ゆっくり滑り 2012.05.15-05.23

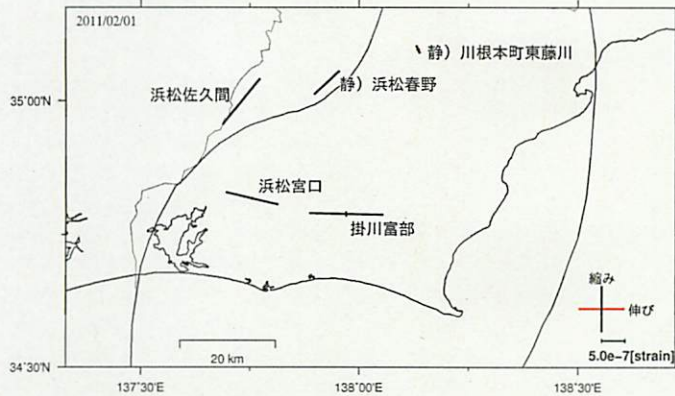
C : 地震に伴うステップ状の変化
L : 局所的な変化
S : 例年見られる変化
M : 調整
T : 障害

多成分ひずみ計データ

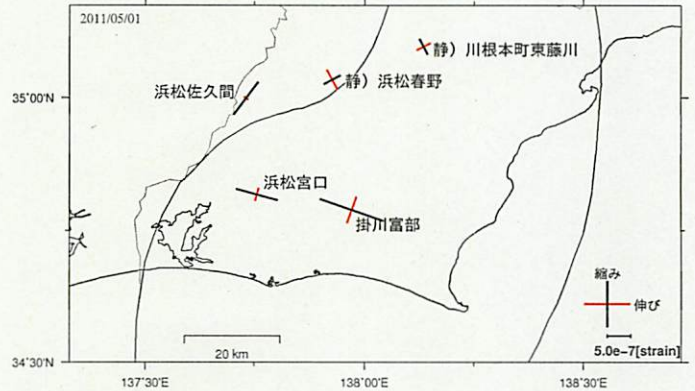
ひずみ1・2・3成分(浜松春野は、2・3・4成分)から90日前を基準として算出

2011.02.01～2012.08.27

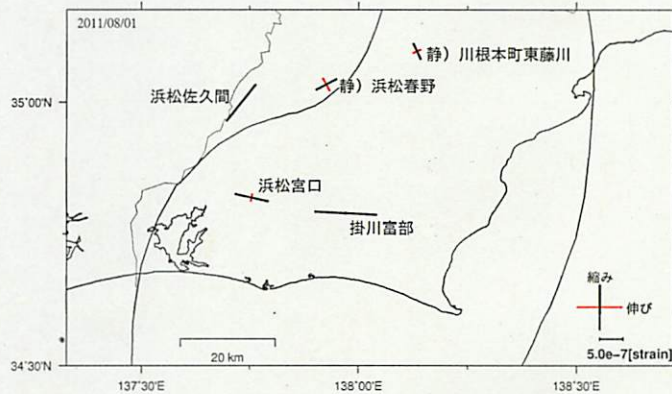
基準日:2010/11/03 比較日:2011/02/01



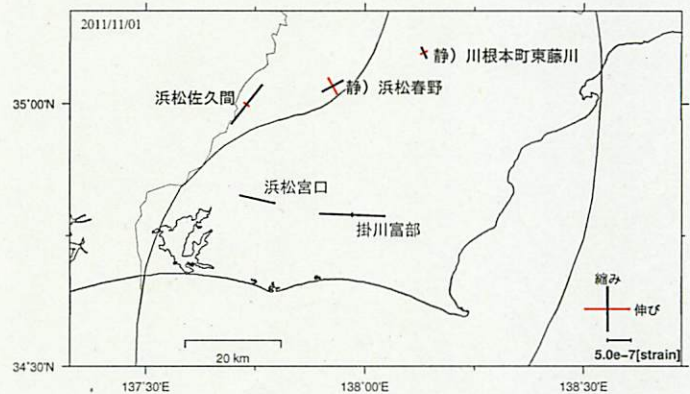
基準日:2011/01/31 比較日:2011/05/01



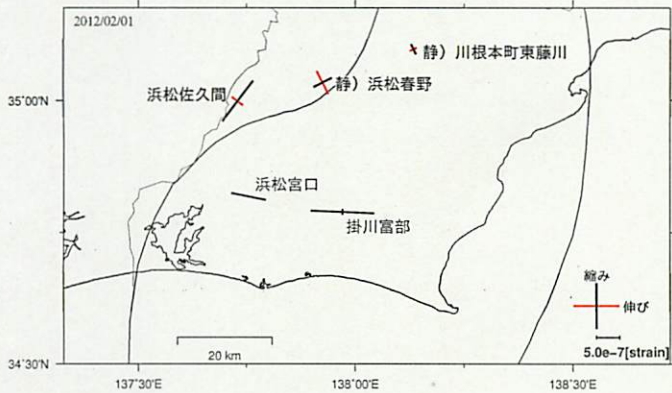
基準日:2011/05/03 比較日:2011/08/01



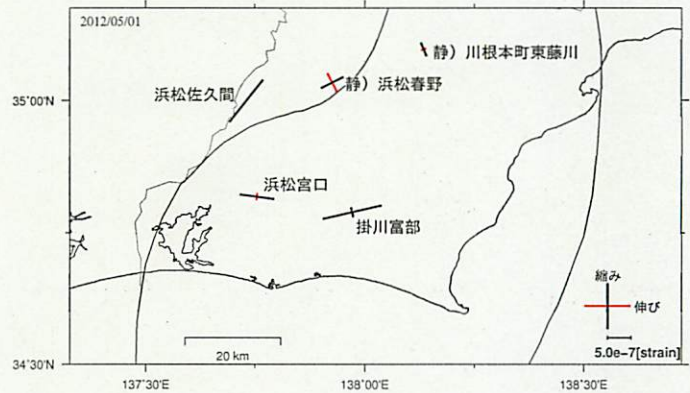
基準日:2011/08/03 比較日:2011/11/01



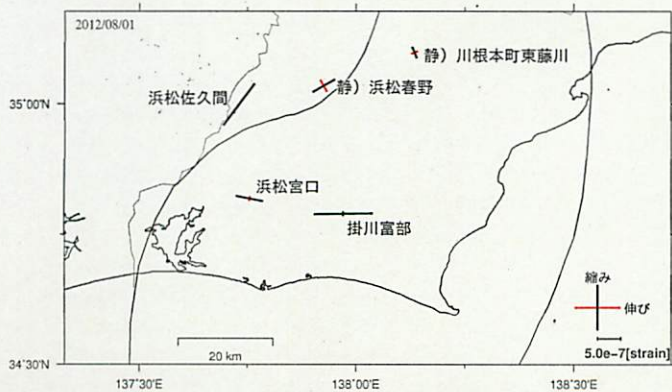
基準日:2011/11/03 比較日:2012/02/01



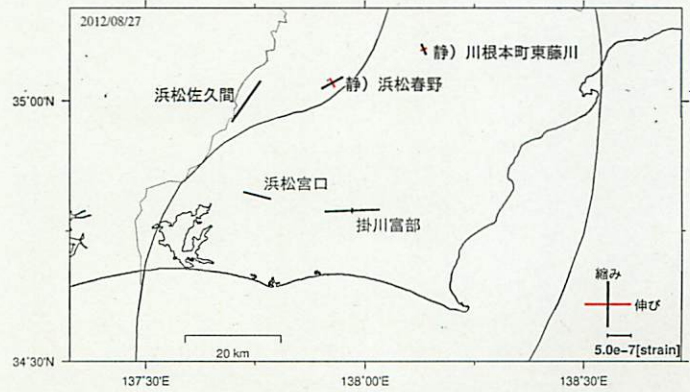
基準日:2012/02/01 比較日:2012/05/01



基準日:2012/05/03 比較日:2012/08/01



基準日:2012/05/29 比較日:2012/08/27

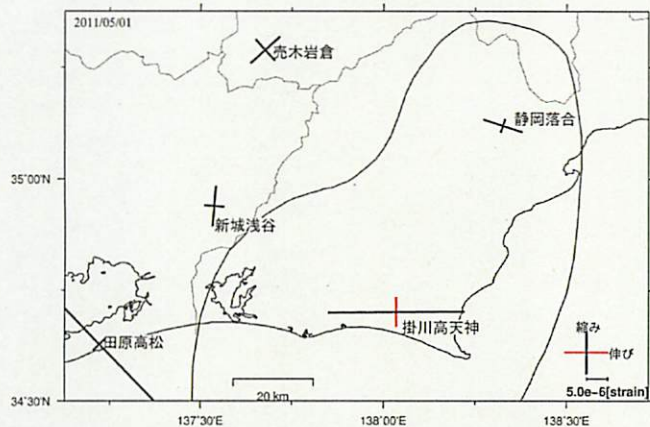


多成分ひずみ計データ 新設点

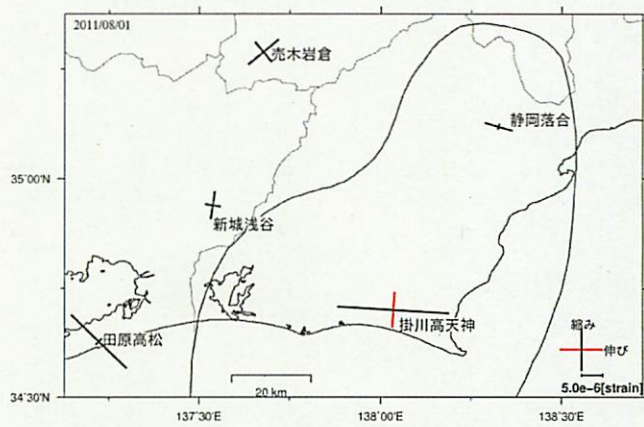
ひずみ1・2・3成分から90日前を基準として算出

2011.05.01~2012.08.27

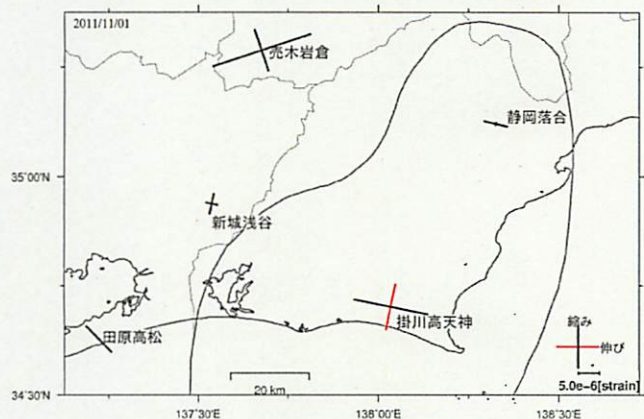
基準日:2011/01/31 比較日:2011/05/01



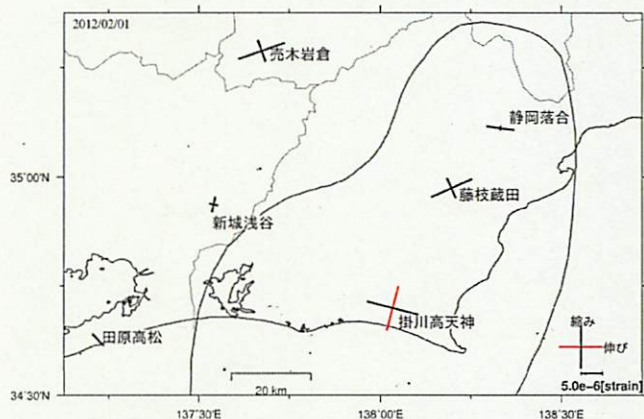
基準日:2011/05/03 比較日:2011/08/01



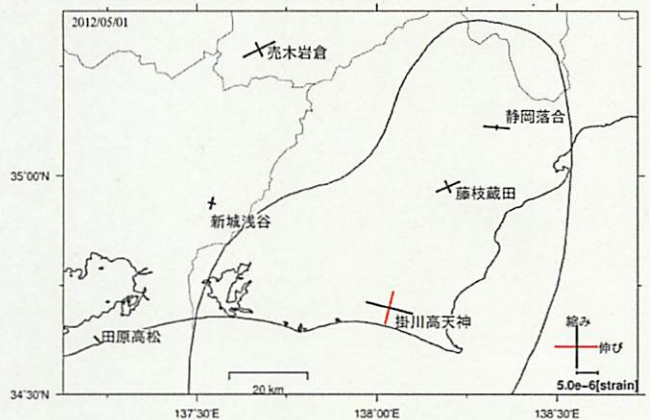
基準日:2011/08/03 比較日:2011/11/01



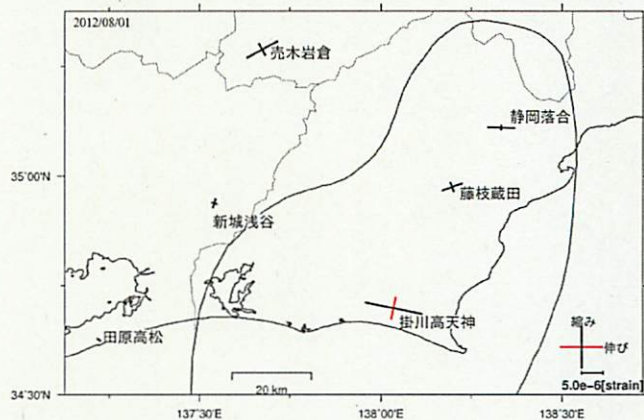
基準日:2011/11/03 比較日:2012/02/01



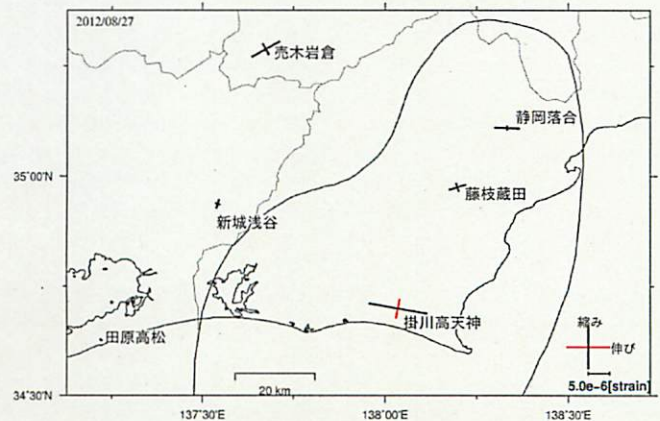
基準日:2012/02/01 比較日:2012/05/01



基準日:2012/05/03 比較日:2012/08/01

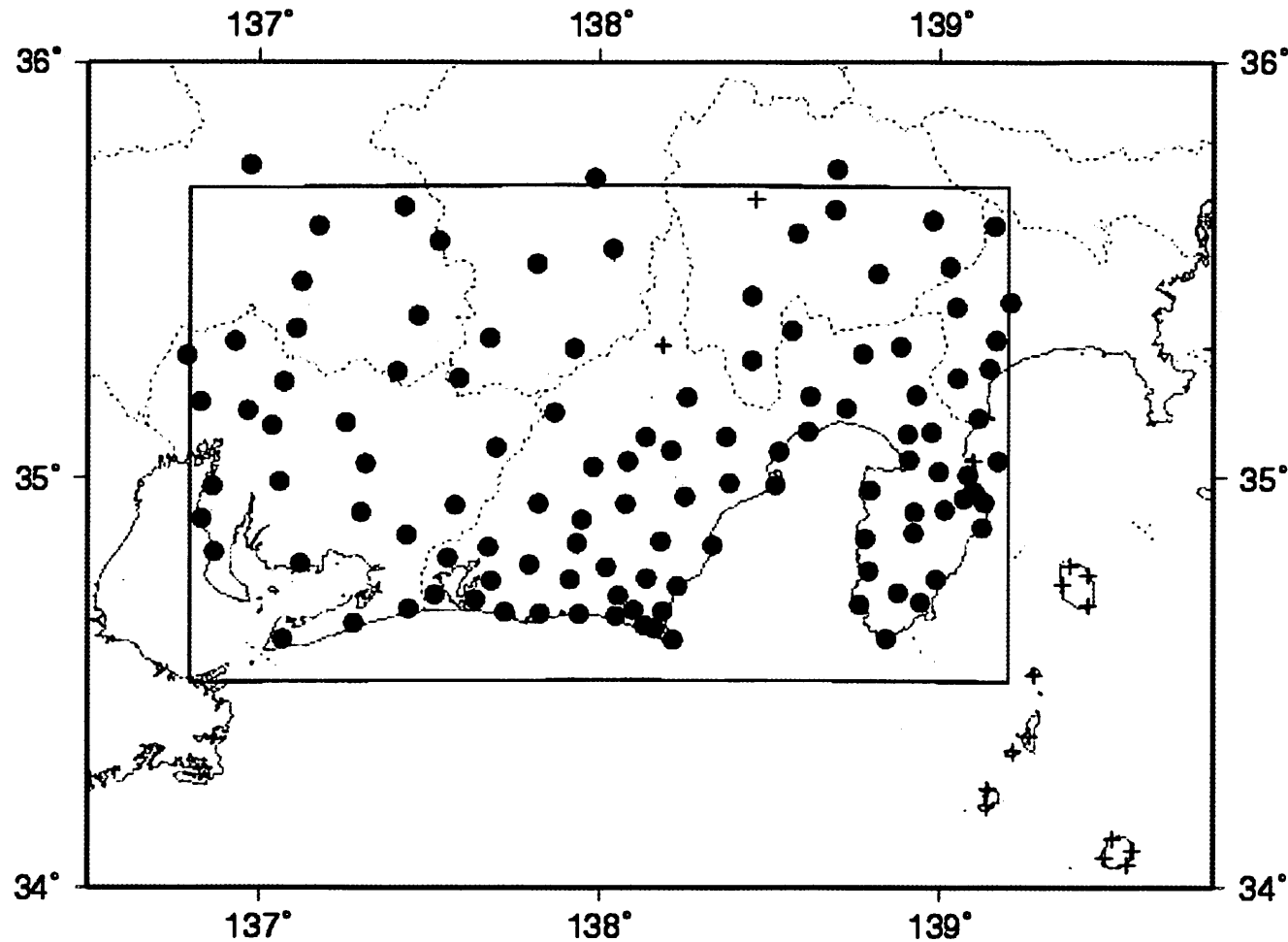


基準日:2012/05/29 比較日:2012/08/27



GNSS6時間値による面的監視

2012年8月27日現在
気象研究所・気象庁資料



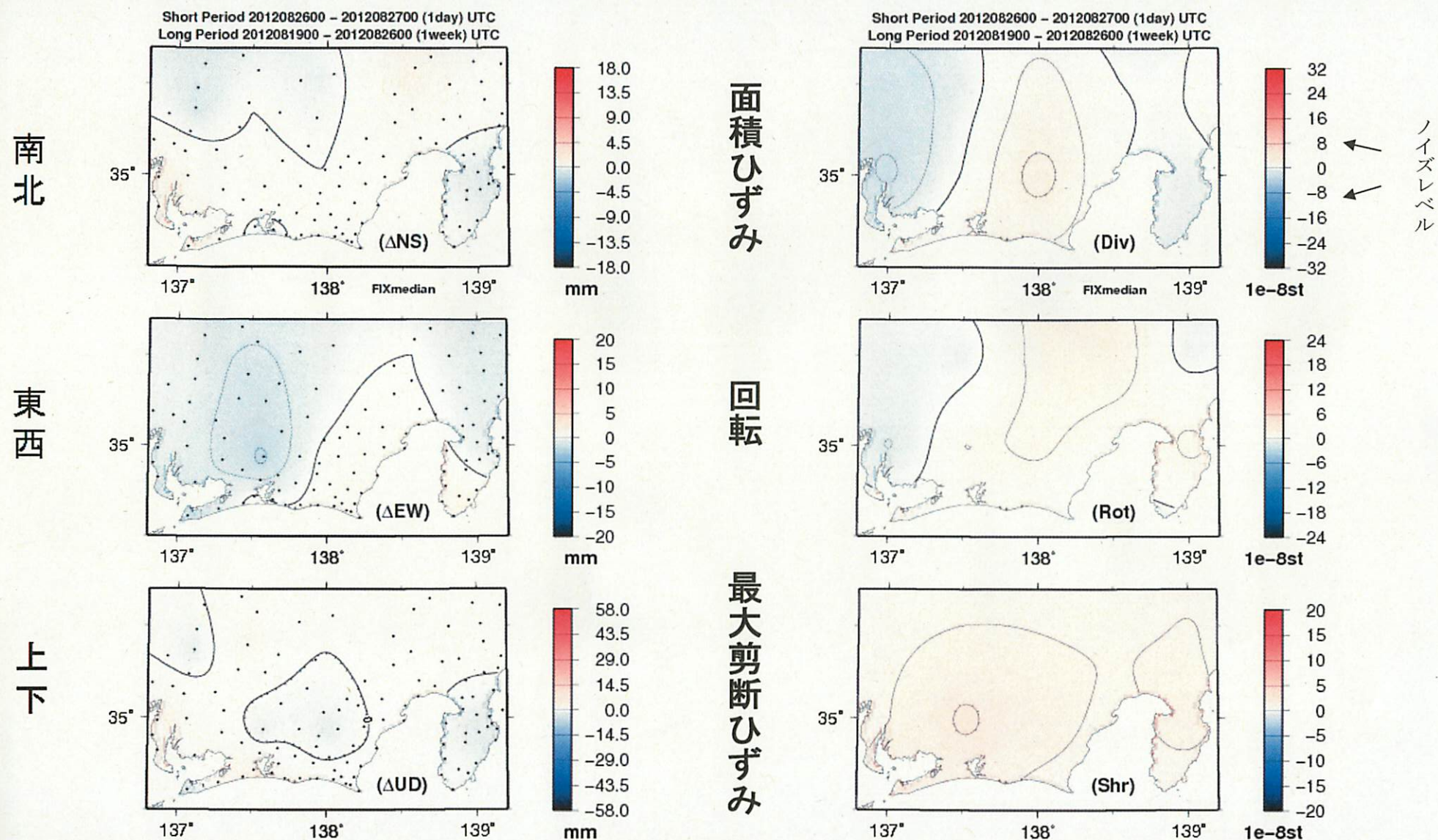
対象範囲(内側の矩形内)と使用観測点(●印)。+印の観測点はデータ不安定などにより今回の解析に使用していない。

東海地域におけるGNSS6時間値(国土地理院)を用いて、最近1日間、1週間と過去とを比較した。夏季に解析値のばらつきが見られるほかは特に目立った変位は見られない。

※GNSS(Global Navigation Satellite Systems)とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

気象庁・気象研究所作成

最近1日間とその前1週間との比較

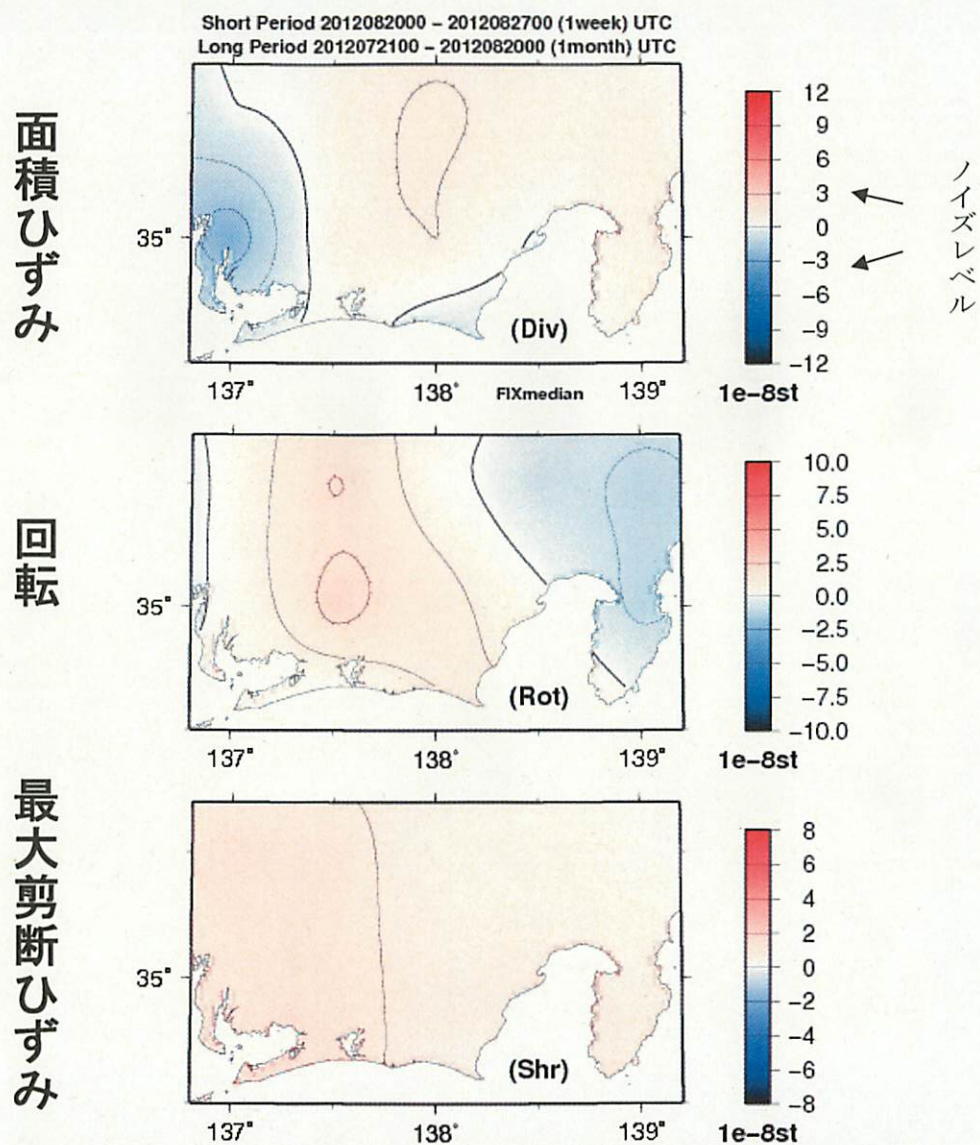
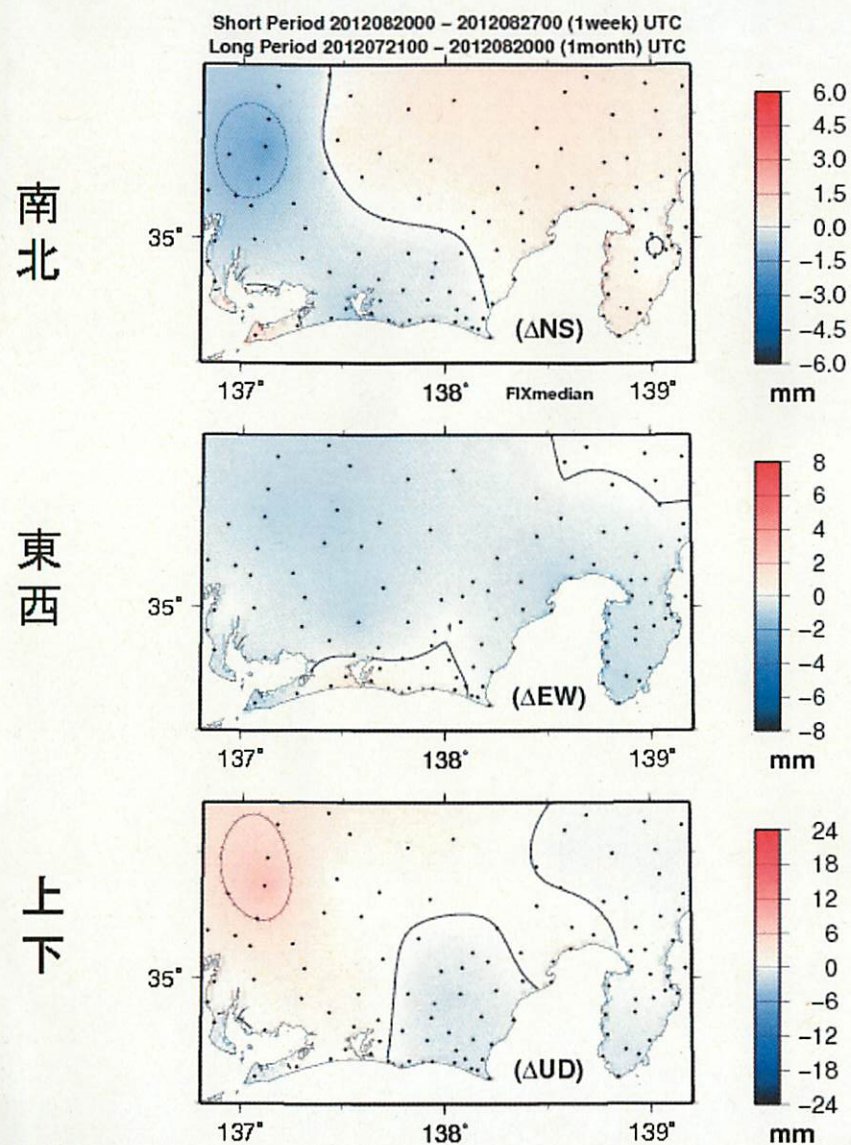


対象期間：2012/08/26 00:00 - 2012/08/27 00:00(1day)

基準期間：2012/08/19 00:00 - 2012/08/26 00:00(1week)

気象庁・気象研究所作成

最近1週間とその前1ヶ月間との比較

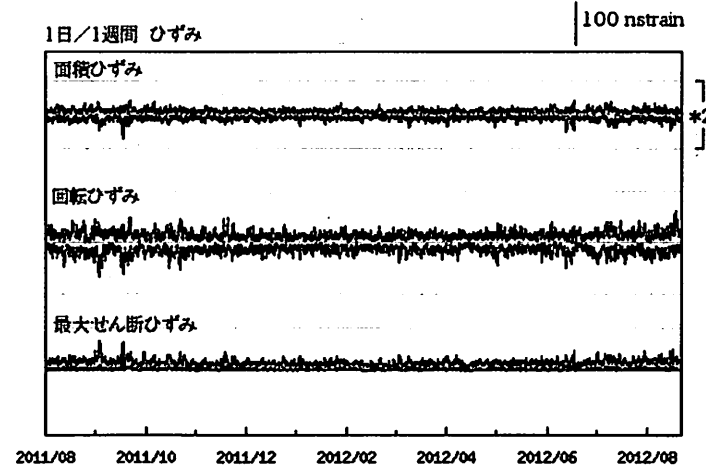
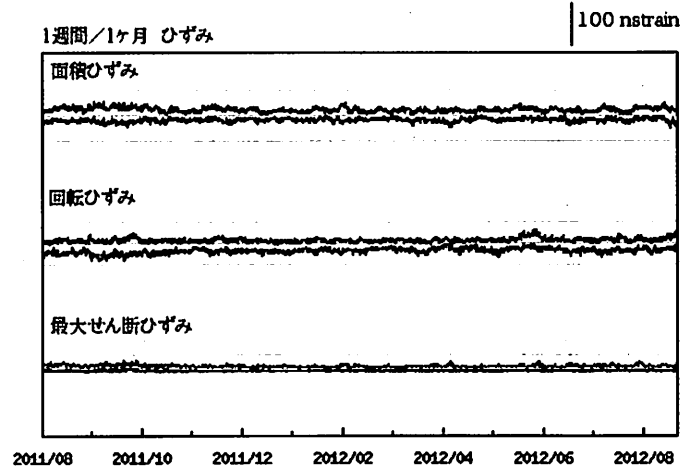
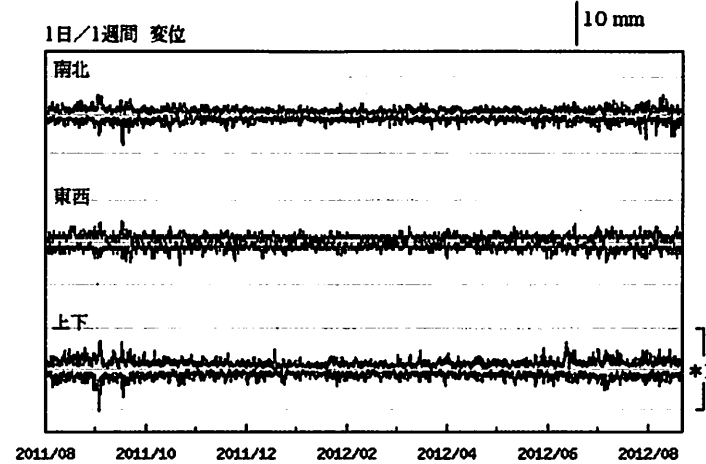
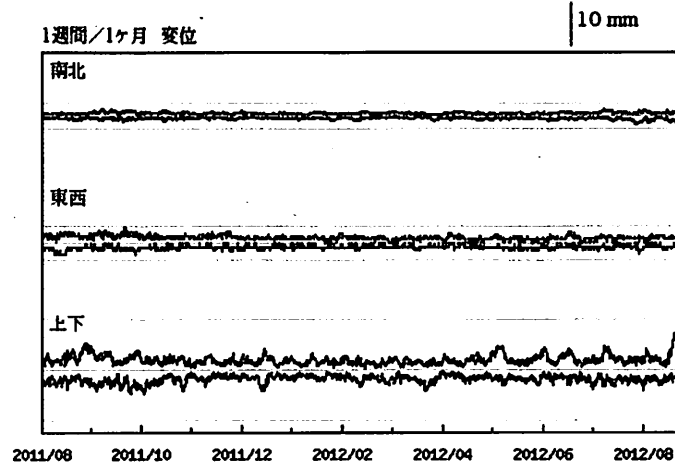


対象期間：2012/08/20 00:00 - 2012/08/27 00:00(1week)

基準期間：2012/07/21 00:00 - 2012/08/20 00:00(1month)

最近1年間(2011年8月1日00:00～2012年8月27日00:00)の 面的監視による対象範囲内の最大値の経過

(前ページまでのカラーマッピングはこれらのグラフの右端の状況。)



夏季に解析値のばらつきが見られる。

点線はノイズレベルであり、異常検知のしきい値。しきい値は、2006年1月～2007年12月の2年間分のデータを元に、1年に1回出現する最大値・最小値を把握できる値を求め設定。

* 1)の上下成分の1日-1週間は振幅を1/3倍、* 2)の発散ひずみ成分の1日-1週間は振幅を1/2倍にしてある。

GNSS 日値による面的監視（南海トラフ沿い；余効除去）

南海トラフ沿いの地域について紀伊水道を境に東西二つに分け、GNSS 日値 F3 解（国土地理院）を用いて、①最近 1 ヶ月間とその前の 3 ヶ月間の座標変化（各期間の中央値の差から 2 ヶ月間の変位）、②最近 1 ヶ月間と 1 年前の 1 ヶ月間との座標変化（1 年間の変位）、およびそれぞれ水平成分から計算したひずみを面的監視手法で見た。GNSS 座標値は観測点ごとに定常変位と見なされる期間の直線トレンドを除去しており、年周変化は補正していない。また、主な地震に伴うオフセットと、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震に伴う余効変動を差し引いている。

今期間の解析結果には、特に目立った変位は見られない。

※GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称。

① 最近 2 ヶ月間の変位とひずみ

南北

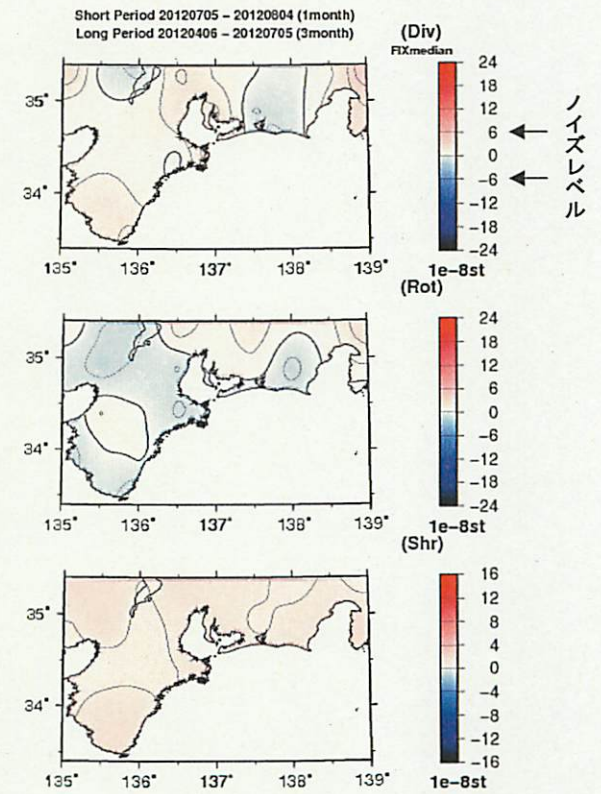
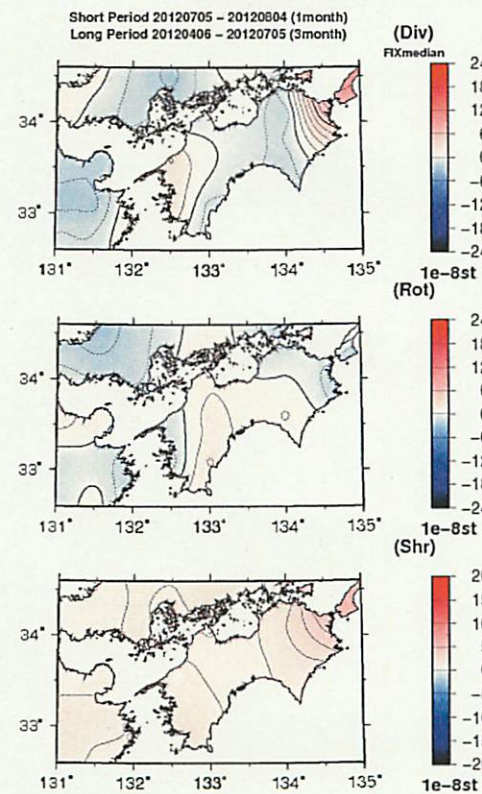
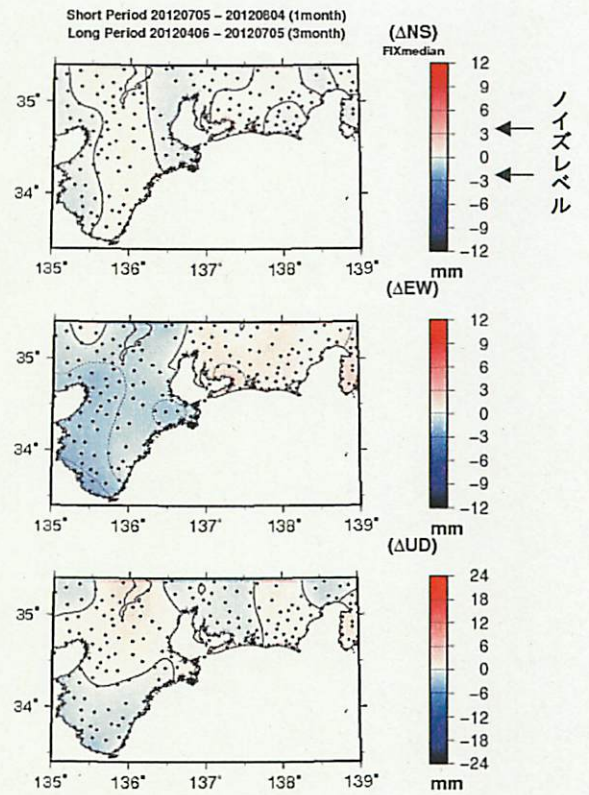
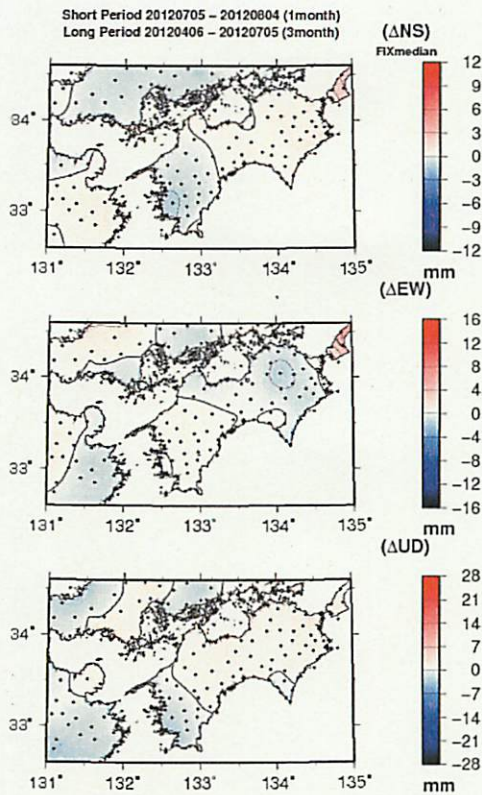
東西

上下

面積ひずみ

回転

最大せん断



対象期間：2012/07/05-2012/08/04(1month)

基準期間：2012/04/06-2012/07/05 (3month)

特に目立った変化は見られない。

気象庁・気象研究所作成

②最近 1 年間の変位とひずみ

南北

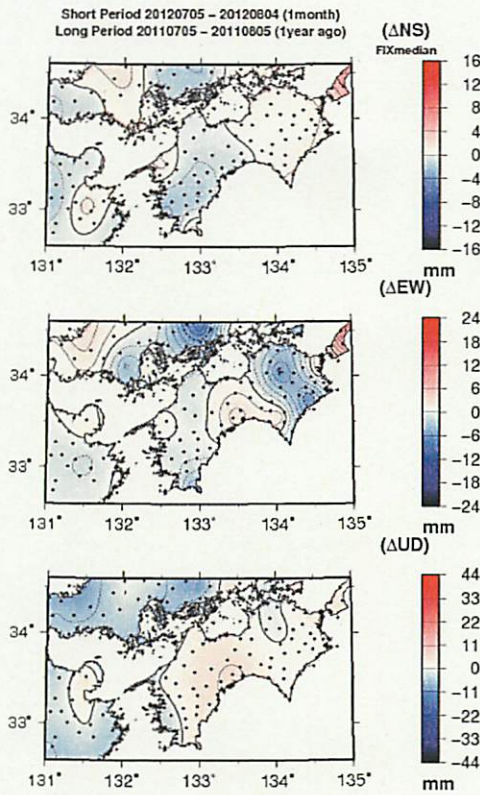
東西

上下

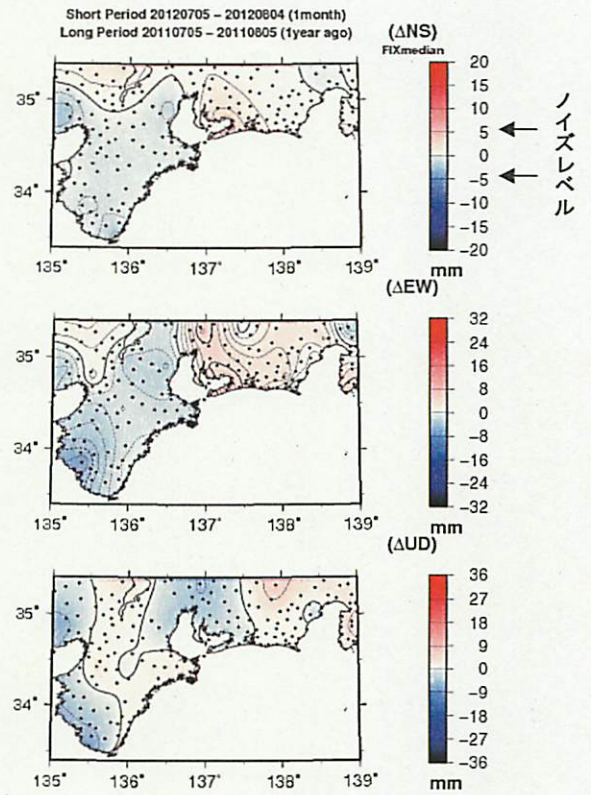
面積ひずみ

回転

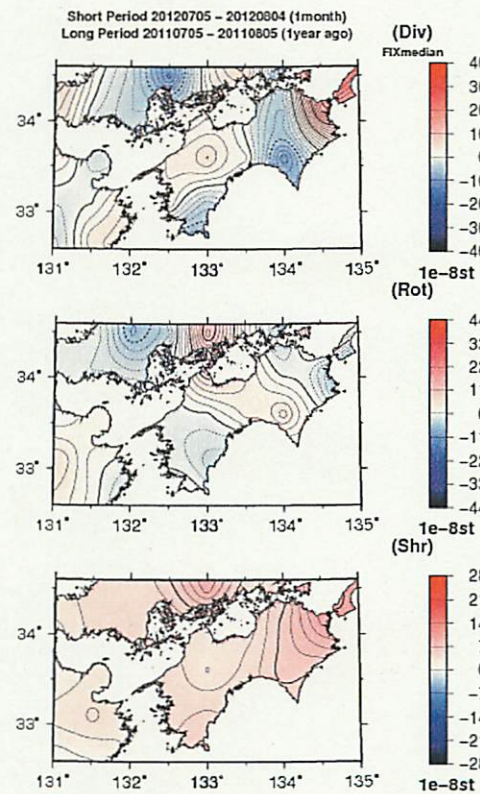
最大せん断



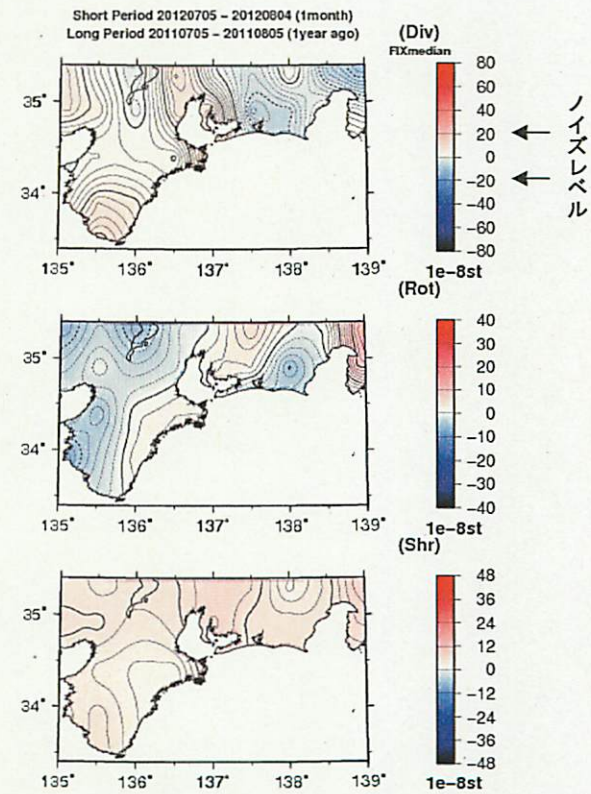
ノイズレベル



ノイズレベル



ノイズレベル



ノイズレベル

対象期間 : 2012/07/05-2012/08/04 (1month)

基準期間 : 2011/07/05-2011/08/05 (1month)

特に目立った変化はみられない。

気象庁・気象研究所作成